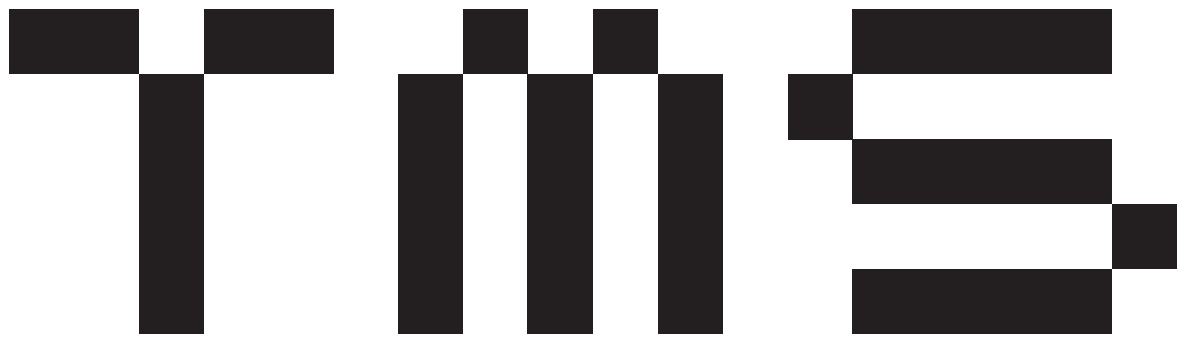


世界を、ここから動かそう。



BEYOND THE MOTOR



TOKYO MOTOR SHOW 2017

日本語版

NEWS

会場案内図掲載



## いままでたくさん、愛してくれてありがとう。

自動運転ができるようになって、クルマをとりまく環境がどれだけ変わっても、  
どうしても忘れたくないものがあります。

はじめてハンドルを握ったときのゾクとするあの感覚。

夜中にひとりで音楽を聴きながら走るあの自由。

自分のクルマに名前をつけてみたり、一緒に写真を撮って飾ってみたりするあの喜び。

エンジンの振動が鼓舞してくれる勇氣。何もかもを忘れさせてくれるあの風。

クルマはやはりエモーショナルな存在で、そのことをとても大切にしていきたい。

テクノロジーとエモーションが融合してはじめてクルマは未来の道を走り始めるはずです。

だから私たちは、愛という言葉に核に進化をする決意をしました。

もっともっと愛されるにはどうしたらいいか。エモーショナルな喜びはまだ進化できるはずです。

そして、私たちはテクノロジーを使って「あなたを愛しはじめるクルマ」をつくることにしました。

あなたを知り、あなたを学び、あなたをインスパイアする。

これから始まる新しいクルマとひとの関係。

いままでたくさん愛してもらったクルマからの恩返しのはじまりです。

未来から振り返ると2017年は大きな分岐点になっていることでしょう。

クルマから愛を、もっと。

START YOUR IMPOSSIBLE 

Tokyo Motor Show 2017

発進・加速はゆるやかに。エコドライブを心がけよう。トヨタ自動車(株) お客様相談センター ☎0800-700-7700 9時~18時



発行  
一般社団法人 日本自動車工業会

製作  
株式会社 講談社ビジー

総合プロデューサー  
川端下誠

チーフプロデューサー  
宇井弘明

プロデューサー/プランニング  
齋藤英一  
(株式会社講談社ビジー/Kai Office, Inc.)

■エディトリアルスタッフ  
本郷仁 飯干俊作 梅木智晴 市原信幸  
寺崎彰吾 坂本貴志 馬場武治 小野正樹  
古川賢治 渡邊龍生 飯嶋穂 林真人  
高瀬雄士 塩川雅人  
フォックウルフ/清水草一 谷津正行

■アカウントティングディレクター  
上西俊彦 廣部尚也 奥山文彦 小林康司  
深田啓介 大山剛 山本孟毅 佐々木美佳

■AD  
篠沢正行 (META+MANIERA)

■デザイン  
META+MANIERA

■翻訳  
株式会社 ダイナワード  
田澤夕香里

■協力  
臨海副都心まちづくり協議会  
株式会社 電通  
株式会社 ニコン  
株式会社 豊国印刷

■デジタルプレス  
タクトシステム 株式会社

■印刷  
大日本印刷 株式会社

07 第45回東京モーターショー2017  
世界を、ここから動かそう  
BEYOND THE MOTOR

08 第45回東京モーターショー2017概要

10 TOKYO CONNECTED LAB 2017

## 15 注目の展示車

28 注目の出展者案内①

28 トヨタ 30 ダイハツ 32 レクサス 34 三菱  
36 日産 38 スバル 40 スズキ 42 ホンダ  
44 マツダ 46 UDトラックス 48 三菱ふそう 49 日野

52 ブリーフィングレポート①

Map01 東京ビッグサイト会場案内図  
Map02 西1ホール  
Map04 西3・4ホール  
Map06 東1・2・3ホール  
Map08 東4・5・6ホール  
Map10 東7・8ホール  
Map12 TMS公式アプリの使い方

75 ブリーフィングレポート②

88 注目の出展者案内②

88 VW 90 アウディ 92 メルセデス・ベンツ  
94 日立オートモティブシステムズ 96 ジェイテクト  
98 富士通テン 100 アルパイン 102 パイオニア  
103 カルソニックカンセイ 104 デンソー 105 三菱電機  
106 住友ゴム 108 曙ブレーキ 109 ヤマハ/トヨタ車体  
110 ハーレーダビッドソン 111 シェフラー/NTN  
112 ボッシュ  
113 KYB/一般社団法人 道路交通情報通信システム

114 東京モーターショーオフィシャルグッズ/トミカ

115 東京モーターショーシンポジウム2017

116 全日本学生フォーミュラ大会参戦車両

117 オリンピック・パラリンピック等経済界協議会

## 118 試乗会案内

122 働くくるま、珍しいくるま大集合!

123 東京モーターショーガイド2017、自動車ガイドブック vol.64

126 東京モーターショー・ダイニング

127 東京ビッグサイトレストランガイド

128 グルメキングダム2017

130 臨海副都心エリア施設ガイド

134 スタンプラリーガイド



Innovation  
that excites

電動化技術 × 自動運転技術

ぶっちぎれ  
技術の日産



技術の日産が、  
人生を面白くする。

NISSAN INTELLIGENT MOBILITY

# アシタ未来研究所

ASHITA-MIRAI LAB. <PROJECT: E>

WELCOME TO OUR LAB, WHERE WE DEVELOP ALL KINDS OF "NEW MOTION."

WE AIM TO CHANGE THE "MIRAI" OF CARS.

AND DO WHATEVER WE CAN TO RESOLVE ENVIRONMENTAL PROBLEMS AND ELIMINATE TRAFFIC ACCIDENTS.

AND WE'RE WORKING TODAY AS WE DO EVERY DAY TO CONSTANTLY

RESEARCH AND TEST THE POSSIBILITIES.

ALWAYS ASKING THE SAME QUESTION.

IF WE DO THIS, WHAT HAPPENS?"

YOU MAY WELL BE USING THE RESULTING NSK TECHNOLOGY

A LOT SOONER THAN YOU THINK.

自在な動きは、  
まるで未知の生命体。

VARIOLINK  
SUSPENSION

高度な「止まる」技術には、  
明日を「動かす」チカラがある。

ELECTRIC  
BRAKE BOOSTER

クルマの次のスタンダードは、  
すでに足元から始まっている。

WHEEL HUB  
MOTOR FIT

より静かに、そして速く小さく。  
その「動き」はオイルで伝わる。

TRACTION<sup>2</sup>  
DRIVE

FLEX  
CORNER MODULE  
CONCEPT

「走る」「曲がる」「止まる」を、次の時代へ。

「アシタ未来研究所PROJECT E」は、電気自動車（EV）や自動運転など、さらなる電動化・電子化が進む自動車の「あたらしい動き」を開発する研究所。

そしてここから、自動車の次の時代を牽引する、

新しい「走る」「曲がる」「止まる」が続々と誕生しています。

その革新的な技術の数々を、ぜひみなさんの目で確かめてください。

— INFORMATION —

NSK 出展ブース: 東1・2・3 ホール No. E3302

MOTION & CONTROL™  
**NSK**  
日本精工株式会社

## 世界を、ここから動かそう。

クルマの進化は、これからどこへ向かうのだろう。その答えは、きっとひとつではない。もしかしたらそう遠くない未来、クルマという概念は今とはまるで違うものになるのかもしれない。けれど、思い出そう。クルマの本質とは何かを。それは人を動かすものだ。ココロを動かすものだ。私たちの可能性をひろげ、自由にするものだ。クルマが変われば、人やモノだけでなくもっと多くのものを動かせる。社会を前進させ、境界を超えて世界をもっと自由にできる。だからこそ東京モーターショーは、クルマという枠を超えて生まれ変わろうと思う。世界最先端のナレッジがぶつかりあい、新たなイノベーションやビジネスを生み出すイベントへと進化する。時代とともに成長しながらモビリティ産業の次のミッションを指し示す。さあ、回転数を上げよう。あらゆる境界を超えて、クルマの未来を拡張していく冒険のはじまりだ。

## BEYOND THE MOTOR



## TOKYO MOTOR SHOW 2017



# 第45回東京モーターショー2017

## The 45th Tokyo Motor Show 2017

### 開催概要

主催	一般社団法人 日本自動車工業会 (JAMA)	
共催	一般社団法人 日本自動車部品工業会 (JAPIA) 一般社団法人 日本自動車車体工業会 (JABIA) 一般社団法人 日本自動車機械器具工業会 (JAMTA) 日本自動車輸入組合 (JAIA)	
総裁	瑠子女王殿下	
会長	西川 廣人 (一般社団法人 日本自動車工業会 会長)	
会期	2017年(平成29年)10月27日(金)~11月5日(日)	
開場時間	プレスデー	10月25日(水) 8時00分~18時00分
		10月26日(木) 8時00分~13時00分
	特別招待日/障がい者手帳をお持ちの方の特別見学日*	10月26日(木) 13時30分~18時00分
	オフィシャルデー (開会式等招待者)**	10月27日(金) 9時00分~18時00分
	プレビューデー***	10月27日(金) 12時30分~18時00分
一般公開日	10月28日(土)~11月5日(日)	月~土曜日(祝日含む) 10時00分~20時00分
		日曜日 10時00分~18時00分
(開催時間は止むを得ない場合は変更し、時には入場を制限することがあります)		
入場料 (消費税込)	障がい者手帳をお持ちの方の特別見学日	無料(事前登録制)
	プレビューデー	3,500円 (枚数限定/小学生以下無料:保護者同伴)
	一般公開日	1,800円 (前売1,600円、日曜除く16時00分以降(当日会場売)900円)
	高校生	600円 (前売 500円、日曜除く16時00分以降(当日会場売)300円)
	中学生以下	無料
	障がい者手帳をお持ちの方(要手帳提示)	本人及び付添者1名(車いす利用者の場合2名まで)無料
会場	東京ビッグサイト 東京都江東区有明 3-11-1 【http://www.bigsight.jp/】	
後援	外務省、経済産業省、国土交通省、環境省、東京都、千葉県 国際自動車工業連合会(OICA)、日本貿易振興機構(ジェトロ)	
協賛	板硝子協会、自動車技術会、石油連盟、全国軽自動車協会連合会、全日本交通安全協会、全日本トラック協会、電子情報技術産業協会、電池工業会、特殊鋼倶楽部、日本アルミニウム協会、日本ゴム工業会、日本自動車会議所、日本自動車教育振興財団、日本自動車研究所、日本自動車整備振興会連合会、日本自動車タイヤ協会、日本自動車販売協会連合会、日本自動車連盟、日本照明工業会、日本損害保険協会、日本鉄鋼連盟、日本電機工業会、日本塗料工業会、日本バス協会、日本ばね工業会、日本ファインセラミックス協会、日本プラスチック工業連盟、日本ベアリング工業会、日本モーターサイクルスポーツ協会、日本陸用内燃機関協会 (五十音順)	

注\*事前登録制(障がい者手帳提示)。事前登録はこちらのページからおこなってください。  
\*\*開会式等の式典を実施する日 \*\*\*入場者数限定の入場券で入場可能な日

OICA:Organisation Internationale des Constructeurs d'Automobiles



### 会場(東京ビッグサイト)へのアクセス

ご来場は、公共交通機関をご利用ください。

#### りんかい線

「国際展示場」駅下車 徒歩約7分  
大崎駅(JR) ← 13分 [大人330円] → 国際展示場駅 ← 5分 [大人270円] → 新木場駅 (JR、東京メトロ)  
※ 大崎から新宿・大宮方面へ、JR埼京線相互直通運転

#### ゆりかもめ

「国際展示場正門」駅下車 徒歩約3分  
新橋駅 (JR、東京メトロ、都営地下鉄) ← 22分 [大人380円] → 国際展示場正門駅  
豊洲駅 (東京メトロ) ← 8分 [大人250円] → 国際展示場正門駅

#### 路線バス

(東京ビッグサイト・中央ターミナル)  
都営バス [大人210円](中央ターミナル発着)  
都05系統 (勝どき駅前経由):  
東京駅丸の内南口 ← 約40分 → 東京ビッグサイト  
東16系統 (豊洲駅前経由):  
東京駅八重洲口 ← 約40分 → 東京ビッグサイト  
門19系統 (豊洲駅前経由):  
門前仲町 ← 約30分 → 東京ビッグサイト  
※ 豊洲駅 ← 約15分 → 東京ビッグサイト

#### 空港バス

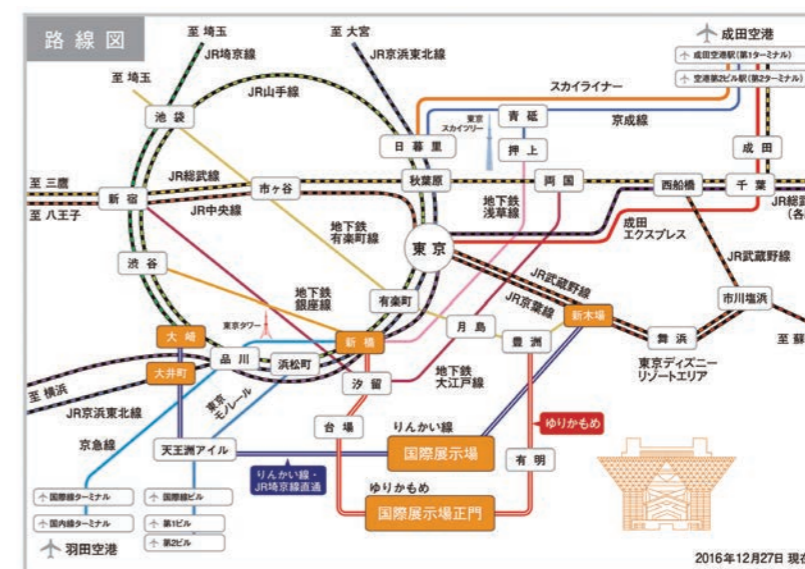
(リムジンバス・京急バス)  
羽田空港 ← 約25分 [大人620円] → 東京ビッグサイト  
成田空港 ← 約60分 [大人2800円] → 東京ベイ有明  
ワシントンホテル(下車 徒歩約3分)  
※ イベント開催時のみ運行の便もありますので、ご確認ください。

#### その他直行バス

京急バス(直行):  
横浜駅東口 ← 約50分 [大人820円] → 東京ビッグサイト

#### 水上バス

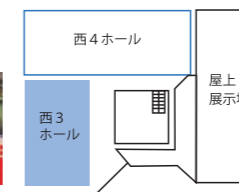
「東京ビッグサイト」下船 徒歩2分  
東京都観光汽船  
東京ビッグサイト・ハレットタウンライン  
「東京ビッグサイト」下船 徒歩2分  
日の出桟橋 ← 約30分 [大人410円] → 東京ビッグサイト  
\*不定期運航のため運航状況はWeb等でご確認ください。



### ▶ スポンサーイベント

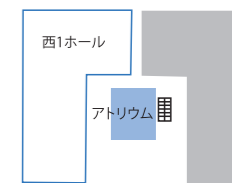
#### トミカコーナー

第35回ショー(2001年)以来、子供から絶大な人気を誇る株式会社タカラトミー協賛による、ミニカーの展示・販売を行います。恒例の東京モーターショー開催記念モデルも販売いたします。



#### “PlayStation®” / 「グランツーリスモSPORT」

プレイステーション®4専用ソフトウェアリアルドライビングシミュレーター「グランツーリスモSPORT」シリーズ最新作のプロモーションブースを展開いたします。



#### 自動車ジャーナリスト(AJAJ)と巡る東京モーターショー

日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ)の会員有志がガイドとなり、専門家の視点でモーターショーとクルマの魅力をガイド

する有料ツアーです。参加者はワイヤレス・インカムヘッドセットを付けていただき、案内役のジャーナリストの説明を会

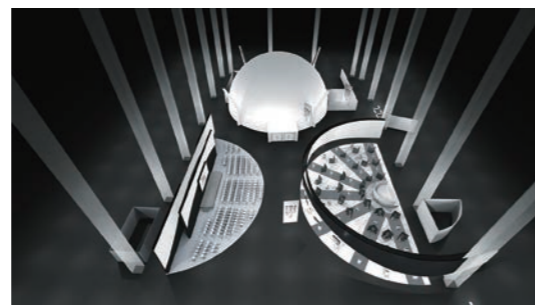
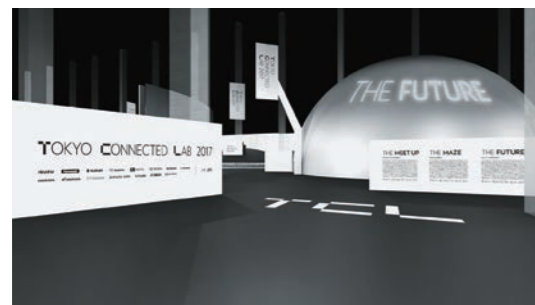
場内でもはっきりと聞くことができます。参加するには参加券付入場券をお買い求め頂く必要があります。



The 45th TOKYO MOTOR SHOW 2017

# TOKYO CONNECTED LAB 2017

「クルマがつながる」未来のモビリティ社会。それがどんな新しい価値をもたらしてくれるのか。私たちと社会のつながりをどのように変えていくのか。わかりやすく体験しながら、来場者のみなさんと考えていく参加型のプログラムです



- 「出展者一覧」
- 株式会社IHI
  - 旭硝子株式会社
  - WHILL株式会社
  - 株式会社MSソリューションズ
  - 環境省
  - Global Mobility Service株式会社
  - KDDI株式会社
  - 国土交通省道路局
  - 一般社団法人水素供給利用技術協会
  - 株式会社デンソー
  - 一般財団法人道路交通情報通信システムセンター
  - トヨタ自動車株式会社
  - Ninebot Inc.
  - 株式会社ハタブロ
  - 日産自動車株式会社
  - 本田技研工業株式会社
  - 一般社団法人美国タウンマネジメント協会



# THE FUTURE

-東京とモビリティの未来を描こう-

未来のモビリティ社会をつくる主役は、実際にモビリティを使う人たち。そこでTOKYO CONNECTED LAB「THE FUTURE」は、参加者への質問を通して人々がどんな未来を望んでいるのかを可視化。巨大なドーム内いっぱいに映像を映し出すインタラクティブ型展示です。想定される「6つの未来」をベースに、回答から読み取れる志向を分析し、参加者がまさに求めている未来モデルをリアルタイムに生成していきます。会期中に集まったデータは、果たしてどんな未来を示すのか？ これは単なる展示ではなく、東京モーターショーという場で来場者のみなさんと行う壮大な実験です。

6つの未来から、あなたの望む未来を選択しよう。

未来は、誰かが決めるものではなく、みんなでつくっていくもの。「THE FUTURE」では、アンケートに答えることで、あなたを含めた人々がどんな未来を望んでいるかを可視化します。モビリティと社会の関係について一緒に考え、未来に参加してみませんか？  
(アンケートには、いますぐアプリ経由で回答できます)

<b>SOCIAL GOOD</b> 技術で社会を変えていく未来	<b>UNIVERSAL</b> すべての人にやさしい未来	<b>MOVE</b> 社会や経済が活性化する未来
<b>DRIVE</b> 自由がどんどん加速する未来	<b>PRIVATE</b> 場所や時間に縛られない未来	<b>SHARE</b> 体験を仲間とシェアする未来

参加方法: アンケートに答えて6つの未来から、あなたの望む未来を選択しよう

1. TCL2017ページから THE FUTUREをタップ
2. アンケートに答えて あなたの望む未来とモビリティを選択
3. 表示されたQRを持って THE FUTUREのドームに集合



※スマートフォンをお持ちでない方は、会場の予約端末から参加ができます

# THE MAZE

-都市迷宮を突破せよ-

モビリティとドライバー、そして都市がつながると、どんな価値がもたらされるのか？参加者がコネクティッドカーに乗りこみ、未来の東京を迷路に見立てゲーム感覚で解き明かしていくネットワーク型VR体験コンテンツ。VRシステム「PlayStation.VR」を最大30台接続し、参加者が同時に未来都市を走行しているかのような共体験を可能にします。

\*PlayStationは株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標です



Photo ©2017 Sony Interactive Entertainment Inc.

**STAGE 1** 操作方法やルールを学ぶステージです。さらにコネク技術を経験することができます。



車間通信で、死角の車両を知らせて自動で減速



未来のモビリティ

**STAGE 2** コネク技術を経験したり、ほかのプレイヤーと協力しながらゴールを目指すステージです。



ドローンビューで道路状況を空から先読み



すれ違う仲間とコネクし、リアルタイム情報を共有



商用車同士が車間通信しながら、安全にストリーム走行

参加方法:コネクティッドカーに乗り込み都市迷宮を突破しよう

1. TCL2017ページからTHE MAZEをタップ
2. 希望の時間を選んで予約
3. 表示されたQRを持ってTHE MAZEコーナーに集合



※スマートフォンをお持ちでない方は、会場の予約端末から参加できます

# THE MEET UP

-モビリティの未来を語ろう-

自動車はその誕生から現在に至るまで、人々の社会や暮らしを大きく変えてきた。自動車が自動車を超えるとき、そこにはどんな社会が待っているのだろうか。そこにはどんな暮らしが待っているのだろうか。

No.1デジタル経済メディア「NewsPicks」のプロデュースにより、他業界で活躍中のイノベーターを交え、「BEYOND THE MOTOR」を宣言した自動車業界に期待すること、モビリティサービスに秘められた「BEYOND」の可能性について徹底討論。「BEYOND THE MOTOR」を語りつくす。

11月4日には、THE MEET UPステージにてピッチイベントの決勝大会を実施。自動車メーカーやNewsPicksが選ぶ最前線のイノベーターに対して、ビジネスアイデアを直接プレゼンできる大チャンスが。

NewsPicksと共に、自動車業界に挑戦状を突きつけよう。

## トークセッション企画 開催概要

日時 10/29(日)~11/3(金・祝) 18:00~19:00 (10/29は17:00~18:00) (1日1コマ @60分想定)  
場所 「THE MEET UP」ステージ  
共催 株式会社ニュースピックス

## トークテマ一覧

  10/29 17:00~18:00 MOTOR × ジャパンクラブ パナソニック(株) 馬場 渉 愛知ドビー(株) 土方 智晴	  10/30 18:00~19:00 MOTOR × イノベーション (株)本田技術研究所 藤田 隆 ビジネスデザイナー 濱口 秀司
  10/31 18:00~19:00 MOTOR × サイエンス 予防医学研究者 石川 善樹 メディアアーティスト 落合 陽一	   11/1 18:00~19:00 MOTOR × エンターテインメント 西野 亮廣 LeoR(株) 小橋 賢児 (株)コルク 佐渡島 康平
  11/2 18:00~19:00 MOTOR × ライフスタイル 日産自動車(株) 星野 朝子 (株)メルカリ 小泉 文明 ×他1名	   11/3 18:00~19:00 MOTOR × 都市 トヨタ自動車(株) 山本 昭雄 WHILL,Inc. 杉江 理 (株)刀 森岡 毅

## ピッチイベント 開催概要

日時 11/4(土) 18:00~19:30 ※選考は9月から開始  
内容 プレゼンテーション+質疑応答&審査+優勝チーム発表  
場所 「THE MEET UP」ステージ  
共催 株式会社ニュースピックス  
協力 デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社

## その他 ステージコンテンツ

日程	時間	ステージタイトル	主催
10月27日(金)	15:00-16:50	自動運転とEVの行方を見極めながら日本メーカーの強みと弱みを考える	クルマ塾実行委員会
10月28日(土)	11:00-11:50	テリイ伊藤、国沢光宏(モータージャーナリスト)が東京モーターショーの過去・現在・未来を語る	講談社ビシー
10月28日(土)	13:45-14:30	「『チョイス!』エコカー」キャンペーンキックオフイベント	環境省
10月28日(土)	15:30-16:30(予定)	(タイトル未定)	J-WAVE
10月29日(日)	13:30-14:30(予定)	TOKYO FM「TOYOTA Athlete Beat」特別公開収録	TOKYO FM
11月1日(水)	13:40-15:10	ザッツ・エンタRAKUGOショー	アマ囃家ドリームチーム

> 6日間にわたるトークセッションを、ニュースピックス佐々木編集長がモデレート。多彩な出演者から様々な意見を引き出します。



— 佐々木 紀彦  
株式会社ニュースピックス 取締役  
NewsPicks編集長

1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年11月、「東洋経済オンライン」編集長に就任。リニューアルから4か月で5301万ページビューを記録し、同サイトをビジネス誌系サイトNo.1に導く。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか」がある

KIRIN

いつも運転  
おっかれさまっ。



その火と、ともに。  
**FIRE**

BEYOND  
THE MOTOR  
**TMS**  
TOKYO MOTOR SHOW 2017

## 注目の展示車

我々の社会やモビリティの未来像を提案するコンセプトカー、そして市販直前の最新モデルが立ち並ぶ東京モーターショー2017。来場したなら絶対に見ておきたい必見の注目モデルをご紹介します。





## 10月25日 プレスデー初日に初公開された 近い将来を示唆する 5台のクルマ

モーターショーの花形といえば、近い将来を示唆したコンセプトモデル。

自動車メーカー、部品メーカー、車体メーカーなどが多くのコンセプトモデルを出展している。

しかし、そのなかでも特別な存在が、ショー会場でお披露目されるサプライズカー。

東京モーターショー2017でワールドプレミアとなった5台のクルマを紹介する



## HONDA

Sports EV Concept

未来のEVスポーツの  
提案モデル

ホンダベースのサプライズカーがSports EV Conceptで、プレスデーの初日に開催されたプレスブリーフィングでアンベールされた。名前とおり、パワートレインはモーターで、クルマ界の電動化時代の新たなスポーツカーの提案モデル。東京モーターショー2017でデザイン、パワートレイン、コンセプトは発表されたもののスペックなどについては発表されていない。流麗なエクステリアデザインが目を引く



## TOYOTA

CROWN CONCEPT

クラウンならではの  
大きな存在感

トヨタはCROWN CONCEPTを公開。その名とおり、来年夏にデビュー予定のトヨタの顔であるクラウン次期モデルのベースとなるモデル。ショーで初公開されたCROWN CONCEPTのボディサイズは、全長4910×全幅1800×全高1455mm、ホイールベースは2920mmと、現行モデルより大きな数字が発表されている。パワートレインは、ハイブリッドのほか、数種類をラインアップ。車載通信機を活用することで安心・安全を提供するフラッグシップモデルとなる



## MITSUBISHI

e-EVOLUTION CONCEPT

エボリューションの名前が  
東京モーターショー2017で復活!

三菱にとって特別な車名である \*EVOLUTION。が東京モーターショー2017で復活。ワールドプレミアとなったe-EVOLUTION CONCEPTは三菱のSUV技術とEV技術を融合させたコンセプトモデル。フロントに1基、リアに2基のモーターを搭載する4WDシステムのS-AWCを搭載。制御をさらに緻密にして進化させることで高い旋回性能を実現している



## LEXUS

LS+Concept

デビューしたばかりの  
LSの将来像を公開

LS+Conceptは「挑戦的なデザイン」、「スッキリと奥深いデザイン」、「匠の技」、「創造的な先進技術」という4つの軸のさらなる高みを目指して開発された。レクサスのフラッグシップセダンであるLSの将来像を示唆したコンセプトモデル。大胆に進化を遂げたスピンドルグリルと最先端技術が盛り込まれたヘッドライトで構成されるフロントマスクはエクステリアで目を引く。レクサスのフラッグシップモデルとして、自動運転技術では、レクサスが2020年の実現を目指しているHighway Teammateを搭載している



## MAZDA

VISION COUPE

魂動デザインを  
さらに進化させて登場!

デザインにこだわり、毎回のように新たなデザイン提案を展開するマツダは、今回VISION COUPEを東京モーターショー2017で世界初公開。エレガントで上質、ということを追った魂動デザインをさらに進化させている。4ドアクーペともいえる流麗なデザインは美しい。しかしただ美しいだけではなく、凛とした切れ味のよさも持ち合わせている。このモデルはこれまでのマツダ車の例に漏れず、近い将来のマツダの、ロードカーのデザインを示唆したモデル



TOYOTA トヨタ

**NEW CENTURY (プロトタイプ)**  
V8 5.0ℓのハイブリッドシステムを新搭載し、ホイールベースの拡大などで後席優先のパッケージングにさらなる磨きを。グリルなど随所に七宝文様も



**Tj CRUISER**  
VANの積載性とSUVの力強いデザインを融合させた新ジャンルのクロスオーバーコンセプトを世界初披露。ユニットは2ℓ級ハイブリッドを想定



**CROWN Concept**  
「走行性能の追求」と「コネクティッド技術の進化」を両輪に開発されたコンセプトモデル。伝統に加え、クラウンが将来的に求められる革新性を提示する

**GR HV SPORTS concept**  
世界初披露となる、スポーツカーと環境技術の融合で「新たな楽しさ」を提案するコンセプトモデル。耐久選手権で鍛えたハイブリッド技術「THS-R」を搭載



LEXUS レクサス



**LEXUS CT200h**  
8月24日に発売されたマイナーチェンジ版CT。各部デザインは上質かつアグレッシブに進化し、予防安全パッケージ「LEXUS Safety System+」も標準に



**LEXUS NX**  
NX300h / NX300がマイナーチェンジされ、力強い洗練されたデザインがさらに進化。スポーティな走りも熟成され、「LEXUS Safety System+」も標準設定

DAIHATSU ダイハツ



**DN compagno**  
1963年に発売された「コンパノ」のスタイリッシュなデザインを受け継ぐコンパクト4ドアクーペ。アクティブシニアに向けた仕上がりに注目が集まる



**DN MultiSix**  
コンパクトながらスタイリッシュな6人乗りミニバン。2列目のシート間のウォークスルーにより、3列目シートのユーティリティを向上させている



**DN U-SPACE**  
忙しいママを支える、モアスペース系軽自動車の使い勝手をさらに高めた新提案。ハンズフリー機能を備えたBピラーインの大開口スライドドアを用意



**DN ProCargo**  
1957年に発売されたミゼットの精神を受け継ぐ商用EV。乗り降りしやすい低床フラットフロアが大きな特徴。「未来の働く人のパートナー」がコンセプト



**DN TREC**  
日常と趣味の両立を実現させるコンパクトでスタイリッシュなSUV。パワートレインは1.2ℓハイブリッドだが、1ℓターボエンジンも搭載可能

NISSAN | 日産



**SKYLINE**  
エクステリアやアルミホイールのデザインを刷新し、より高揚感あふれるデザインにマイナーチェンジ。インテリアもより上質に。発売は12月下旬の予定



**SERENA e-POWER**  
モーターが駆動しエンジンは発電専用となる新型のハイブリッドシステムを搭載。これにより高い燃費性能を発揮する



**LEAF NISMO Concept**  
専用エクステリア採用により、Cd値を悪化させることなくリフト量を低減。専用サスや高性能タイヤ、専用チューニングコンピュータ (VCM) にも注目を



**SERENA NISMO**  
セレナの使い勝手を損なうことなく、「迫力のスタイリング」と「爽快なドライビング」を実現。専用ECMやマフラーも採用し、2017年11月発売予定

MAZDA | マツダ



**DEMIO Noble Crimson**  
こちらはデミオの特別使用車「Noble Crimson (ノブル・クリムゾン)」。その名のとおりの高貴な印象のクリムゾン (彩度の高い赤) インテリアが特徴



**次世代商品コンセプトモデル 魁 CONCEPT**  
次世代技術と次世代デザインを融合したコンパクトハッチバック。「SKYACTIV-X」と次世代車両構造技術「SKYACTIV-Vehicle Architecture」を採用

**ROADSTER RED TOP**  
ダークチェリー色のソフトトップやオープン (赤褐色) のナッパレザーインテリアを採用したロードスター (海外名:MX-5) の特別仕様車も展示



**次世代デザインビジョンモデル VISION COUPE**  
2012年のCX-5導入以来、高く評価されてきた「魂動デザイン」の表現方法をさらに深化させた、次世代デザインの考え方を具現化したモデル

SUBARU | スバル



**VIZIV PERFORMANCE CONCEPT**  
スバルが考える安心して楽しいクルマ作りの将来ビジョンを具現化したコンセプトモデルを世界初披露。自動運転技術普及期を見据えたスポーツセダンだ



**XV FUN ADVENTURE CONCEPT**  
XVのデザイン性をいっそう強調したデザインコンセプトモデル。専用オフロードタイヤと力強い樹脂製モールが特徴で、ボディカラーはイエローメタリック



**S208**  
Sシリーズ史上最高の性能と質感を実現した究極のドライビングカー。450台限定の抽選限定販売方法についても10月25日のプレスデーに発表された



**BRZ STI Sport**  
BRZのカタログ最上級グレード。特別外装色を施した「クールグレーカーキEdition」も100台限定で発売され、その抽選方法も10月25日に発表



**IMPREZA FUTURE SPORT CONCEPT**  
インプレッサスポーツをベースに作られたデザインコンセプトモデル。低重心な形状の前後バンパーと、存在感たっぷりなセンターマフラーに注目

MITSUBISHI | 三菱



**ECLIPSE CROSS**  
スタイリッシュなフォルムにダイナミックな機動力を融合させたクーペSUV。スマートフォン連携ディスプレイオーディオなど、コネクティビティも充分



**e-EVOLUTION CONCEPT**  
三菱が持つSUVのノウハウを進化させるとともに、AI（人工知能）技術を搭載することで、意のままに安全なドライビングを提供。トリプルモーター方式

SUZUKI | スズキ



**e-SURVIVOR**  
スズキが次の時代に向け提案する未来のコンパクトSUV。堅牢なラダーフレーム構造がもたらす走破性はそのままに、電動化により新たな可能性を提示する



**SPACIA CUSTOM CONCEPT**  
ボリュームのある大型フロントメッキグリルで、圧倒的な迫力と存在感をアピール。軽ハイトワゴンの使い勝手+ラグジュアリーデザインという新提案だ

**SPACIA CONCEPT**  
外装のモチーフは「スーツケース」で、アクセントカラーやデニム調のシート、2トーンカラーやルーフレールなど、遊び心いっぱいの軽ハイトワゴン



**XBEE OUTDOOR ADVENTURE**  
新ジャンルの小型クロスオーバーワゴン「XBEE（クロスビー）」の、アウトドアシーンにフィットする魅力を高めたモデル。ドア下部にはウッド調デカールが



**XBEE STREET ADVENTURE**  
こちらはXBEEの都会での使用を重視したコンセプトモデル。フロントバンパーとドア、アルミホイールにイエローアクセントを施した3トーンカラーが特徴



**キャリー軽トラいちコンセプト**  
「普段は店舗で新鮮な果実などのスムーズを販売している女性が、お店を飛び出し軽トラ市に出店する」という設定。「あったらいいな」を盛り込んでいる

HONDA | ホンダ



**Honda Urban EV Concept**  
新開発のEV専用プラットフォームを採用し、将来の量産EVの技術とデザインの方向性を示したモデル。都市の移動に最適なサイズも魅力。日本初公開



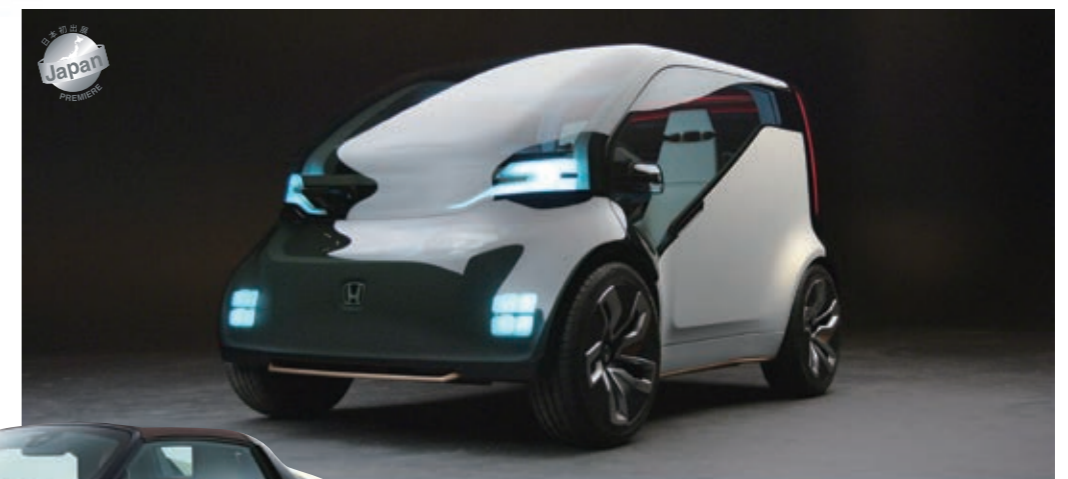
**Honda Sports EV Concept**  
コンパクトなボディにEV性能と人工知能(AI)を組み合わせ、人とクルマがひとつになったような運転感覚を体験できる。次世代のスポーツカーが世界初公開



**LEGEND**  
レジェンドはフロントグリルやバンパーデザインなどを一新。先進的なヘッドライトやウインカーなどと合わせ、よりアグレッシブなデザインに生まれ変わる



**CR-V**  
5代目CR-Vは2モーターハイブリッドシステムの「SPORT HYBRID i-MMD」を採用。ホイールベースとトレッドも広げ、SUVとしての車格感を強調



**Honda NeuV**  
AIと自動運転機能を備えたEV通勤車のコンセプトカー。ドライバーの表情や声からストレス状況を判断して安全運転のサポートを行う。日本初公開



**S660 β特別仕様車 #komorebi edition**  
ボディカラーは専用色「ヒダマリアイボリーパール」を含む3色を。専用のブラウンルーフトップとのカラーコーディネートがやさしく映える特別仕様車

**ODYSSEY**  
スタイリングはさらに力強く、ハイブリッドモデルはACCに渋滞追従機能を追加した安全運転支援システム「Honda SENSING」をはじめ、先進装備も充実



Volkswagen

フォルクスワーゲン



**The New Arteon.**  
ジュネーブモーターショーで初披露された新しいフラッグシップ。エンジンは206kW (280ps) の2.0 TSI 4MOTIONで、トランスミッションは最新7速DSG



**Polo**  
今年8月にドイツでワールドプレミアされた第6世代のポロ。全長、全幅、ホイールベースの拡大により後席の居住性やラゲッジ容量は大幅に向上している



**I.D. BUZZ**  
量販を前提とした新しい電気自動車「I.D.」シリーズのひとつで、マイクロバスのコンセプトを具現化。2つの電気モーターを使い、最大600kmの航続が可能に

AUDI

アウディ



**Elaine**  
高速道路や駐車場など、限定された場所においてドライバーの支援や介入を必要としないレベル4の自動運転を実現するEVコンセプトモデル。日本初公開



**Audi Q8 sport concept**  
3.0ℓ V6ツインターボとマイルドハイブリッド機構を組み合わせたコンセプトモデル。0-100km加速4.7秒をマークする。また、航続距離も1200kmを超える



**A8**  
自動運転「レベル3」のアウディ AIトラフィックジャムパイロット搭載。「レベル2」と違い、ドライバーは継続的にクルマの状況を監視する必要がない

Mercedes-Benz

メルセデスベンツ



**Concept EQ A**  
EQは、メルセデスが2016年に立ち上げたEVに特化した新ブランド。Concept EQ Aはその第2弾モデルで、3ドアハッチバックのEVコンパクトカー



**Mercedes-AMG Project ONE**  
最高出力680psの1.6ℓ V6ターボをミッドに搭載するほか、計4個のモーターのアシストによりシステム出力は1000ps以上。ゼロエミッションのEVモードも



**smart vision EQ fortwo**  
ハンドルがない「レベル5」の完全自動運転を実現し、街中でカーシェアリング的に利用できる未来のモビリティをイメージしたコンセプトモデル

Renault

ルノー



**トゥインゴGT**  
ルノーはF1参戦40周年を記念して展示車をスポーツモデルで統一。こちらは10月19日に限定200台で発売されたトゥインゴGT。0-100km/hは9.6秒をマーク

Porsche A.G.

ポルシェ



**GT3**  
ポルシェは「Porsche Intelligent Performance」をテーマに、スポーツカーの過去・現在・未来を表現する。次世代のポルシェが向かう方向性を確認したい

BMW

ビーエムダブリュ



**BMW CONCEPT Z4**  
今回のショーの注目モデルの一台。次期Z4のデザインスタディモデル。エッジの効いた大胆なデザインが魅力的。フロントグリルはかつてのロードスターを彷彿させる

DS

ディーエス



**DS 7 CROSSBACK**  
写真のDS 7 CROSSBACKを含む3台を展示するとともに、DSオーナー対象のプレゼント企画あり。特別試乗会も東京モーターショー会場そばの特設会場で開催

UD TRUCKS・VOLVO TRUCKS

UDトラックス・ボルボトラック



**Quon 6×2 カーゴ**  
東京モーターショー特別仕様としてドレスアップしたモデル。ドライバーにとって乗ることが誇りと喜びにつながるエクステリアの魅力をさらに高めている



**Quester 6×4 セミトラクター**  
クエストは2013年に新興国市場向けに発表したモデル。2015年にはフルラインナップ投入を完了し、東南アジアを皮切りに投入地域を順次拡大中



**FH**  
UDトラックスと共同出展するボルボトラックは大型トラック「ボルボFH」の次期モデルを参考展示。エンジンは約13ℓの6気筒ディーゼル



**eCanter**  
三菱ふそうは世界初の量産電気小型トラック「eCanter」を展示。オール電気駆動なのでクリーンな排ガス、さらにエンジンノイズもゼロ



**Aero Ace**  
こちらは「小排気量・低燃費エンジン」「新型8速AMT・Shift Pilot」「ABA3をはじめとするトータルセーフティ」などを搭載する大型バスの最新モデル

MITSUBISHI FUSO

三菱ふそう

HINO 日野



**RANGER**  
16年ぶりにモデルチェンジした日野レンジャー。プロフィアと同じデザイナーで、大型車に負けないオーラを放つ



**PONCHO EV**  
国内で唯一の小型ノンステップバス「日野ポンチョ」のディーゼルエンジンを電気モーターに置き換えたEVバス。既に一部地域で営業運行を行っている



**PROFIA**  
14年ぶりのフルモデルチェンジを果たした大型トラック。内外装を一新するとともに、対人検知が可能な衝突被害軽減ブレーキ「PCS」なども標準装備

ISUZU いすゞ

**ELF EV**  
いすゞ自動車提案するEVトラック。ゼロエミッションや低騒音など、環境・人にやさしいことはもちろん、商用車にとって大切な架装物も電気で作動



**FD-SI**  
未来の配送とはどうなるかを考え、宅配ネットワークを新たな視点で見直し、ワクワクするような未来の「運ぶ」を表現したコンセプトモデル



HONDA ホンダ

**Super Cub 50**  
11月10日から販売される新型スーパーカブ50。丸目のLEDヘッドライトとなり、クラッチやシリンダー、ピストンの耐久性も向上しているという



**Super Cub 110**  
生産累計1億台を迎えたスーパーカブは、記念車や初代を含む歴史モデルを展示するほか、市販予定のスーパーカブ110（写真上）などを展示

**Riding Assist-e**  
ヒューマノイドロボット研究で培ったバランス制御技術を活用した実験車。ロボティクス技術を活用したアシスト機構により、極低速走行時にマシン自体がバランスを保つ



**MWC-4**  
“ハーフサイズモビリティ”がコンセプトの4輪LMW。従来の二輪車にはない快適性と、発電用エンジンを備えたモータードライブが大きな特徴



**MOTOROiD**  
「人とマシンが共鳴するパーソナルモビリティ」を目指す概念検証実験機。オーナーの存在を認識するなど、生きているような相互作用機能を持ち合わせている

SUZUKI スズキ



**SWISH(スウィッシュ)**  
スクーターを乗り継いだ大人も納得する上質感を持つスタンダードスクーター。市街地での取り回しの良さと運動性を求めるユーザーを想定した参考出品車



**SV650X**  
現代の最新技術を用いたエンジンや車体に、伝統的な外観デザインを取り入れた“ネオレトロ”と呼ばれるカテゴリーのコンセプトモデル。参考出品車

**GSX-R125**  
GSX-R1000を踏襲したフルカウルスタイリングにDOHC 4バルブのコンパクトなエンジンを搭載。軽量なれど高性能なスーパースポーツとなる参考出品車



**Z650**  
軽量でスリムなフレームに、低中速トルクを重視したパラルレルツインエンジンを搭載。ベテランからビギナーまで幅広いライダーが“走る喜び”を体験できる



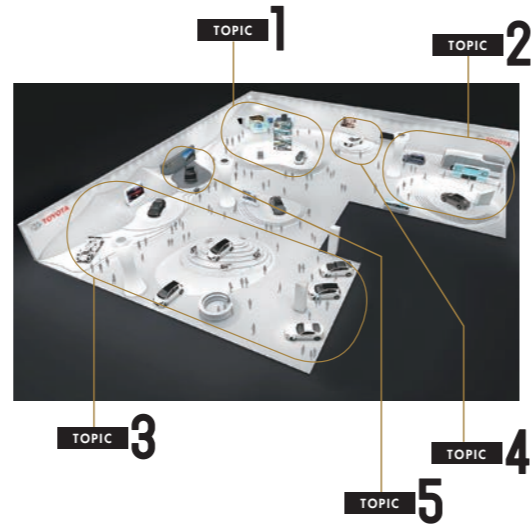
**Ninja H2**  
カワサキの総力を結集して開発されたスーパースポーツ。比類なき加速力とトップスピードなど、究極のライディングフィールを体感可能なロードスポーツ

YAMAHA ヤマハ

KEYWORD > START YOUR IMPOSSIBLE  
クルマから愛を、もっと。

# 未来の「愛車」を 作り出すための、 チャレンジ

クルマがもっとも愛されるにはどうしたらいいか。テクノロジーとエモーションを融合させて、未来の「愛車」を生みだしていく



日本初出展  
World PREMIERE

【TOYOTA Concept-愛i】人工知能を応用し、より人を理解するパートナーとして進化。クルマが「モノ」から「者」へ

世界初出展  
World PREMIERE



【TOYOTA Concept-愛i RIDE】人に優しい都市モビリティ。車いすの積み下ろしサポート等車いすユーザーにも使い勝手の良いモビリティ

世界初出展  
World PREMIERE



【TOYOTA Concept-愛i WALK】誰もが安全・安心に移動できるモビリティ

## 1 TOPIC 移動×知性で 人とクルマの 関係を変えてゆく 「TOYOTA Concept-愛i」 シリーズ

人工知能を応用した「人を理解する」技術と自動運転やエージェント技術により、新しいFun to Driveをもたらす。クルマは人間のパートナーとしてオーナーの生活に寄り添ってゆく。キーコンセプトは「more than a machine, a partner」。ドライバーをより理解し、共に成長するかけがえのないパートナーとして、新しい時代の「愛車」となることを目指す。

「人を理解する」エージェントとのドライブを体験



「新しいFun to Drive」を体験できるシュミレーターがブースに設置される。クルマとドライバーの新しい関係を提案する

## 2 TOPIC TOKYO2020 そして、その先へ FCVの拡がり と次世代タクシー

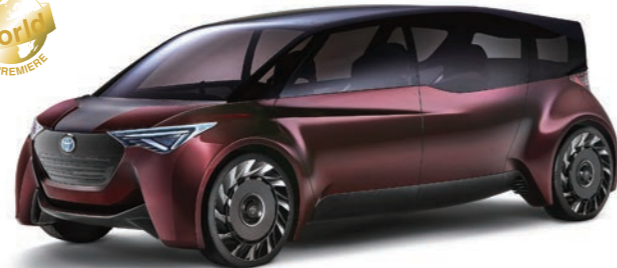
東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年とその先を見据えたモビリティが並ぶコーナー。

FCV（燃料電池自動車）の技術は自家用車から公共交通機関にも広がってゆく。

具体的にはプレミアムサルーン

の新しいかたちを提案する「TOYOTA FINE-Comfort Ride」、社会基盤（都市交通）であるからこそ環境への配慮を考えた「FUEL CELL BUS SORA」、お客様からドライバー、さらに環境にも優しい「JPN TAXI」が並び、日本の街並みそのものの進化が実感できる。

世界初出展  
World PREMIERE



【TOYOTA FINE-Comfort Ride】FCVによる動力機関の最小化で実現した4+2シーターのスペースシャスな快適空間



【FUEL CELL BUS SORA】2020年の街の景色を「未来色」に変えるアイコンバス



【JPN TAXI】ビッグサイトやMEGA WEBから発着する乗車体験が可能

世界初出展  
World PREMIERE

GR HV SPORTS Concept



18年ぶりのWRCで今期2勝を果たしているYarisのDNAを受け継ぐVitz GRMN

## 3 TOPIC ドライブの喜びの追求 by TOYOTA GAZOO Racing 「GR HV SPORTS Concept」 「Vitz GRMN」

「道が人を鍛え、人がクルマを鍛える」という信念のもと「もっといいクルマづくり」を推進するTOYOTA GAZOO Racingのコーナー。今回のショーが世界初披露となるGR HV SPORTS Concept

を中心としたスポーツモデルが並ぶ。特にモータースポーツへ参戦することでその技術が市販車へフィードバックされていることがポイント。たとえばWEC参戦モデルを想起させるデザインの

GR HV SPORTS Conceptは、次世代のスポーツカーを象徴する仕様となり、今回のモーターショー全体で最も注目されるモデルの一台。ボディカラーはマットブラックを採用。

またトヨタが目指す「走りの楽しさ」が詰め込まれたVitz GRMNも出展。こちらは現在WRCに参戦しているマシン、Yarisからの技術フィードバックを受けていることがわかる。

## 4 TOPIC “今”を変えてゆく フロントランナー 「CROWN Concept」

つねにトヨタの最先端技術を投入され続けてきたクラウンのコンセプトモデルが世界初披露される。最も伝統的な車名でありながら、最も革新的であり続けてきたクラウン。今回登場するコンセプト

モデルも、現時点でトヨタが持つ最先端の安全技術、走行性能、快適性能が備わる。「走行性能の追求」と「コネクティッド技術の進化」の両輪を突き詰め、伝統の名車に革新性を融合させた。

TNGA (Toyota New Global Architecture) に基づきプラットフォームを一新し、ドイツのニュルブルクリンクでテスト走行を実施。ドライバーに「走る喜び」と「安心」を提供する。

世界初出展  
World PREMIERE



伝統的なフォルムを踏襲しながら、革新的な技術とデザインを持つ



最先端の通信技術で「CONNECTED」を実現し、移動時間を革新的に進化させる

世界初出展  
World PREMIERE



日本の最高級車として最高のおもてなしを実現する新型センチュリー

## 究極のクルマづくり、 継承と進化 「新型センチュリー」



初代登場から半世紀、脈々と受け継がれてきた「匠の技」で究極のモノ作りが結実

日本製市販車として唯一V12気筒エンジンを搭載した先代型登場から20年、そこからさらに進化した新型センチュリーが出品される。初代登場は1967年、2代目は1997年、そして3代目が2018年に世界

## 5 TOPIC VANの積載性と SUVの力強さを融合 新ジャンルを提案 「Tj CRUISER」

VANの積載性とSUVの力強さを融合新ジャンルを提案「Tj CRUISER」



生活のパートナーであり、道具としての使いやすさとクルマとしての楽しさを両立。「仕事」と「遊び」を垣根なく楽しむ新しい愛車との生活を提案する

初登場することになる。「匠の技」、「高品質のモノづくり」の継承と20年の進化が込められた新型センチュリーは、まさに究極のショーファーカー。V8、5.0ℓのハイブリッドシステムを搭載する。

KEYWORD > Light you up ~らしく・ともに・軽やかに~

# ダイハツの未来を想起させるクルマが登場

少子高齢化や働き方が多様化する社会に対し、ダイハツならではの視点から生み出したコンセプトカーで「軽やかに輝いた暮らし」を提案する。



DN  
PRO CARGO



運転席 & 助手席ドアはスイング式、後席側ドアはスライド式を採用。後部ドアの下部から昇降リフトが出てくるため、車いすの乗降もしやすくなっている。写真(左下)のように、車いすを2台積んでの走行も可能

## 1 便利さを徹底追究した低床フラットフロアと室内大空間に注目

1957年に発売し、幅広い業種・用途で活躍した「ミゼット」の、使い勝手のよさと高い拡張性を継承。未来の働く人のパートナーを想定した商用EVコンセプトモデル「DN PRO CARGO」だ。

採用している低床フラットフロアは、乗降性のよさだけでなく、荷物の使い勝手も大きく向上させた。「動く」こと全般にこだわった設計となっている。

室内高は1600mmで、ウォークス

ル可能な余裕ある室内大空間を実現。配送業での荷物運搬時にラックをそのまま積み降ろしすることができる昇降リフトや、クリニックをイメージしたデスクやベッドユニットも搭載可能な、幅広い用途に合わせて変化させられるマルチユニットシステムを採用している。

ダイハツが「先進技術をみんなのものに」の考えのもとに生み出した、新たな提案に注目だ。

TOPIC

1

## 2 豊かなセカンドライフを彩る新しいデザイン

イタリアのカロッツェリア・ヴィンチャーレがデザインを手がけ、ダイハツが1963年に投入した初めての四輪乗用車「コンパノ」の名を冠したコンセプトカー「DN COMPAGNO」。スタイリッシュなデザイン思想を継承した、美しいシューティングラインが特徴の4ドアクーペとなっている。

アクティブシニアの豊かなセカンドライフを彩る提案ということ

で、室内パッケージは大人2人がゆったりと過ごすために前席空間を優先し、スポーティで上質感のあるインテリアを採用している。

パワートレインには1.2ℓターボと1.2ℓハイブリッドを搭載可能な設計となっており、DNGA（ダイハツ・ニュー・グローバル・アーキテクチャー）構想で、ダイハツが進めていくクルマ作りの方向性を感じることができる。



DN  
COMPAGNO



ボディの形状に沿った縦型テールレンズにも、先代コンパノのDNAを感じる。後席のドアハンドルはボディに溶け込むように、ウィンドウの延長上、Cピラー付け根に取り付けられている



DN  
U-SPACE

パワートレインは自然吸気の660cc直列3気筒ガソリンエンジンを搭載し、トランスミッションはCVTと組み合わせる



## モアスペース系軽自動車の新たな提案

TOPIC

3

忙しいママをサポートするために使い勝手のよさを高めた、モダンプロダクツのシンプルさを持った内外装の、新たな軽自動車「DN U-SPACE」を出展する。

ハンズフリー機能を備えた、Bピラーインの前後スライドドアを採用。タントで定評のある「ミラクルオープンドア」の進化形ともいえる構造は、助手席側ドアと後席

ドアどちらもスライドドアとすることで大開口を実現。スイングドアよりも狭いところでの乗り降りが楽になったことで、お子様の乗り降りや大きな荷物の積み降ろしもしやすくなっている。

そのほかにも、助手席チップアップシートによる室内ウォークスルーで、運転席と後席の移動を可能にするなどアイデア満載だ。

TOPIC

4

## 日常と趣味を両立するスタイリッシュなSUV

ダイハツが持つコンパクトカー技術を活かした、日常と趣味の両立を実現する2列5人乗りのアクティブビークル「DN TREC」は、DNGA構想の可能性を示すアイデアのひとつだ。

コンパクトなボディに、「アクティブ」「ファン」「タフ」という3つのテーマを詰め込んだSUVは、18インチアルミホイールとフェン

ダーアーチモールを装着した、踏ん張り感のあるダイナミックなスタイリングと、直線基調で先進性と上質感のあるインテリアを組み合わせている。

パワートレインは、新しいダイハツを感じることができる1.2ℓハイブリッドを搭載する予定で、1.2ℓターボの搭載も視野に入れた注目モデルだ。



DN  
TREC

全幅は、5ナンバーサイズの1695mmとコンパクト。駆動方式はFFで、乗降性に配慮した観音開きのドアを採用している



DN  
MULTISIX

「トール」などのコンパクトカーよりも多数乗員のクルマを求める家族に向けて、DNGA構想で新たに提案する絶妙なサイズのコンパクトMPVだ

## 従来にないキャラクターのMPVを提案する

TOPIC

5

8月に開催されたインドネシアショーで発表した、コンパクトながらスタイリッシュな6人乗りミニバン「DN MULTISIX」が日本で初めてお披露目される。

使い勝手とプレミアム感を両立

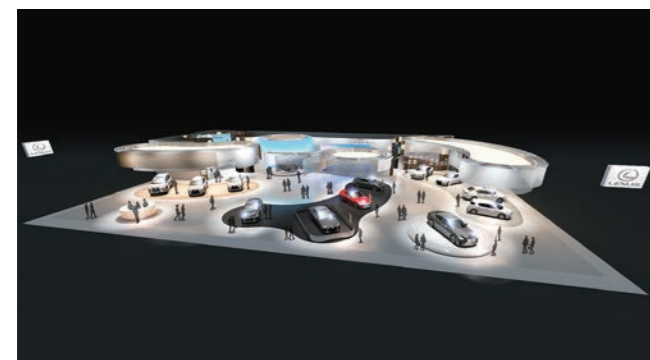
したコンパクト3列ミニバンで、2列目シート間のウォークスルーにより、3列目のユーティリティを向上。駆動方式はFFで、パワートレインは1.5ℓガソリンエンジンを搭載している。



# 新たな驚きと感動を提供するラグジュアリーブランドとしての存在感

ライフスタイルを演出するLEXUSのフィロソフィーを体感する

## 1 LEXUSの世界を体感できる白を基調とした存在感あるLEXUSブース



遠くからも一目でわかる存在感を放つLEXUSブース。全体的に白を基調としたデザインで、コンテンツごとにゾーニングされて展示されるレイアウト

東第4ホールに位置するLEXUSブースは、遠くからでも一目でわかる存在感を放ち、LEXUSの世界へ来場者を惹きこむデザインとなる。全体的に白を基調とした明るく開放的なブースは、コンテンツ毎にゾーニングされ、ブース左奥に設けられた「Brand Gallery」ではクルマだけにとどまらないLEXUSブランドの世界観を体験できるのも特色となる。



ブース上部にはカーテンを配することで独特の存在感を放つ。LEXUSのブランド活動を紹介するBrand Galleryもブース内に設置される

## 2 コンセプトカー「LS+ Concept」が提案するLEXUSの世界



東京モーターショーでワールドプレミアされた「LS+ Concept」。LSのさらなる進化バージョンとして、先進的なルックスをアピールする

プレスカンファレンスの場でワールドプレミアされたLEXUSブースのコンセプトカーは「LS+ Concept」。その名が示すとおり、10月19日にフルモデルチェンジしたばかりの、LEXUSのフラッグシップサルーン「LS」のさらなる進化をイメージさせるコンセプトモデルとなる。フォルムは新型LSとの共通性を持ちながら、より大胆に存在をアピールするフロントマスクが先進性をイメージさせる。



## 「日本の伝統を感じさせながら乗る人に驚きと感動を提供するLEXUSのクルマ作り」



10月19日にデビューしたLEXUSのフラッグシップサルーン「LS」。3.5ℓ、V型6気筒+マルチステージハイブリッドを搭載し走りや環境性能に優れる



LEXUSが世界に誇るフラッグシップクーペLC。外観だけではなく、日本の伝統工芸を感じさせる内装にも注目したい

LEXUSのモデルは日本車ならではの「おもてなし」の心に根ざした緻密なクルマ作りが味わえる。特に10月19日に発表された5代目となる新型LS、3月に登場したラグジュアリークーペLCは、ともにLEXUSのフラッグシップモデルとして、日本の伝統的な匠の技を活かした内外装の仕上げに加え、最新のGA-Lプラットフォームによる卓越した操縦安定性、優れた乗り心地を発揮する。

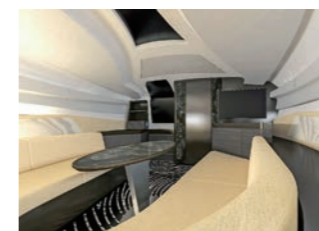
また、最新型LSはLEXUSのフラッグシップサルーンに相応しい、世界最高レベルの予防安全システム「Lexus Safety System + A」を搭載し、高い走行性能だけでなく、予防安全性能にもこだわりを見せる。

## 4 「LEXUS」はクルマだけでなくライフスタイルに驚きと感動を提供するブランド

LEXUSはクルマだけにとどまらず、お客様に驚きと感動を提供するために、ライフスタイルを演出する活動を積極的に展開している。今回の東京モーターショーでもブース内にBrand Galleryゾーンを設け、ブランド活動を紹介している。

この一環としてLEXUSが開発したのがLEXUS Sports Yacht Concept。LEXUSのデザインフィロソフィーに基づく流麗なフォルムに、LCやFモデルに採用されている5ℓ、V8エンジンを2基搭載する、LEXUSらしいスタイリッシュさと

卓越した走航性能を発揮するオープンクルーザー。クルマだけではない、さらにライフスタイルを広げる新たなモビリティの提案だ。



独自に開発したオープンクルーザーもLEXUSブランドの提案するライフスタイル



TOPIC 3

KEYWORD > 新ブランドメッセージ

# Drive your Ambition “新しい三菱自動車”をお見せします

東京モーターショーでは、三菱自動車の新ブランドメッセージ“Drive your Ambition”を初披露。未来を切り拓く新しい三菱自動車に期待しよう



数々のエボリューションモデルを世に出してきた三菱自動車の新しいチャレンジが[MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT]に凝縮されている

## 新ブランドを象徴する 「MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT」世界初披露

TOPIC 1

「MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT」は三菱自動車得意とするEV技術やSUV開発で培った四輪制御技術を大きく進化させたクロスオーバー SUVタイプのハイパフォーマンスEVだ。SUVなのでEVでもアウトドアフィールドに飛びだしてゆけることが新鮮！自然環境にもやさしく、これまでにない新しい価値観を生み出すはず。

またAI（人工知能）技術を搭載することで、ドライバーの意思や感情を読み取り、コミュニケーションを取ることができるため、移動がより楽しくなる。

乗る人の行動意欲を駆り立て、一歩先へと踏み出す気持ちを後押しするクルマで、新ブランドを象徴するモデルとして注目される。

## TOPIC 3 人気の「ACTIVE GEAR」シリーズが一同に揃う

エクステリア、インテリアにオレンジのアクセントカラーを使うことで、街でも野山でも存在感をアピールする「ACTIVE GEAR」シリーズ。デリカD:5、アウトランダーに続き、10月にはRVRにも設定され、人気となっている。

オレンジはアウトドアの本格派が愛用する登山用のロープやバックパック等のギア（道具）にも採用される色で、機能性の高さを表現

している。インテリアもステアリングやシートのデザインを専用としており、クルマ全体でアウトドア用品の「ギア感」が表されている。



大人気のデリカD:5 ACTIVE GEAR（上）と11月16日発売のRVR ACTIVE GEAR（右下）、そしてアウトランダー ACTIVE GEAR（左下）。オレンジのアクセントカラーが印象的だ



## ブース概要

今回初披露するブランドメッセージ“Drive your Ambition”を軸に、“新しい三菱自動車”の姿をお見せします。これからのクルマづくりの方向性を示すコンセプトカー、MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPTや日本初披露の新型車エクリプスクロス、さらにはAIやスマートスピーカーを使った先進技術展示など、ブース全体で新ブランドを感じてください。



ECLIPSE CROSS（エクリプス クロス）は日本のほか欧州、北米、豪州ほかで販売予定の世界戦略車だ

## クーペSUVが躍動する！ エクリプス クロス 日本仕様初出展

TOPIC 2

日本仕様のエクリプス クロスを初披露。スタイリッシュなクーペフォルムとダイナミックなSUVの機動力を融合させた新世代のSUVだ。

エンジンは1.5ℓのダウンサイジングターボが予定され、淀みのない加速フィールを実現。駆動方式は三菱独自の電子制御4WDにAYCブレーキ制御を加えたS-AWCを採用することで、オンロードからスノーロードまで、さまざまな路面の変化にかかわらず、意のままの操縦性と卓越した安定性を手に入れている。

シャープでダイナミックなフォルムは、安心、安全という三菱自動車のSUVに流れるDNAを継承しながらも、個性に溢れたもの。また、居住性もエクステリアから受ける印象を覆すゆとりのあるものとなっている。

コネクティビティにもこだわり、様々な最新のデバイスを搭載することで、利便性と安全性を追求している。

## TOPIC 4 先進テクノロジーを体験 ドライバーとクルマが 対話するAI技術に注目

AI（人工知能）はいまや自動車に欠かせないものとなっている。三菱自動車はドライバーとクルマとの対話を実現するAIパーソナルアシスタントを開発。また、今話題の音声対話型IoTデバイスである

スマートスピーカーで、自宅からクルマを音声で操作できる新しいコネクティッドカーサービスも初披露。加えて走行性能と環境性能を両立し、外出先で給電できる三菱自動車独自のPHEV技術も紹介する。



\*画像は欧州仕様車です

今回アウトランダー PHEVにAIパーソナルアシスタントを搭載し、ドライバーとの対話や、車両の操作など、機能の一部をデモンストレーションする



## MEGAWEBと お台場特設会場で 試乗体験しよう

TOPIC 5

MEGAWEBやお台場特設会場では三菱自動車の試乗体験ができる。東京モーターショー総合アプリ「TMS Mobile」で事前予約を。

最新乗用車試乗体験@MEGAWEB  
アウトランダー PHEV試乗

オフロード同乗試乗体験@お台場特設会場

アウトランダー PHEV同乗試乗  
デリカD:5同乗試乗

次世代技術体験@お台場特設会場  
アウトランダー PHEV同乗試乗  
eKスペース カスタム同乗試乗



デリカD:5とアウトランダー PHEVの登坂を同乗体験できる。アウトランダー PHEVはエンジンを使わず、モーターのみで車両を動かすのでぜひ体験してみてください！

# NISSAN INTELLIGENT MOBILITY

日産は「ニッサン インテリジェント モビリティ」という取り組みを通して、クルマを未来へと導きます。最先端の技術は、クルマを単なる移動の道具から、あなたをワクワクさせる存在に進化させます。たとえば、完全な自動運転ができるクルマも、走りながら充電ができる電気自動車も、夢の話ではありません。そう、クルマの未来は、すぐそこまで来ています。クルマと一緒に、あなたの時間は、より自信にあふれ、よりつながり、より楽しいものになります。そして、今からあなたが手にする日産のクルマにも、「未来」はカタチづくられているのです。



## TOPIC 1

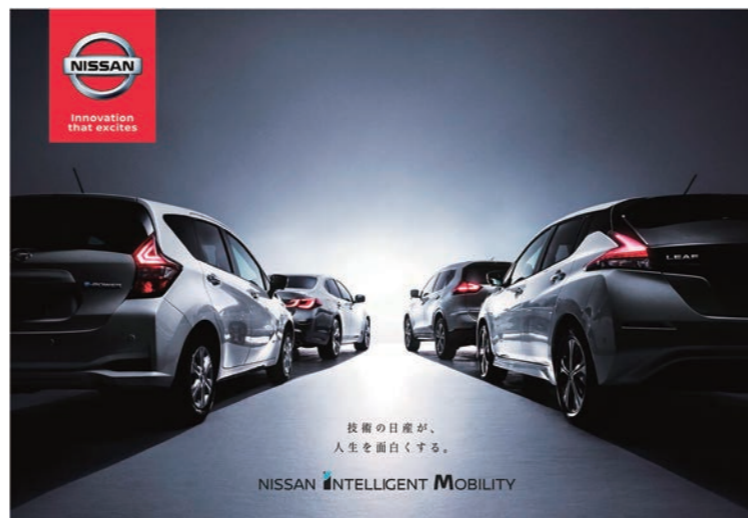
### [NISSAN IMx] 将来の「ニッサン インテリジェント モビリティ」を具現化したコンセプトカー



将来の「ニッサン インテリジェント モビリティ」を見据え、「クルマとドライバーがより繋がり、もっとクルマで移動したくなる」そんなクルマを具現化したコンセプトカー「NISSAN IMx」。

コンセプトは「Together we ride」。「NISSAN IMx」は、意のままに操る喜びと、今までになかった移動の楽しさを提供し、クルマと過ごすあなたの生活をもっと充実したものに変わる、身近で頼りに

なるパートナーです。私たちは、この「ニッサン インテリジェント モビリティ」のアプローチにより、人とクルマのコミュニケーション、社会とクルマとの関わり方を変えていきます。



## TOPIC 3

### [セレナ e-POWER] 新世代パワートレイン「e-POWER」を搭載した先進的なミニバン

モータードライブの楽しさと優れた燃費性能の両立を実現した新世代パワートレイン「e-POWER」をミニバンの「セレナ」に搭載。「セレナ」が誇る室内の広さや使い勝手の良さ、乗り心地の快適性に加え、「e-POWER」を搭載することにより、クラスを超えた高い静粛性

も実現しました。「セレナ e-POWER」は、グリルに「e-POWER」の象徴でもあるブルーのアクセントを施すとともに、専用LEDテールランプや、空力特性に優れたデザインの専用アルミホイールおよびエクステリアパーツを採用し、先進性溢れるエク



テリアデザインとしました。また、インテリアにもブルーアクセントを施すとともに、2列目シートにキャブテンシートを採用し上質な移動空間を提供します。さらに、「セレナ e-POWER」も、お客さまより好評を得ている高速道路同一車線自動運転技術「プロ

パイロット」を搭載し、レジャーなどの長距離ドライブにおいても快適な移動を楽しむことができます。「セレナ e-POWER」は2018年春の発売を予定しています。

### [セレナ NISMO] NISMOらしい精悍なスタイルを身に纏ったミニバン



「セレナ NISMO」は、NISMOがもつ技術を惜しみなく注入し、「セレナ」の特長である家族での使い勝手のよさや乗員の快適性を損なうことなく、「迫力のスタイリング」と「爽快なドライビング」を実現。

エクステリアはNISMOらしい精悍なデザインと優れた空力性能を両立したデザインを採用し、インテリアは各所にNISMOカラーのレッドアクセントをあしらうなど、ドライバーの気持ちが高揚するスポーティーな演出を施しました。「セレナ NISMO」は2017年11月の発売を予定しています。

### [スカイライン] 最先端テクノロジーを搭載したプレミアムスポーツセダン



いつの時代も最先端のテクノロジーで走りを楽しみ、ドライバーの心を高揚させ続けてきたプレミアムスポーツセダンです。全方位型運動支援システムを全グレードに標準装備するとともに、高い動力性能と環境性能を両立したハイブリッドシステムや、意のままに快適なハンドリングを実現したダイレクトアダプティブステアリングなどを装備し、運転の楽しさと安全性能を兼ね備えています。同車は2017年12月下旬の発売を予定しています。

## TOPIC 2

### [LEAF NISMO Concept] EVにもNISMOのドライビングプレジャーを提供



「LEAF NISMO Concept」は、NISMOのレーシングテクノロジーにより実現した専用エクステリアの採用により、Cd値を悪化させることなくリフト量を低減、優れた空力性能を実現しています。イ

ンテリアはブラック内装にNISMOのアイコンカラーであるレッドのアクセントを施し、走りへの期待感を高める空間を演出しています。また、チューニングされた専用サスペンション、高性

能タイヤなどを採用、さらに電動駆動の特性を活かし、どこからでも瞬発力の高い加速フィールを提供する専用チューニングコンピューター（VCM）を搭載し、NISMOらしい走りの楽しさを提供

します。「LEAF NISMO Concept」はEVの持つ環境性能に加え、NISMOらしいスポーティーな走りを実現したいと企画したNISMOブランドによるEVコンセプトモデルです。



TOKYO CONNECTED LAB 日産ブース(西4ホール)

## TOPIC 4

「ニッサン インテリジェント モビリティ」は、世界中のお客さまに向けた安全かつ持続可能な社会の実現を目指すためのビジョンです。今回日産ブースでは自動運転の実用化を加速させる為の革新的な技術をご紹介します。皆様是非ご覧ください。

### 日産自動車のモーターショースペシャルサイトにアクセス!

日産ブースの展示車両や最先端技術をご紹介します。是非アクセスを!

<http://www.nissan.co.jp/MS/TOKYO2017/> 「日産 東京モーターショー 2017」で検索!

KEYWORD > 「はじまるSUBARU」

# New SUBARU Story ~モノをつくる会社、笑顔をつくる会社へ~

2017年4月1日から株式会社SUBARUへ社名変更し、新たなステージに歩み始めてから初のモーターショーとなる今回は、注目モデル7車種を出展

## 1 TOPIC 安心と楽しさの将来像や世界観を表現

ブース全体を横断するように11面の大型モニターを一列に並べるブースデザインで圧倒的な臨場感と没入感が得られる空間としている



スバルはお客様に提供する価値である「安心と楽しさ」の将来像や世界観を1150㎡のブース全体で表現し、来場する観客の笑顔をつくるさまざまな体験を提供。出展車両は世界初公開のヴィジヴパフォーマンスコンセプト、初公開の市販車2台を含め10台。

スバルを身近に感じてもらうよう、11面の大型モニターを活用し、エンジニアやデザイナーが映像出演。スバルスターズが、掛け合いをしながら、お客様との相互コミュニケーションがとることができるように演出するなど、随所に工夫を凝らしている。

## 2 TOPIC 安心して楽しいクルマづくりの将来ビジョンを具現化したスポーツセダンタイプのコンセプトモデル VIZIV PERFORMANCE CONCEPT



スバルはヴィジヴパフォーマンスコンセプトを世界初公開。ヴィジヴとは「Vision for Innovation」を語源とする造語で革新に向けた新たなビジョン、新しい魅力を生み出していくという意味が込められている。このヴィジヴパフォーマンスコンセプトは安心して楽しいクルマづくりの将来ビジョンを具現化したスポーツセダンタイプのコンセプトモデルで将来の自動運転技術普及期を見据え、アイサイトを核とした高度運転支援技術を、運転を積極的に愉しみたくするスポーツセダンボディに搭載することで、安心して楽しいドライビングの世界観を提示する。

エクステリアはスバルのデザイ



このスポーツセダンコンセプトが将来的なスバルのスポーツモデル、すなわちWRX & WRX STIに発展するかもしれない



ンフィロソフィー、「DAYNAMIC (躍動感) × SOLID (塊感)」に基づいたデザインで、共通言語であるヘキサゴングリルやコ字型の前後ランプ類に加え、エンジンフード上の大型エアスクープ、開口部の大きいフロントバンパー & フォグランプベゼル、さらには張り出した前後のワイドフェンダーがこのクルマの持つスポーツ性を主張する。



最新スバルのデザイン言語となっているヘキサゴングリルやコの字型のヘッドランプ & リアコンビランプが特徴となっている。エンジンフードのエアインテークや大開口のフロントバンパー & フォグランプベゼル、さらには張り出した前後ワイドフェンダー（内側にエアインテーク入り）など迫力を感じさせるスタイルである



レカロ製バケットシート(セミアニリンレザー)をはじめS208専用のスペシャルな装備を満載

## 3 TOPIC Sシリーズ史上最強の性能と質感を実現したSUBARUハイパフォーマンスカーのトップエンドモデル S208

スバルテクニカインターナショナル(STI)が放つSシリーズ史上最強のコンプリートカー、S208。約2年前にリリースし、発売即日に限定台数を超える受注を獲得したS207の興奮が蘇る。

そのS207をさらに磨き上げたS208は、新たにカーボンルーフを設定。低重心化を図り、旋回性能を向上させている。

329psを発生する高出力バランストエンジンにはピストン&コン

ロッドに加え、フライホイールとクラッチカバーまで手を入れ、レヴリミットまで気持ち良く回る上質なフィールを実現した。

さらに、インタークーラーウォータースプレーを採用し、高負荷走行によるシビアコンディションでもいつも通りの気持ち良い加速を味わえるようになった。

まさに走るよるこびが湧き上がる、S208は限定450台の抽選販売となる。



足元はSTI Sport専用の18インチアルミホイールに215 / 40R18ハイパフォーマンスタイヤを装着している

## 4 TOPIC 抜群の操縦安定性と優れた乗り心地を両立させたBRZの最上級グレード SUBARU BRZ STI Sport

走り、スタイル、質感すべてにSTIのDNAを込めたカタログ最上級モデルとしてBRZ STIスポーツがBRZに設定された。

専用チューニングのザックスダンパー(ZF製) & コイルスプリングを装着したほか、フレキシブルドロースティフナー、フレキシブルV

バーなど、STI独自の補剛パーツを装着し、しなやかで上質な乗り味を実現した。

また特別外装色を施したクールグレーカーキEditionを100台限定で発売。17年10月25日に車両仕様詳細とともに100台限定の抽選販売方法についても発表する。

スーパーGT BRZ GT300を応援しよう!



スーパーGT (GT300)に参戦しているBRZ GT300の17年モデルは水平対向BOXERエンジンの熱効率の改善、軽量化、空力性能の改善、慣性モーメントの向上など、大幅に改良が加えられ、勝利を目指し、チャレンジを続けている。

XV FUN ADVENTURE CONCEPT



専用オフロードタイヤ、ホイールアーチの力強いクラッティング、大自然のなかでも力強く輝くイエローメタリックが特徴



タイヤ痕をモチーフにしたというギザギザ模様入りのデニム調ファブリックシートのインテリアなどXVらしい遊び心ある楽しい演出

IMPREZA FUTURE SPORT CONCEPT



イエローのボディカラーとコントラストの効いたインテリアコーディネート



低重心でダイナミックな形状の前後バンパー、スポーティで存在感のあるセンターマフラーは運転する楽しさをイメージさせる

## 5 TOPIC XVとインプレッサに新たな個性を提案する2台のデザインコンセプト

XV FUN ADVENTURE CONCEPTは世界トップクラスの安全性能を備え、ラジッドなSUVデザインに流麗さを融合したスポカジスタイルが人気のXVの世界観を一層強調したデザインコンセプト。冒険心と自分らしさを忘れない乗る人すべてのアクティブライフを応援する1台。

IMPREZA FUTURE SPORT CONCEPTは、安全性能とさらに進化させたインプレッサをベースに低重心でダイナミックな形状の前後バンパーやスポーティなセンターマフラーなどで、より気軽に運転を楽しむようになる、心躍るような新しいSUBARUのスポーツ価値を提案している。

KEYWORD > 「ワクワク」を、誰でも、どこへでも

# チームスズキで目指す「次の100年」

使いやすく、ワクワク楽しいクルマを作り続けるメーカーでありたい。そんな思いをテーマに込めたスズキが提案する未来を体感しよう



## TOPIC 1 わくわく楽しいクルマを作り続ける

今回、スズキブースでは使用シーンを連想しやすいように、テーマ別に車両を配置し、四輪車、二輪車に加え、電動車いす、船外機、将来に向けた技術や取り組みなどを展示。スズキが提案する小さなクルマがもたらす、「走る喜び」「使う楽しみ」「持つ幸せ」を「ワクワク」を、誰でも、どこへでも」というテーマで表現している。そしてそこから、次の100年に向けたスズキの未来が見えてくる。

## TOPIC 2 未来のコンパクトSUV「e-SURVIVOR」

今回スズキは、未来のコンパクトSUV「e-SURVIVOR（イー・サバイバー）」を世界初公開。

ジムニーをはじめ、歴代のスズキSUVが継承してきた造形などを、次世代のデザインで表現。ラダーフレームと軽量・コンパクトボディによるスズキSUV伝統の走破性はそのままに、電動化による新たな4WDの可能性を提案したコンセプトモデルとなっている。

前軸・後軸それぞれに2つずつ配置した4モーターによる四輪独立駆動を採用し、路面や走行状況に合わせたきめ細やかな駆動力制御や、従来の4WDにはない機動性も実現。さらに、最新の運転支援技術を搭載し、さまざまなシーンで走る楽しさと、さらなる安心を提供する。

ワクワク楽しい未来のSUV。それがイー・サバイバーだ。



「イー・サバイバー」4モーターによる四輪独立駆動の4WDが、高い機動性と軽快な走りを可能にする

常に変化する状況をドライバーに確実に伝える新しいユーザーインターフェースを採用



## TOPIC 3 スズキが提案する新ジャンル小型クロスオーバーワゴン&新軽ハイトワゴン



クロスビーアウトドアアドベンチャー



四輪車では、スズキが新たに提案する参考出品車を多数展示。

広い室内のワゴンとSUVを融合させた新ジャンルの小型クロスオーバーワゴンの「クロスビー」は、1.8直噴ターボエンジンにマイル

ドハイブリッド搭載で、ひと目見たら忘れられない個性的なデザインが魅力。上質なアウトドアモデル「クロスビー アウトドア アドベンチャー」、都会的な魅力を演出した「クロスビー ストリート アドベ



クロスビー



クロスビー ストリート アドベンチャー



ンチャー」も展示される。「スペース コンセプト」は、広い室内と後席両側スライドドアを持つ軽ハイトワゴン「スペース」のコンセプトモデルで、スーツケースをモチーフにしたデザイン

を採用して「わくわく」や「楽しさ」を表現。「スペースカスタム コンセプト」は、圧倒的な迫力と存在感のあるスタイルの頂点を目指したモデルだ。



スペース コンセプト



スペースカスタム コンセプト



## TOPIC 4 モーターサイクルもワクワク楽しい

スズキは二輪車も個性豊かな参考出品のバイクが勢揃い。

世界初公開となるのが、最新技術のエンジンや車体に、伝統的な外観を取り入れた「ネオレトロ」と呼ばれるカテゴリーの「SV650X」、それに上質感のあるスタイリングが魅力の125ccスクーター「スウィッシュ」。そして、GSX-Rシリーズの流れを汲むフルカウルの高性能スポーツバイク「GSX-R125 ABS」も日本初公開!



SV650X



スウィッシュ

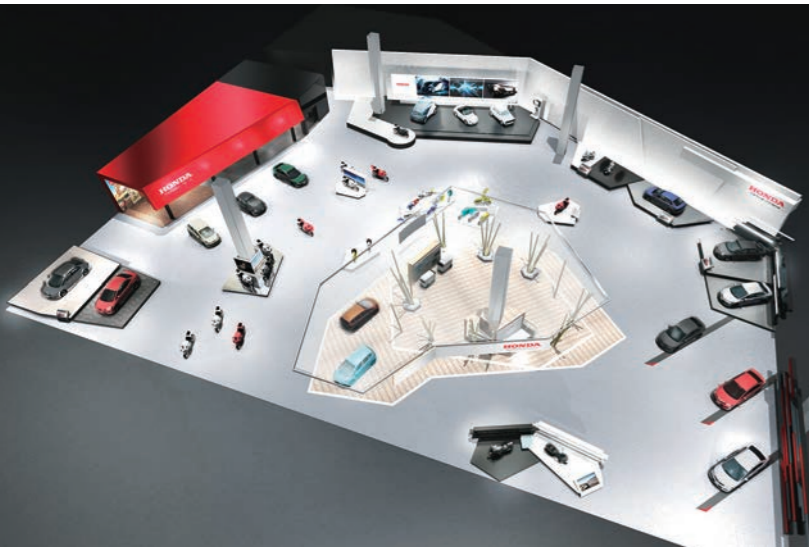


GSX-R125 ABS

KEYWORD > 「自分を、もっともっと連れ出すんだ。」

# モビリティで広がる人間の可能性、豊かな暮らし

未来の暮らしはもっと豊かになる。ユニークな発想のもとに生み出されたホンダのモビリティの数々を見れば、きっと確信できるはず



実際に触れ、乗ることもできるモータースポーツゾーンなども魅力的なホンダブース。中央には訪れた人のための憩いの場となる“ウェルカムゾーン”も設けられる

## 多様な電動化モデルなど 50台超がブースを彩る

TOPIC

1

今回のショーのHondaは「自分を、もっともっと連れ出すんだ。」をコンセプトに、モビリティを通して広がる人間の可能性、豊かな生活をブース全体で提案する。壇上を飾る3台のEVコンセプトモデルはもちろん注目だが、今年、生産累計1億台を迎えたHondaの働かざる者、スーパーカブの歴史、現在、未来を伝えるカブワールドも、ぜひ楽しみたい。

モータースポーツゾーンにはマクラーレンHondaのF1マシンや、今年の第101回インディ500で、佐藤琢磨選手が優勝を飾ったマシンのほか、MotoGP参戦車「RC213V」、トライアル世界選手権に参戦し、2連覇を達成したトニー・ボウ選手のチャンピオンマシン「COTA4RT」を展示。実際に乗ることのできるマシンも用意されているので、この機会に体験しよう。

## 2

TOPIC

## 自分でバランスを保つ EVバイク、そして 生産累計1億台を迎えた スーパーカブの世界に注目

2輪では8台のモデルがワールドプレミア。最注目目は右写真の「Honda Riding Assist-e」。これまでのヒューマノイドロボット技術で培った、Honda独自のバランス制御技術を2輪車に応用したもので、極低速走行時にはマシン自体がバランスを保ち、ライダーの負担を軽減。ライディングをより気軽に、より楽しいものとしてくれる。

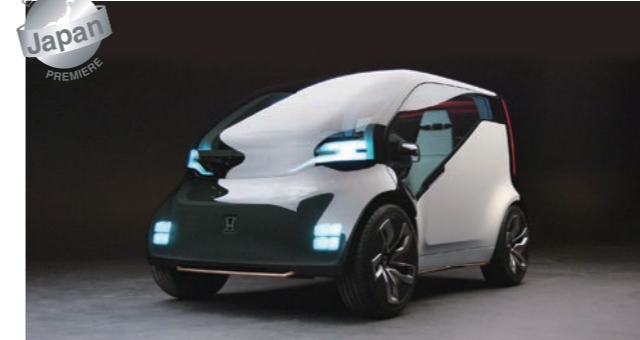
パワートレインには電動モーターを採用。Hondaが目指す“自由で楽しい移動の喜び”と“カーボンフリー社会の実現”を両立する。そのほか、先に述べたスーパーカブの累計生産1億台を記念したスペシャルモデルや「モンキー125」（ともにワールドプレミア）、カスタムの楽しさを訴求する3台のカスタマイズコンセプトといったモデルにも注目したい。



従来の2輪とは大きく異なるデザイン。ブース上ではデモンストレーションも行われるというから注目だ



スーパーカブ110 1億台記念車。これからも生産台数記録は更新され続ける



Honda NeuV。ドライバーの表情などからストレス状況を判断し安全運転をサポートするほか、ライフスタイルや嗜好を学習して、状況によって選択肢の提案を行う



コンパクトボディで街中移動に最適な、Honda Urban EV Concept。新開発のEV専用プラットフォームを採用

ブース壇上に乗せた3台はすべてEVという今年のHonda。ワールドプレミアモデル「Honda Sports EV Concept」は、EV性能と人工知能(AI)を組み合わせ、人とクルマがひとつになったような運転感覚の実現を目標に開発された。次世代のスポーツカーを目指したとい

うだけにコンパクトでスタイリッシュな車体が魅力的だ。量産EVの技術とデザインの方向性を示した「Honda Urban EV Concept」、自動運転技術とAIで広がるモビリティの可能性を模索する「Honda NeuV」の2台はジャパンプレミア。同じモーター駆動で

## メインブースを飾る3台のコンセプトカーに、EVの“これから”を見る

TOPIC

3



Honda Sports EV Conceptのリアビュー。このイラストからも、スポーツモデルらしいリアフェンダーまわりの、ふくよかなラインが確認できる。テールランプの処理はモダンで、近未来を感じさせるもの

ありながら、目指す方向は異なるこれら3台に、これからのEVの可能性を感じたい。そのほかの出展車では、同じくジャパンプレミアの5代目CR-Vにも注目。歴代初となるハイブリッドが設定され、ガソリン車には3列目シートも設定される。



ヴェゼルよりもひとまわり大きいボディを持つ新型CR-Vに注目だ

## 「TOKYO CONNECTED LAB 2017」にも、4台のコンセプトモデルを展示

TOPIC

4

今回の東京モーターショーにおける主催者テーマ展示「TOKYO CONNECTED LAB 2017」。クルマがつながる未来のモビリティ社会。それがどんな新しい価値をもたらすのか、社会とのつながりはどう変わるのか。それらをわかりやすく体験しながら考える、来場者参加型のプログラムだ。そのテーマ展示に、Hondaは“もっと、家族と一緒にいよう。”をコンセプトとして、家族とのつな

がりにフォーカスした「Honda 家モビ Concept」のほか、「Honda ふれモビ Concept」、「Honda チェアモビ Concept」、「Honda Ai-Miimo Concept」の、4台のコンセプトモデルを出展(いずれもワールドプレミア)。家族の生活の新しい可能性を提案する。「TOKYO CONNECTED LAB 2017」の会場はビッグサイト西4ホール。少し足を伸ばして、そちらの展示車両もチェックしよう。



リビングがそのままクルマになって走り出す「Honda 家モビ Concept」、近所の移動に最適な「Honda ふれモビ Concept」など、ユニークな提案が見物だ

KEYWORD Mazda is committed to enriching people's lives through "Celebrate Driving".

# マツダは『走る歓び』で、クルマを愛する人に人生の輝きを提供する

## TOPIC 1 マツダ新時代の幕開け



マツダ代表取締役社長兼CEO 小飼雅道氏

今年8月に技術開発の長期ビジョン「サステイナブルZoom-Zoom」宣言2030を公表しました。世界の自動車産業を取り巻く環境の急激な変化を踏まえ、より長期的な視点に立ち、クルマの持つ魅力である「走る歓び」により、「地球」、「社会」、「人」それぞれの問題解決を目指す私たちの新たな挑戦です。

「地球」の領域では環境保全の取り組みにより、豊かで美しい地球と永続的に共存できる未来を築くことを、「社会」の領域では安心・安全なクルマと社会を実現することで心豊かに生活できる仕組みの創造を、「人」の領域では走る歓びにあふれたクルマを通じ、人々に心の充足をご提供することを、宣言しました。

環境保全では、クルマのライフサイクル全体を視野に入れ、「Well-to-Wheel（燃料採掘から車両走行まで）」の考え方に基づき、本質的なCO<sub>2</sub>削減に取り組めます。

今後も世界的に大多数を占めると予測され、CO<sub>2</sub>の削減に最も効果のある内燃機関の理想を追求します。さらに各地域におけるエネルギー事情、電力の発電構成などを踏まえて、内燃機関や電動化技術を適材適所でご提供するマルチソリューションを展開します。

マツダスタンドでは、究極の燃焼を目指し、夢に一步近づいた次世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」、次世代デザインの考え方を具現化した「MAZDA VISION COUPE」、次世代技術とデザインを搭載した「MAZDA KAI CONCEPT」などを展示しています。

私たちは常にクルマの本質にこだわり、期待を超える商品で、クルマのある暮らしを豊かにし、その人の心を元気にしたいと考えています。お客様と共に歩み、強い絆を持つブランドを目指します。

マツダの新時代の幕開けとも言えるスタンドで、新たな決意を感じて戴きましたら幸いです。

## TOPIC 2 深化した魂動デザイン“MAZDA Elegance”を体現『MAZDA VISION COUPE』



私たちはデザインテーマ「魂動（こどう）:Soul of Motion」のもと、生命感あふれるダイナミックなデザインを創り続けてきました。

「これからの世代は、生命感を感じさせながらも、日本の美意識を体現したよりエレガントで上質なスタイルを描いてみたい。」この想いを表現した次世代デザインのビジョンモデルが「MAZDA VISION COUPE」です。

世界中から高く評価されてきた魂動デザインの表現方法をさらに深化させ、次世代デザインの考え方を具現化したモデルをご覧いただけます。

## 次世代ガソリンエンジン『SKYACTIV-X』

「SKYACTIV-X」は、ガソリンエンジンの伸びの良さにディーゼルエンジンの優れた燃費・トルク・レスポンスといった特長を融合させた、夢のエンジンに一步近づいたマツダの新しい内燃機関です。

究極の燃焼を目指したマツダ独自の燃焼方式「SPCCI（Spark Controlled Compression Ignition:火花点火制御圧縮着火）」により、ガソリンエ

ンジンで圧縮着火を制御する技術の実用化に世界で初めて\*めどをつけました。

圧縮着火による高効率の燃焼によって、優れた環境性能と出力・動力性能を妥協なく両立しています。（※2017年8月現在、マツダ調べ）



## TOPIC 4 次世代商品コンセプトモデル『MAZDA KAI CONCEPT』



世界初公開となる次世代商品コンセプトモデルは、次世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」と次世代車両構造技術「SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE」を搭載し、次世代魂動デザインを表現しました。理想のクルマづくりを具現化したコンパクトハッチバックコンセプトです。

12月発売予定の「マツダCX-8」は、多人数乗用車の新たな選択肢としてクルマのある暮らしをよりスポーティーに、そして「走る歓び」と心ときめく感動を創出したいマツダの新型3列シート、クロスオーバー-SUVです。

エモーショナルで美しいプロポーションと大人のゆとりを感じさせる上質で洗練されたデザイン、大きく進化したクリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D 2.2」によるトルクフルで余裕のある走行性能、3列目まで快適な室内空間を実現しています。



## TOPIC 5 新型3列シートクロスオーバー-SUV『マツダ CX-8』

KEYWORD &gt; 「使う“人”本位のトラック」

# Best truck for all drivers!

—すべてのドライバーにとって、ベストなトラックを目指して。

人を想う商品開発を続け、「誰もが簡単・快適・安全に運転できるトラック」を目指してきたUDトラックスの想いを形に!

## 1 フラグシップの大型トラック 新型Quon(クオン)を展示

「人を想い、先を駆ける。」新型クオンは、現代社会における輸送ソリューションに求められるすべてのニーズに応えるUDトラックスのフラッグシップ大型モデルだ。省燃費・パワフル・クリーンを実現するという評価を集めているGH11型エンジン、GPSを駆使して過去に走ったルートを学習・記憶して、加減速など先読みの動作を行う機能「フォアトラック」と、さらに進化した電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT-VI(エスコット・シックス)」の組み合わせにより、スムーズでストレスの少ない走りを実現している。そして人間工学に基づいて刷新されたコックピットは、ドライバーに快適な運転環境を提

供することを約束する。大型トラックでは初の総輪ディスクブレーキや、最新のアクティブセーフティをはじめとする数々の先進システムの搭載により、乗員・積荷に加え車両周囲の安全性も確保。優れた積載性・荷役性は輸送効率の向上に貢献する。また車両の耐久性・メンテナンス性にも磨きをかけ、加えて充実のアフターマーケットサービスによりユーザーの稼働率を最大限に高めることにも成功している。このたび、平成28年排出ガス規制に適合したセミトラクターが新たにラインアップ。カーゴモデルは、東京モーターショー特別仕様としてエクステリアをドレスアップして出展している。



クオン6×2カーゴ(特別デザインモデル)。最大積載量14.3tを誇る、クオン20t超の代表的モデル。東京モーターショー出展に合わせてドレスアップ。魅力を増して登場

新しくラインアップに加わったクオン4×2トラクター。460ps/224kgmを発生するGH11エンジンを搭載。現行のGH13よりもダウンサイジングされたが、よりパワフルになっている



## 2 新型ダウンサイジングエンジンほか……ドライブラインに注目!

クオンにはクリーンでありながら馬力、トルクをさらに向上させた「GH11エンジン」と、省燃費運転をサポートする機能を進化させた電子制御式AT、「ESCOT-VI」を全車に搭載している。この先進技術を集結させたドライブラインが、高い燃費とスムーズで快適な走り

を実現する。また2018年後半には、平成28年排出ガス規制に適合した排気量8ℓ級のダウンサイジングエンジンをクオンに搭載する予定だ。この軽量・コンパクトな新エンジンは、さらに環境、高燃費に貢献し、物流の高効率化に大きく貢献する。



8ℓ級エンジンを、来年後半に大型車のクオンに搭載する。この実現には「ESCOT-VI」の働きも貢献する

クリーン&ハイパワーで好評の「GH11エンジン」。クオンをストレス無く走らせる高い性能を備え、これに「ESCOT-VI」を組み合わせ、高い燃費性能も実現する

## 3 新型Quonのインテリアデザインを体感しよう!

ドライバーの使い心地を追求して一新されたコックピットは、ドライバーとクオンがごく自然に対話できるデザインによって、安全・快適、そしてより一層効率的な運

転操作が可能となった。使用頻度の高い機能系スイッチはセンター部に集約、ドライバーが身体の向きを変えずとも手が届く“安全”配置が秀逸だ。

東京モーターショーでは、3つの異なるインテリアデザインコンセプトを展示する。フォトブースとしても利用でき、撮影した動画をダウンロードすることが可能だ。

なおクオンのキャビン展示では、ARヘッドセットを利用したバーチャル体験が可能。インテリアの特長をわかりやすく説明するのぜひ体感していただきたい。



東京モーターショーでは3つのデザインコンセプトのコックピットを展示。コンソールに囲まれるタイプの“コックピット”溢れるレイアウト。ドライバー目線でその高い機能性を体感したい

## 4 東南アジアなどで活躍! 新興国市場向け大型トラック Quester(クエスター)



展示されるのはクエスター6×4トラクター。GH11型の11ℓエンジンを搭載、トランスミッションは12速MTだ

新興国市場向けに2013年に登場したクエスターは、ボルボ・グループのグローバルな技術と日本のものづくりを結集して誕生した、頑丈で信頼性の高い、かつ燃費性能に優れた大型トラックだ。

2015年には8ℓエンジンの搭載や、多様なアクスルアレンジメントを含むフルラインアップ投入を完了。カーゴ車による長距離輸送

や、フットワークのいい市内配送、資材搬入の建設現場、オフロードを走る鉱山開発など、あらゆる業界・地域のビジネスニーズに合わせ、ほかに類を見ない自由なバリエーションが可能モデルだ。

このタフでハイユティリティな性能を武器として、東南アジアを皮切りに、アフリカ、中東と、投入地域も続々と拡大中だ。

## 5 世界に誇るボルボの主力ボルボFHの日本初出展モデル



展示車は540psを発生する13ℓのD13エンジンを搭載し、トランスミッションには許容トルクを増大させた前進12段のI-シフトを採用。尿素SCRシステムで排出ガスを浄化する

スウェーデンのメーカーとして、乗用車の世界でも有名なボルボ。高いステータスがその魅力だが、それはトラックも同じだ。この東京モーターショーでは、ビジネスの成功への大きな鍵となるドライバーを念頭に設計された、ボルボFHトラクターが展示される。このFHは2012年のフルモデル

チェンジでキャブデザインを大幅に変更し、従来の製品に比べて居住性や視認性、操作性を向上。また安全性を重視する日本のニーズに応え、AEBS、LDWS、VSP、レーンチェンジサポートといった先進安全機能を標準装備し、予防安全機能が高められている。ドライブライン関連では、平成

28年排出ガス規制に適合していることはもちろん、I-シフトも許容トルクを増大し、デュアルクラッチやクローラーギヤがオプション設定され、よりスムーズな走行が可能だ。世界トップクラスの革新的技術を備えたボルボFHは、ユーザーのビジネス効率に貢献するベストソリューションといえよう。



KEYWORD > 「LIGHT UP TOMORROW」

## 新たな“時代”の「クルマ」が続々走り出す。

三菱ふそうでは、「LIGHT UP TOMORROW」をテーマに、人や社会のために進化し続ける商用車のダイナミックな躍動と挑戦の姿を表現。常に革新をカタチにしてきた三菱ふそうのビジョンが、ブース一体となる斬新な光の演出やアートパフォーマンスとともに体感できる

TOPIC

### 1 未来への想いを描く「Vision One」e-Truckを象徴するコンセプトモデル

電気トラックのトップランナーをめざして、新たな挑戦を続ける三菱ふそうが考える次世代電気トラックのコンセプトモデルが世界に先駆けて初公開される。すでに完成している小型トラックとはまったく別の存在感を持つ、フルサイズの大型トラックだ。電気駆動によるゼロエミッションと、流れるフォルムのキャビンデザインや前後輪・後後輪ともスカートで

カバーすることにはじまるエアロ対策なども含めた高い環境性能、極限までストレスフリーを追求したシート、キャビン内、操作性による仕事場として使う人への快適性、さらに昇華させた先進のアクティブセーフティと積載物への負担も著しく軽減する振動緩和機能といった安全輸送への想いなど、確実に未来へとつながる一歩先のビジョンがいまここに示される。



現行最新のスーパーグレートの面影を残すものの、リファインされ尽くした外観を持つVision One

TOPIC

### 2 世界初の量産電気トラック「eCanter」都市配送にゼロエミッションを

世界中の都市が抱える環境問題への三菱ふそうの回答は「ゼロエミッション」だ。この世界初の量産電気トラック「eCanter」を日本初公開する。「電気で運ぶ」が輸送に

新時代の到来を告げる、「オール電気駆動」「ゼロ排出ガス」「ゼロノイズ」。さらに都市内配送に適した航続距離・高い積載性といった経済性、快適ドライブも実現している。



アンダーフレームにバッテリーを確認できるeCanter。東京モーターショーでは日本向けの右ハンドル仕様が公開される

TOPIC

### 3 劇的進化を遂げた大型トラック&観光バスフラッグシップをW展示

ディーゼル商用車の紹介エリアでは、21年ぶりに一新された大型トラック「スーパーグレート」と、最新の大型観光バス「エアロQueen」を展示。プロの仕事場が分かる運転席見学や、エアロQueen車内ではVR体験も実施。働くクルマの進化と感動の世界を体感できる。



Super Great (FP-Rセミトラクタ) この9月に発売させたトラクターを展示



Aero Queen (大型観光仕様) 車内は臨場感あふれるVR体験コーナーに。迫力の映像でニューワールドを楽しめる!

KEYWORD > 「もっと、はたらくトラック・バス」

## 人、物、そして「想い」を乗せてはたらく日野のクルマ

日野のトラック・バスは、もっと人や社会とつながり、もっと賢く便利になって、みんなの笑顔のために、たくさんの「想い」を運びます。

TOPIC

### 1 新世代の大型&中型トラック登場! 日野プロフィア&レンジャーに注目!



高級乗用車の車内を思わせるキャビン。ドライバーの「仕事場」としての環境が高水準で維持されている。直線を基調としたインパネ周りも視認性、操作性の高いレイアウトだ



日野プロフィアと同じ血脈を持ったデザインであることがわかる日野レンジャー。大型車の持つ気品や迫力が、中型車にもしっかりと踏襲されている

TOPIC

### 2 過酷な砂漠のレースを走破! 日野レンジャーを見に行こう

日野自動車は、世界一過酷といわれるダカールラリーに26回連続で参戦。東京モーターショーでは、実際にラリーで使用した「日野レンジャー」を展示。運転席に乗ったり、車両に触れたりできる

ほか、「日野チームスガワラ」のメンバーによるトークショーや、選抜メカニックによるタイヤ交換のデモンストレーションを行う予定だ(スケジュールは、日野のウェブサイトをご覧ください)。



実際にラリーに参戦した車両の前で、タイヤ交換のデモを行う日野チームスガワラのメカニック(前回東京モーターショーにて)

TOPIC

### 3 日野ポンチョのEVバージョン!

バスの世界でも「EVシフト」の波が押し寄せており、日野自動車では2012年からEVバスを実用化している。日本唯一の小型ノンステップバス、かわいデザインでおなじみの「日野ポンチョ」がEV化され、今日も各地で人々の移動を支えるコミュニティバスとして活躍している。



地域住民の大切な移動手段として欠かせない存在の日野ポンチョ。EV専用のフロントマスクで一層かわいらしい姿となった

# Feel Difference



煙<sup>\*1</sup>のにおいがしない、つかない、  
クリーンな新感覚たばこスタイル。

火を使わずに蒸気<sup>\*2</sup>で味わう  
“プルーム・テック”なら  
煙<sup>\*1</sup>による、においや空気の汚れを気にせず、  
さまざまな場面で楽しめます。

まずは、ご自宅などのプライベート空間で  
魅力を実感してください。

**ploom  
TECH**

the future is plooming

メビウス・クーラー・パープル・フォー・プルーム・テック

\*1 ここでいう煙とは、燃焼により発生する煙を指します。\*2 ここでいう蒸気とは、たばこ葉由来の成分が含まれた霧状のものです。なお、当社では、これをたばこペーパーと呼んでいます。  
本広告に記載されている本製品の性質・状態を表す「クリーン」の表現は、本製品の健康に及ぼす悪影響が他製品と比べて小さいことを意味するものではありません。

喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の一つとなり、心筋梗塞・  
未成年者の喫煙は、健康に対する悪影響やたばこへの依存をより  
妊娠中の喫煙は、胎児の発育障害や早産の原因の一つとなり

脳卒中の危険性や肺気腫を悪化させる危険性を高めます。  
強めます。周りの人から勧められても決して吸ってはいけません。  
ます。

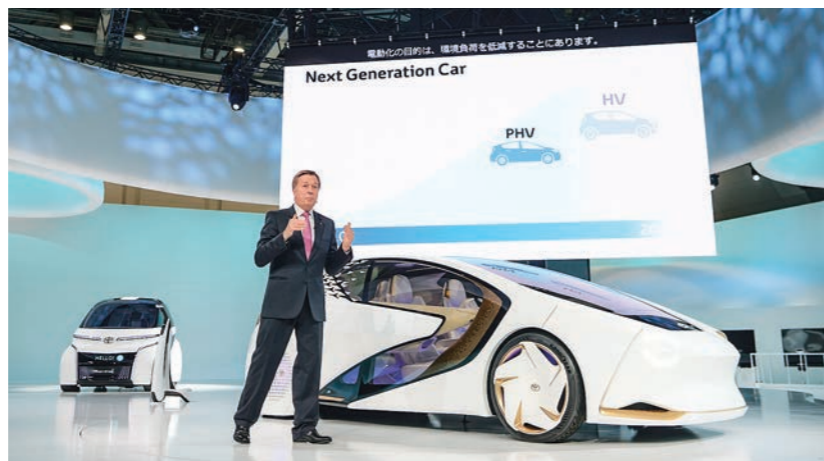
# TOYOTA トヨタ

西1ホール

## もっといい社会をつくるため、不可能にチャレンジする

**キ**ーワードは「Start Your Impossible」(「不可能と思えることにチャレンジしよう」)だ。トヨタは「グローバル・ビジョン」のコミットメントに沿って、東京2020オリンピック・パラリンピックのパートナーシップをきっかけに、グローバルな企業としてのチャレンジを開始。それにとめない「Mobility for All」(「すべての人に移動の自由を」)の実現に向けた決意を表明している。すべての人が参画し、「限界」を打ち破れるような社会づくりに貢献すべくトヨタは、多くの困難にも挑み続けるための多くの提案がある。

近未来の重要なソリューションのひとつであるEVはもちろん、愛する対象となるクルマとして「GR Hybrid Sports」や「Tj Cruiser」、人工知能により人を理解する「TOYOTA Concept-愛」シリーズ、そして2018年に日本のコネクティッドカーの新しい「基準」となると言うコンセプトをベースにした、「新型クラウン」など、ワクワクするような、「楽しい！」提案がある。



プレスブリーフィングに登壇したのは同社初の外国人副社長、ディディエ・エルロフ副社長。モビリティが実現すべき「自由」という価値のすばらしさを提唱。クラウンコンセプト(左)、ニューセンチュリー(右)の大型セダンにも注目

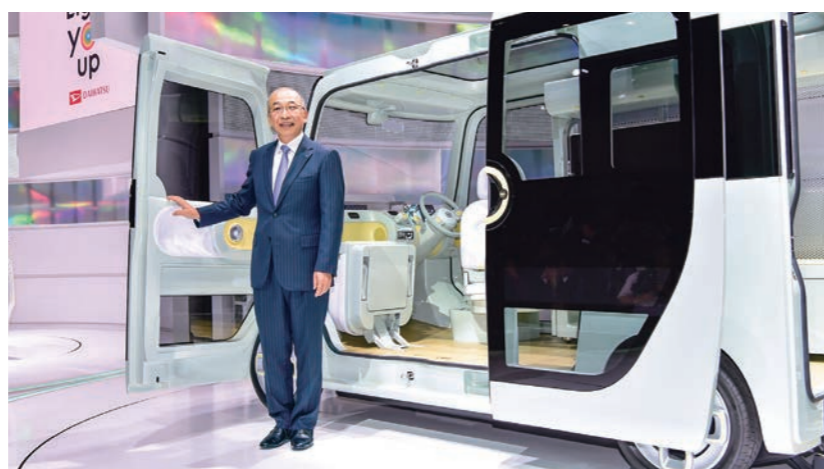
# DAIHATSU ダイハツ

西1ホール

## 軽自動車を核に大きなクルマまで軽やかで輝いた暮らしを提供

**今**年創立110周年となったダイハツは新しいグループスローガンである「Light you up 〜らしく、ともに、軽やかに〜」を展覧テーマに。今後はこのスローガンを軸に、モノづくりとコトづくりを進めていく。ダイハツは創業以来、小さなクルマにこだわりユーザーの暮らしに寄り添った良品廉価なクルマ作りをしてきた。現在、スモールカーは日常生活になくならない存在となっている。11年連続で軽自動車ナンバー1を獲得、軽の技術を生かしたクルマ作りは、インドネシアやマレーシアでも高く評価されている。

今後は軽を核としたダイハツならではの小から大のクルマ作り、DNGA=ダイハツ・ニュー・グローバル・アーキテクチャーを実現しさらに良品廉価を進め、ユーザーに軽やかで輝いた暮らしを提供していく。DNGAの開発にはEVや自動運転も含まれ、「先進技術をみんなのものに」をキーワードに安全、環境につながり合う世界をさまざまな分野で普及させていく。



電動マルチユースバンとなるDNプロカーゴの前に立つダイハツ社長の奥平総一郎氏(上)。名車の名を受け継ぐ4ドアコンパクトクーペのDNコンパノ(左)。多人数乗車を前提とした3列シートモデルのDNマルチックス(右)

# PORSCHE ポルシェ

東4・5・6ホール

## ポルシェ流未来のスポーツカーへのロードマップ

**ポ**ルシェブースでは、1948年生産開始のポルシェ 356から、最新のパナメーラターボS E-ハイブリッドまで、未来のスポーツカーへのロードマップをお見せする。

まず、ドイツ本国でも発表したばかりの新型カイエン。ポルシェ初のSUVとして登場して以来、15年間で50万台を販売したカイエンが、第三世代に進化。新型は、911のデザインモチーフを随所に取り入れながら、まったくの新型に。サーキット走行を難しくこなしつつ、ACCを標準装備するなど、一般道での快適性も確保する。エンジンは、すべてVバンクの間にターボを配した新世代エンジン。大幅な軽量化も実現している。

ポルシェとしてまったく新しいコンセプトを世に問うのは、パナメーラ・スポーツツーリスモだ。これをポルシェ社内ではワゴンとは呼ばない。センターアームレストに内蔵されたプラスワンシートによって、5名乗車を実現。ラゲッジスペースも拡大されている。



ポルシェジャパンの七五三木敏幸社長とアジアプレミアの第三世代カイエン。ジャパンプレミアのパナメーラスポーツツーリスモ(左)。どちらもスタイリングがポイントだ。ポルシェブースにはヘリテージモデル、356も展示されている(右)

# VW フォルクスワーゲン

東4・5・6ホール

## 大きな変革の時を迎えたフォルクスワーゲンの今後の展開

**フ**ォルクスワーゲンが掲げた新たな未来のロードマップが「Transform 2025」。これは、2025年までに現在のコアラインナップの刷新を意味している。Eモビリティおよび自動運転やコネクティビティに関する素早い変革を実施し、従来のラインナップに加え、まったく新しい電気自動車の「I.D.ファミリー」を展開していくことになった。またEモビリティ市場においては、2015年までに年間100万台を販売するという目標を掲げ、「I.D.BUZZ」を筆頭にEVを幅広く展開していく。このI.D.BUZZ、1960～1970年代のオリジナルバスであるタイプIIのヘリテージに、今後のフォルクスワーゲンの未来を融合したコンセプトモデルであるが、ジュネーブショーとDetroitショーで好評を得たことから、正式に発売することが決定している。

直近の日本市場向きとしては、パワートレインの拡大を表明。プラグインハイブリッドのGolf GTE、電気自動車のe-Golfの投入に加え、2018年度は新型ポロのデビューの予定を控えている。



Transform2025というロードマップを提唱したフォルクスワーゲン担当取締役のユルゲン・シュタックマン氏。フォルクスワーゲングループジャパンCEOのティル・シェア氏は、パワートレインの選択肢の拡大をアナウンス。「I.D.BUZZ」に注目

**AUDI** アウディ

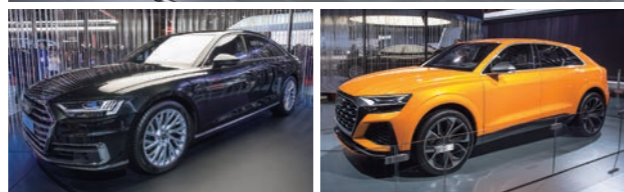
東4・5・6ホール

**人がクルマを操る楽しみを持つスポーツカーはなくなる**

**今** 回展示している「エレニス」は、2019年に生産開始する「Audi e-tron sportback」のプロトタイプといってもいいクルマだ。レベル4の高度な自動運転機能を搭載し、500kmの航続距離を持ち、日本にも2020年までに導入する予定。

来年日本で発売する新型A8は、自動運転機能を含め40種類ものドライバーアシスタントシステムを搭載する。アウディは、こうした自動運転技術が、事故を減らしてクルマの安全性を高めることはもちろん、自動車のモビリティの新しい可能性を信じているからだ。

いっぽうで、完全自動運転の時代が到来しても、人がクルマを操る楽しみを持ったスポーツカーは決してなくなると考える。来年は新型Audi RS 5アバントを発売する。AIによる高度な自動運転からスポーツスポーツまで、クルマはこれまでにないほど広がりのある多様な世界を提供している。その先の未来を信じて、アウディはこれからも先駆けて跳躍し続けていく。



ブースのテーマは、「Audi AI Experience」。Audi AIのイメージを、映像や光のアートで体験できる。中央に展示は「新型A8」で、両脇には「エレニス」と「Q8スポーツコンセプト」が並ぶ。スピーチはアウディジャパンの代表取締役社長、斎藤徳氏

**MITSUBISHI** 三菱

東4・5・6ホール

**「Drive your Ambition」で安心なクルマ社会へ**

**先** 日発表した中期経営理念「DRIVE FOR GROWTH」の最大の狙いは持続的成長の基盤を作ること。そこで日本のモノ作りの力、現場の力を成長させ、より魅力的なクルマを世に送り出すための設備投資に積極的に努めていく。そのなかでグローバルモデルの第一弾としてECLIPSE CROSSの日本仕様車を今回のモーターショーで公開する。

今でこそSUVは各メーカーで販売され人気を博しているが、三菱はまだSUVが特異な存在だったころから長年にわたって提供し続けてきた。そんなSUV全盛のなかで三菱の強みを生かして新価値を持つSUVを提供していく。電動化やVRなどを導入することでクルマに新しい価値を生みだしていきたいと考えている。

今年で三菱のクルマ作りは100周年を迎え、次の100年に向けてブランドを一新する。「Drive your Ambition」、これは三菱が歩む道を示すとともに決意でもある。今までになかった安心で安全なクルマ社会が実現できるように努めていく。



e-EVOLUTION CONCEPTと三菱益子修取締役CEO（右）と山下光彦取締役副社長執行役員（左）。ジュネーブモーターショーでも人気を博したECLIPSE CROSS（右）。今回が世界初公開となるe-EVOLUTION CONCEPT（左）

**LEXUS** レクサス

東4・5・6ホール

**AIなどを活用し、2020年代に一般道で自動運転を実現する**

**レ** クサスは時代を先取りし、新たな驚きと感動を提供することを信念として常にチャレンジを続けている。今回披露した「LS+Concept」はレクサスの新たな可能性と、近い将来に実現を目指す最新の自動運転技術を兼ね備えたコンセプトカーだ。デザインは次世代のスタディを提示。先進技術においては、2020年の自動車専用道路での自動運転を実現する。目的地のランプを降りるまで、合流や分岐、追い越し、レーンチェンジをクルマが提案。それをドライバーが承認することで安全・快適に目的地まで移動できる。通信でソフトウェアをアップデートすることで新機能を随時向上させていく。さらにビッグデータとAIの活用で、クルマの認知・判断性能も格段に向上させていくつもりだ。

自動車専用道路に留まらず、2020年代前半に一般道路での自動運転の実現にも取り組んでいく。「挑戦的なデザイン」「すっきりと奥深い走り」「匠の技」「創造的な先進技術」の4つの軸で、驚きと感動の体験を今後も提供していきたい。



デザインでは大胆さと緻密さという相反する要素の調和を目指したというコンセプトカー「LS+Concept」。開発中の自動運転技術「Highway Teammate」を搭載する。写真中央がレクサス・インターナショナルのプレジデント、澤良宏氏

**NISSAN** 日産

東4・5・6ホール

**将来の「ニッサン インテリジェント モビリティ」を具現化したゼロエミッション**

**将** 来の「ニッサン インテリジェント モビリティ」を見据え、「クルマとドライバーがより繋がり、もっとクルマで移動したくなる」そんなクルマを具現化した、100%電気自動車のクロスオーバーコンセプトカー「ニッサン IMx」を世界初公開する。この「ニッサン IMx」は「日産リーフ」に搭載している「プロパイロット」をより進化させ、ドライバーが運転に一切介在しない完全自動運転を実現した。クルマに任せてドライブができる「プロパイロットドライブモード（PDモード）」を選択すれば、ステアリングは格納され、乗員全員がリラックスしたまま移動することができる。もちろん「マニュアルドライブモード（MDモード）」を選択するとドライバーは好きな時に運転を楽しめる。このように生活を豊かにする電動車を中心として、多くの提案を行うことで「ニッサン インテリジェント モビリティ」が目指し、実現しようとする、意のままに操る喜びと、今までになかった移動の楽しさをブース全体で表現している。



日本・アジア・オセアニア事業担当副社長のダニエレスキラッチ氏が登壇。新たな車両接近通報音として検討している「カント」を響かせながら登場した「ニッサン IMx」を示し、「ニッサン インテリジェント モビリティ」の近未来を語った

## RENAULT ルノー

東4・5・6ホール

### F1参戦40周年を記念し展示モデルを全車スポーツモデルに

**F** 1に自然吸気エンジンが当たり前だった1977年にルノーはターボエンジンで参戦、以来40年間に渡って参戦している。F1参戦40周年となる今年の東京モーターショーではルノーの情熱を伝えるために、すべての展示車をスポーツモデルとした。

スポーツモデルを専門に手がけるルノー・スポール・カーズという組織があり、そのモデルが日本では非常に支持されている。フレンチタッチなデザインとスポーツというふたつの情熱に絞った販売戦略は好調で、今年は9年連続の前年比販売増を記録した。

プレスデー初日にはルノー・スポール・カーズのトップである、ジェネラルマネージャーのパトリス・ラティも来日。メガーヌRSに関して「ルノーのスポーツカーに関してはパフォーマンスこそが大切、モータースポーツで学んできた情熱を伝えてきた。メガーヌRSはスポーツモデルのフラッグシップ。走る喜びを手に入れてもらいたい」と熱く語った。



アンバールされたメガーヌRSの前に並んでいるのは、ルノー日本社長の太極司氏と、ルノー・スポール・カーズ・ジェネラルマネージャーのパトリス・ラティ氏。メガーヌGT（左）、トゥインゴGT（右）ともに日本でも人気が高い

## SUZUKI スズキ

東7・8ホール

### 乗る人すべてをワクワクさせたい!

**ス** ズキブースのテーマは「"ワクワク"を、誰でも、どこへでも」。乗り物は常に人をワクワクさせるものでなければならない。まずご紹介したいのは、未来のEVコンパクトSUV、e-サバイバー。スズキ4WDのDNA、ラダーフレームと軽量小型ボディを組み合わせた、近未来感にも満ちたフォルムは、4つのモーターによって駆動される。

スペースリアコンセプトは、楽しさを詰め込んだ軽ハイワゴンだ。ワクワク+安全のため、従来のデュアルカメラブレーキサポートに加え、後退時ブレーキサポートも装備し、前後の安全をサポートする。X BEE（クロスビー）は、「もっとみんなで、もっと遠くまで、もっとカッコよく」を実現できる、1.8ターボエンジン搭載のコンパクトSUV。この2台は、まもなくお届けできる予定だ。

スズキは、2020年に創立100周年を迎える。次の100年に向けてさらに安全で、乗る人すべてをワクワクさせたいという思いをお届けする。



ブリーフィングする鈴木俊宏社長。e-サバイバー（左）は、スズキのコンパクト4WDの伝統と近未来感を融合した期待のEV。スペースリアコンセプト（上）とX BEE（クロスビー）の2台は、まもなく市販化される予定となっている。期待したい

## SUBARU スバル

東4・5・6ホール

### スバルらしい安心で楽しいドライビングの世界観の提示

**今** 年4月に「SUBARU」へと社名を変更して以来、おかげさまで「SUBARU車とともにある人生」を楽しんでいらっしゃる人の数はグローバルレベルで大きく増加している。航空機メーカーに端を発する我々の「常に最高水準の安全性を追求する」というDNAと、それと同時にある「走る楽しさ」が、世界中の多くの人々に支持されているものと認識している。そんな我々の「安全と楽しさ」を追求する想いを形にしたのが、世界初公開となる「SUBARU VIZIV PERFORMANCE CONCEPT」。現在のSUBARUに共通する「DYNAMIC×SOLID」というデザインフィロソフィーと、進化型アイサイトおよび各種デバイスを組み合わせた高度運転支援技術を、運転を積極的に愉しみたいくなるスポーツセダンに搭載することで、SUBARUらしい安心で楽しいドライビングの世界観を提示している。来月アメリカで発表される新型SUV「ASCENT」を含め、今まで以上に際立った個性と価値を提供していきたい。



ブリーフィングに臨んだSUBARU 吉永泰之社長。モータースポーツの世界で培ったノウハウが詰まったWRX STI [S208]（左）と、「走る楽しさ」と最先端の高度運転支援技術を両立させたVIZIV PERFORMANCE CONCEPT（右）

## HONDA ホンダ

東7・8ホール

### ホンダらしさは電動化時代にも健在であると明言

**す** べての人に生活の可能性が広がる喜びを提供する。その想いの具現化の証が、多岐に渡るホンダの商品です」と述べたホンダ技研工業株式会社・代表取締役社長の八郷隆弘氏。続けて「役立つ喜び・操る喜び」は、さらなるカーボンフリーに向けた電動化においても実現すると明言した。その具現化として、EVモデルの3つのコンセプトモデルを提案。ひとつはEVとAIを組み合わせ、コンパクトで低重心が図られたHonda Sports EV Concept。次に自動運転技術とAIにより、モビリティの可能性を探るEVコミューターのHonda NeuV。最後は親しみやすいデザインにEV性能と人工知能を組み合わせたHonda Urban EV Concept。EVでありながら、役立つ喜びと操る喜びも提供するという、ホンダらしいワクワクするモデルとなっているようだ。また2018年には、すでに北米でデビューしているCR-Vのハイブリッド&3列シートモデルとクラリティPHEVが国内にも導入予定である。



初代シビックを彷彿させるHonda Urban EV Concept（左）と、初披露となったHonda Sports EV Concept（上）は、ともにEV専用のプラットフォームが与えられている。また、多くの人に愛されるデザインもまた魅力のコンセプトモデルだ

## KAWASAKI カワサキ

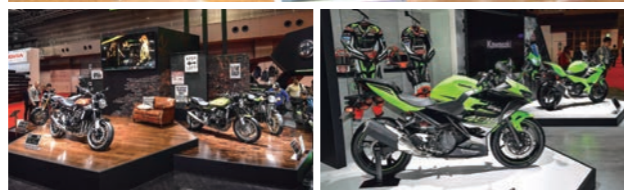
東7・8ホール

### 操る喜びを追求し続ける「RIDEOLOGY」のこだわり

**当** 社は、1950年代当初よりモーターサイクルは心を豊かにするレジャー製品と位置づけて取り組んできた。ハイパフォーマンスマシンを思いどおりに操る達成感、すなわち「操る喜び」を追求し続けてきた。このこだわりが、「RIDEOLOGY」であり、時に「カワサキは違う」と表現される所以だろう。そのパフォーマンスを象徴するZやNinjaという製品ブランドが長きに亘り愛されてきたのもこの伝統のためものだと考えている。そして、今回発表するモデルたちにも、しっかりとその「RIDEOLOGY」が込められている。いま、IoTやAIの活用が注目されているが、当社も「RIDEOLOGY」を深化させたコネクテッドモーターサイクルの実現に取り組んでいる。高度でパーソナルな走行支援をリアルタイムで提供できる未来を見据えている。世界中のライダーが、高い安心感に包まれながら、「操る喜び」に心置きなく浸っている。それが、人々の豊かな生活に貢献する川崎重工グループのモーターサイクルが目指す未来だ。



川崎重工常務取締役の太田和男氏がスピーチ。ブース中央には「Z900RS」が鎮座し、「操る喜び」を表現するカスタムプロジェクトとして特別な世界観を持つ3台のZ900RSも展示。新型Ninja 250とNinja 400もワールドプレミアされた。



## YAMAHA ヤマハ

東7・8ホール

### 新分野の研究開発を通し、モビリティの世界をさらに広げたい

**ブ** ランドスローガン「Revs your Heart」の実現のため、様々な製品を提案することでモビリティの世界をもっと広げたい。まずはLMW(リーニング・マルチ・ホイール)の小型電動立ち乗りモビリティ「TRITOWN」。体重移動で方向を変えることができ、幅広い人の移動ツールとなる。大型LMW「NIKEN」は旋回時の安定性というLMWの特徴を活かし、ワインディングを駆け抜ける高いスポーツ性能を実現する。電動四輪の「CROSS HUB CONCEPT」はコンパクトサイズでも2台のモーターサイクルを搭載できる、ヤマハファンのための提案だ。デザインはモーターサイクルと楽器から発想した。

いっぽう2015年に生まれた自律走行ロボット「MOTOBOT」は200km/h以上の走行に成功。さらに、人の声に応じて発進～低速走行～停止する「MOTOROID」を新たに開発した。認識・判断性能の研究を通して人との一体感を目指す。こうした研究開発を通してヤマハらしい、もっと広がるモビリティの世界を実現したい。



柳社長の発声で動き出した「MOTOROID」。本来不安定になる低速域でしっかりと自律走行した(右)。四輪車研究は今後も継続する(左)。フロント二輪リア一輪でスタートしたLMWだが、前後二輪という四輪の可能性も探っている(上)

## HONDA (二輪) ホンダ

東7・8ホール

### 二輪でも新たなチャレンジのコンセプトに挑戦

**四** 輪では興味深いEVのコンセプトモデルを登場させたホンダだが、二輪においても新たなチャレンジのコンセプトモデルを披露している。Honda Riding Assist-e。ホンダのロボティクス技術で培った独自のバランス制御技術を二輪車に応用し、転倒リスクを軽減し、安心して二輪車を楽しめる新たな可能性を与えた実験車だ。また、電動化のチャレンジは二輪車においても忘れていない。小型スクーターのPCXでは、完全EVのPCX ELECTRICに加え、エンジンをバッテリーがアシストするPCX HYBRIDという2台のコンセプトモデルを用意。共に日本を含むアジア地域で2018年に市販予定とのこと。特にPCX HYBRIDは二輪車で世界初のハイブリッドという、非常に興味深いモデルでもある。また、スポーツバイクの楽しさと美しさを新世代の車体に融合した、Neo Sports Conceptの実車もこの東京モーターショーで初披露となっている。さらに、新型ゴールドウィングが2018年の4月から国内で販売開始予定である。



ホンダのヒューマノイドロボット技術で培った、独自のバランス技術を搭載したコンセプトモデルがHonda Riding Assist-e。倒れるという最大の弱点を、最新技術で補い、誰もが安全に二輪車を楽しめることを提案している。

## BMW ビー・エム・ダブリュー

東1・2・3ホール

### 5台のアジア・プレミアに熱視線!

**東** 京モーターショーのテーマ「世界をここから動かそう」にふさわしいモデルを用意した。2台のコンセプトを含む5モデルをアジア地域で初めて披露する。数年後に発売を予定しているモデルのデザイン試作車である「BMWコンセプトZ4」、今後導入予定の新型BMW 8 シリーズクーペのテストをまとい、BMW クーペの本質である運動性能、高級感、圧倒的な存在感を具現化した「BMWコンセプト8シリーズ」を始め、BMW M 5、BMW6シリーズ・グランドツーリスモ、そしてBMW X3などがアジア・プレミアとなる。もちろん電動プレミアムマキシスクーターであるBMW C evolutionや100%電気自動車のBMW i3、プラグイン・ハイブリッド・テクノロジーであるBMW i8など、EV社会へのBMW独自の提案も忘れてはいない。こうして四輪モデルだけでなく、二輪モデルも含めた数多くの魅力的な展示・提案によって、BMWが一貫して主張している「駆けぬける歓び」を存分に理解出来るだろう。



「BMWコンセプトZ4」を始め、アジア・プレミアとなるコンセプトモデルなど、ここでしか見ることのできないBMWの世界をご覧ください」とBMWジャパンのペーター・クロンシュナール代表取締役社長

## Nicole Automobiles ニコル・オートモビルズ

東1・2・3ホール

### ニコル・レーシング・ジャパン40周年にあたる今年は2台をジャパンプレミア

**1** 977年に設立されたニコル・レーシング・ジャパンは今年で40周年となる。当社は1979年からBMWアルピナ車の輸入を開始。現在に至るまで、5000台を超えるBMWアルピナ車を輸入した。

今回の東京モーターショーにはドイツ、アルピナ社の代表取締役社長であるアンドレアス・ポーフエンジャー氏も来日し、ニコル・レーシング・ジャパンがレーシングパーツの販売から始めた事業を自動車ビジネスへと発展させ、親密な関係にあることをスピーチで披露した。

2017年はモデルチェンジの関係で販売台数が少なくなったが、2018年は今回ジャパンプレミアした、新しいBMWアルピナB5 Bi-Turbo ツーリングとBMWアルピナD5 Sを導入予定である。B5 Bi-Turbo ツーリングはBMW5シリーズ ツーリングには設定のないV8エンジンが搭載されることなどから、すでに100件を超える先行予約を受けており、2018年の販売台数は大幅に増えることが予想される。



来日したドイツ、アルピナ社の代表取締役社長であるアンドレアス・ポーフエンジャー氏(左)とニコル・オートモビルズ代表のニコ・ローレグ氏(右)(ともに上写真)。BMWアルピナB5 Bi-Turbo ツーリング(右)、BMWアルピナD5 S (左)

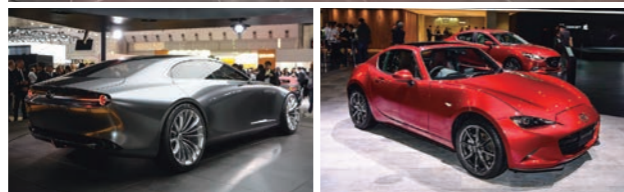
## MAZDA マツダ

東1・2・3ホール

### デザイン、内燃機関などさまざまな挑戦をショーで具現化

**当** 社は現在「構造改革」の第2ステージにあり、質的価値とブランド価値の向上に努めている。そしてマツダは「走る喜び」によって、クルマを愛するすべての人々に人生の輝きを提供したいと考えている。

「サステイナブル“ZOOM-ZOOM”宣言2030」におけるCO<sub>2</sub>削減については、内燃機関と電動化技術を適材適所で展開するマルチソリューションが最適と考える。そのなかでも内燃機関に関しては、当社の「SKYACTIV-X」にぜひご期待いただきたい。世界初公開となる「マツダ 魁 CONCEPT」は、そのSKYACTIV-Xと、人間中心の思想を突き詰めた「SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE」の組み合わせ。日本の美意識を体現し、よりアーティスティックな表現を目指す次世代デザインを、コンパクトカーのフォルムに凝縮した。単純に豪華であったり高価だったというとは違う、独自の「MAZDAプレミアム」を今後とも追い求めていきたい。我々の挑戦に期待してほしい。



次世代の技術とデザインを融合させた世界初公開のハッチバックコンセプト「魁 CONCEPT」とマツダ小銅雅道社長兼CEO。次世代デザインが目指すスタイル「VISION COUPE」(左)と、ロードスター RF (右)

## MERCEDES-BENZ メルセデス・ベンツ日本

東1・2・3ホール

### メルセデスの次世代カーがジャパンプレミア!

**メ** ルセデス・ベンツ日本では、現在搭載されている最先端テクノロジーを、より多くのお客様に知っていただきたい。

その戦略は「CASE」。Cはコネクテッド、Aは自動運転、Sはシェア&サービス、Eは電気自動車。Eに関しては、新たに「EQ」というブランドも設立した。

コンセプトEQAは、最高出力200kw以上、最大航続距離400km以上。ボディの仮想グリルは、走行モードによってデザインが変わる、魅力的で柔軟性に満ちたコンパクトEVだ。

いっぽうGLC F-CELLは、世界初の燃料電池+プラグインハイブリッド車。水素だけで400km以上、充電で50kmの走行が可能だ。メルセデスは、2022年までに、10モデル以上のEVの発売を予定する。

そのほか、オンラインストアで購入の決済まで可能なweb限定モデルの発売や、メルセデスmeストアの展開など、新しいサービスにも取り組んでいく。



メルセデス・ベンツ日本社長 上野金太郎氏が、総合的な部分をブリーフィング。ダイムラー社、メルセデス・ベンツ・カーズ営業・マーケティング統括、ブリッター・ゼーガー氏が、2台の展示車両の詳しい説明を行った

## smart スマート

東1・2・3ホール

### 未来のモビリティがどうあるべきかを提案

**モ** ビリティでありコンパクトカーであり、この分野におけるけん引的存在でもあるsmart。東京モーターショーに持ち込まれた最新のコンセプトカーは、まさしく未来のモビリティがどうあるべきかを提案しているsmart vision EQ fortwo。ステアリングホイールやペダルも存在しない、レベル5となる完全自動運転であり、かつカーシェアリング専用車種としている。従来のコミューターともタグシーとも異なる、完全自動運転のカーシェアリング専用車こそ、smartが描く未来のモビリティのひとつというわけだ。

さらに外部とのコミュニケーションを図ることができることも、smart vision EQ fortwoの特長。フロントバンパー内には「お先にどうぞ」などのサインを記すことが可能であるため、より安全かつ快適なモビリティライフを送ることが可能になるはずだ。また充電に関しては無線充電機能を備えているため、より効率よくエネルギーチャージを可能にしている。



smart vision EQ fortwoの説明をしたダイムラー社のスマート責任者、アネット・ウィンクラウ氏。カーシェアでありながら、ボディカラーの変更も可能だという。また自動トランスポーターとしても活用できるなど、幅広い活躍が期待できる

# PEUGEOT プジョー

## 充実したSUVドライビングエクスペリエンスを約束

2 015年の東京モーターショーで皆さんとお会いしてから2年が経過した。その間、プジョーはSUVへの取り組みを完成させている。どのモデルもすでに日本でお披露目しているが、2008、新型3008に続いて、今回5008を日本市場に投入したことで、プジョーブランドのSUVはトップレンジを拡充することができた。これらのラインアップで、お客様が充実したSUVドライビングエクスペリエンスを得られることをお約束している。

また今回、新型の308も会場でお披露目しているが、同車はプジョーブランドの成長に大いに貢献しているモデルだ。プジョーブランド全体としてもこの2年間は順調な伸びをみせているが、特に308は、昨年ブルーHDi（ディーゼル）を導入して以来、販売が約40%も伸び、現在も成長を続けている。当社は2018年以降も、毎年、電気自動車やプラグインハイブリッドなどのニューモデルを投入する予定。プジョーブランドは今後も製品サービスを充実させていく。



プジョー・シトロエン・ジャポン代表取締役社長、クリストフ・プレヴォ氏のスピーチ後、欧州でフェイスリフトを敢行した新型308が会場でお披露目された。さらにブース内には、2008、3008、5008と最新のSUVラインアップが勢ぞろい

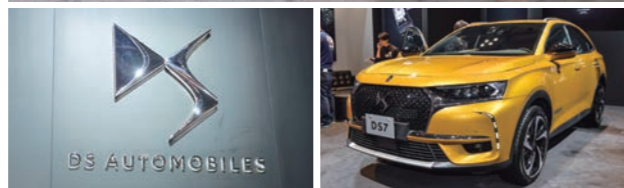
東1・2・3ホール

# DS ディーエス

## DS7クロスバックは革新的な技術を多数搭載した一台

D Sブランドを日本で展開し始めて2年が経った。ディーラーネットワークは着実に展開しているが、これにともなって新たにオーナー向けのサービス「DS ONLY YOU」を開始する。これはコンシェルジュサービスなど7つのサービスから構成されるもので、詳細は追って公開していく。

今回日本で初お披露目・受注を開始するニューモデル「DS7 クロスバック」はフランスの職人技にあふれた、セグメント中最もハイテクノロジーな一台だ。自動運転に向けて一歩を踏み出す「DS コネクティッドパイロット」や、前方100mまでの歩行者や動物を認識するDSナイトビジョンなど6つのセーフティ機能を搭載。さらにDSを象徴するハイドロニューマチックサスペンションから数十年経った今、新たに開発した革新的なサスペンション「DSアクティブスキャン サスペンション」を装備する。エンジンはガソリンとディーゼルで、アイシン製のPSAグループ初となる8速ATを搭載する。



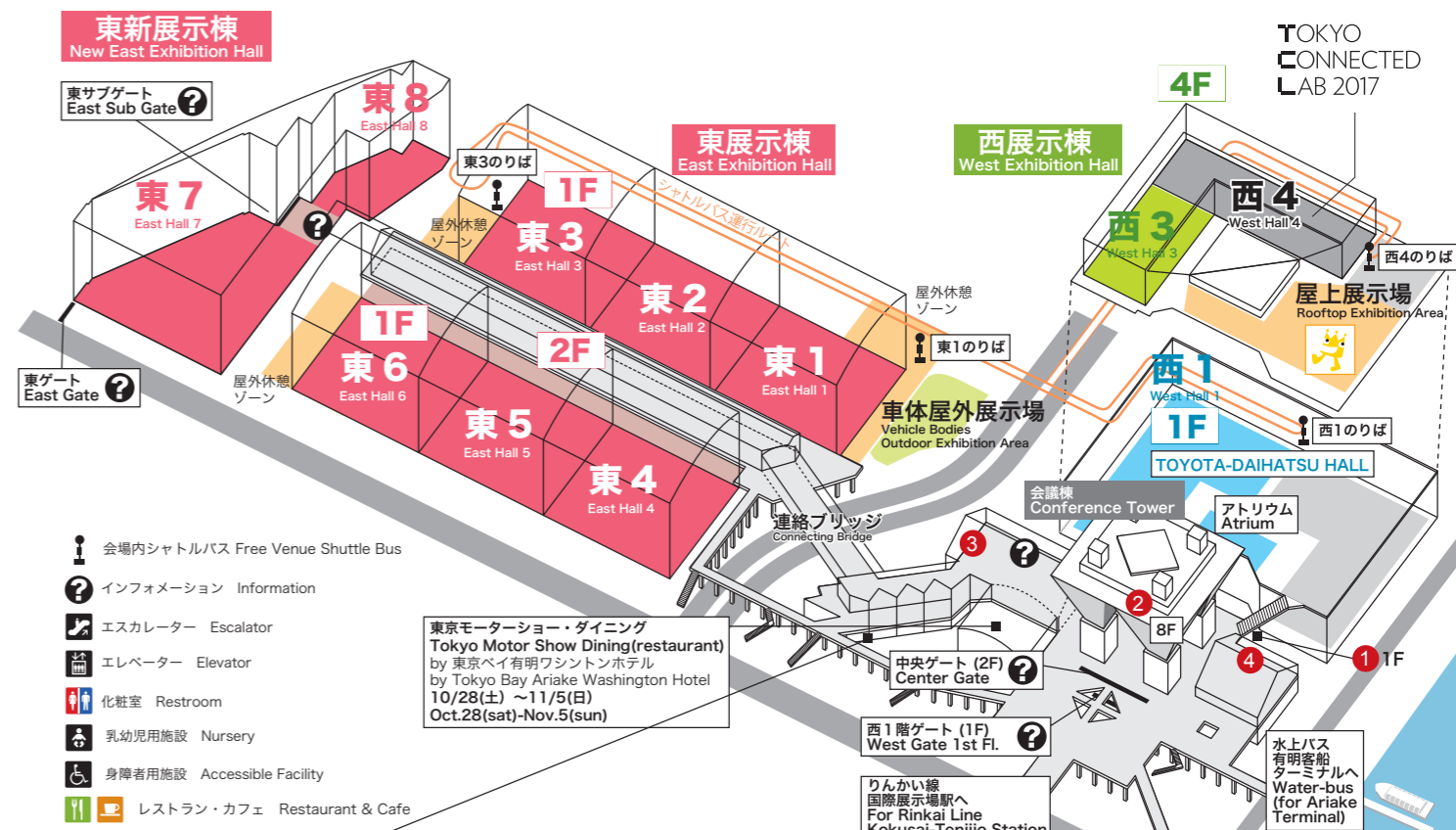
「DSは日本人に愛されるキャラクターだと思う」と、駐日フランス大使のローラン・ビック氏(写真中央)。写真左はDSブランドのプロダクト統括責任者のエリック・アボト氏

東1・2・3ホール

# BEYOND THE MOTOR SHOW 東京ビッグサイト 会場案内図

The 45th TOKYO MOTOR SHOW 2017

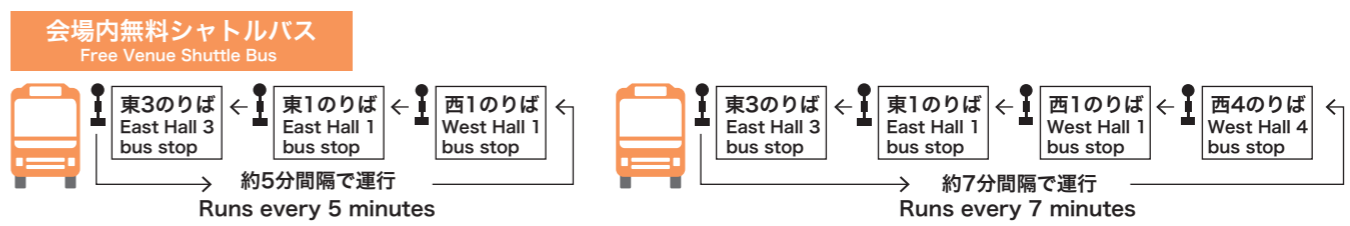
TOKYO MOTOR SHOW 2017 Tokyo Big Sight Map



- 🚗 会場内シャトルバス Free Venue Shuttle Bus
- 📍 インフォメーション Information
- 🚶 エスカレーター Escalator
- 🚪 エレベーター Elevator
- 🚻 化粧室 Restroom
- 👶 乳幼児用施設 Nursery
- ♿ 身障者用施設 Accessible Facility
- 🍽️ レストラン・カフェ Restaurant & Cafe



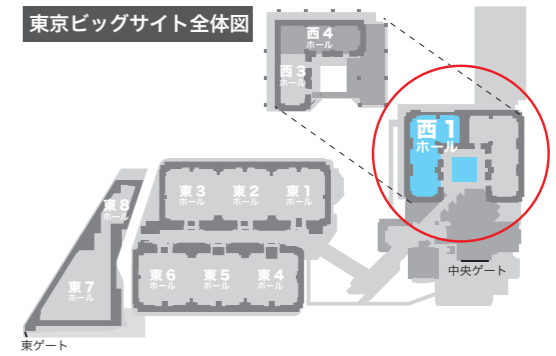
- 1 フードコート&ビア Eat iT! FOOD COURT&BEER Eat iT!
- 2 アルポルト Al Porto
- 3 プロント PRONTO
- 4 タリーズコーヒー Tully's Coffee
- 5 カフェテリア マーメイド Cafeteria Mermaid
- 6 スターバックス Starbucks
- 7 ザ・ビッグラウンジ THE BIG LOUNGE
- 8 和食屋 Wasyoku-ya
- 9 日比谷マツモトロー HIBIYA Matsumotoro
- 👑 グルメキングダム2017 Gourmet Kingdom 2017



(運行日時) 10/28 (土) -11/5 (日) 10:00~20:00 (日曜日は18:00まで)  
Dates and hours of operation: 10/28 (Saturday)-11/5 (Sunday) 10:00-20:00 [Sundays to 18:00]



# 西展示棟1階 West Exhibition Hall 1F



## 車体 Vehicle Bodies

**WB01** トヨタ車体(株) Toyota Auto Body Co., Ltd.

## スポンサー Sponsor

**SS04** (株)ソニー・インタラクティブエンタテインメント Sony Interactive Entertainment Inc.

## 新聞・雑誌コーナー Newspaper & Magazine Corner

- |                              |                                      |
|------------------------------|--------------------------------------|
| <b>NM01</b> (株)交通毎日新聞社       | Kotsu Mainichi ShimbunSha Co., Ltd.  |
| <b>NM02</b> (株)ほると出版         | Porte Publishing Co., Ltd.           |
| <b>NM03</b> (株)カーアンドレジャーニュース | Car and Leisure News Inc.            |
| <b>NM04</b> (株)ネコ・パブリッシング    | Neko Publishing Co., Ltd.            |
| <b>NM05</b> (株)八重洲出版         | Yaesu Publishing Co., Ltd.           |
| <b>NM06A</b> (有)三樹書房         | Miki Press, Inc.                     |
| <b>NM06B</b> (株)グランプリ出版      | Grand Prix Book Publishing Co., Ltd. |
| <b>NM07</b> (株)モーターマガジン社     | Motor Magazine Ltd.                  |
| <b>NM08</b> (株)三栄書房          | San-eishobo Publishing Co., Ltd.     |
| <b>NM09</b> (株)講談社ビーシー       | Kodansha-BC Co., Ltd.                |
| <b>NM10</b> (株)フォーイン         | Fourin, Inc.                         |
| <b>NM11</b> (株)交通タイムス社       | Kotsu Times Sha Co., Ltd.            |
| <b>NM12</b> (株)内外出版社         | Naigai Publishing Co., Ltd.          |
| <b>NM13</b> (株)日刊自動車新聞社      | Nikkan Jidosha Simbun, Inc.          |

- インフォメーション Information
- エスカレーター Escalator
- エレベーター Elevator
- 化粧室 Restroom
- 乳幼児用施設 Nursery
- コインロッカー Coin Locker
- 救護室 First Aid
- 身障者用施設 Accessible Facility
- レストラン・カフェ Restaurant & Cafe
- 喫煙場所 Smoking Area
- オフィシャルグッズショップ Official Merchandise Shop
- 自動車ガイドブック販売所 Japanese Motor Vehicle Guidebook Store

# 西展示棟4階 West Exhibition Hall 4F

西展示棟4階  
West Exhibition Hall 4th Fl.

西 4  
West Hall 4



## スポンサー Sponsor

- SS05 (株)タカラトミー TOMY Co., Ltd.
- SS06 カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株) Culture Convenience Club Co., Ltd.
- SS07 首都高速道路(株) Metropolitan Expressway Co., Ltd.

## 部品・機械器具/自動車関連サービス Parts, Machinery and Tools/Automobile Related Services

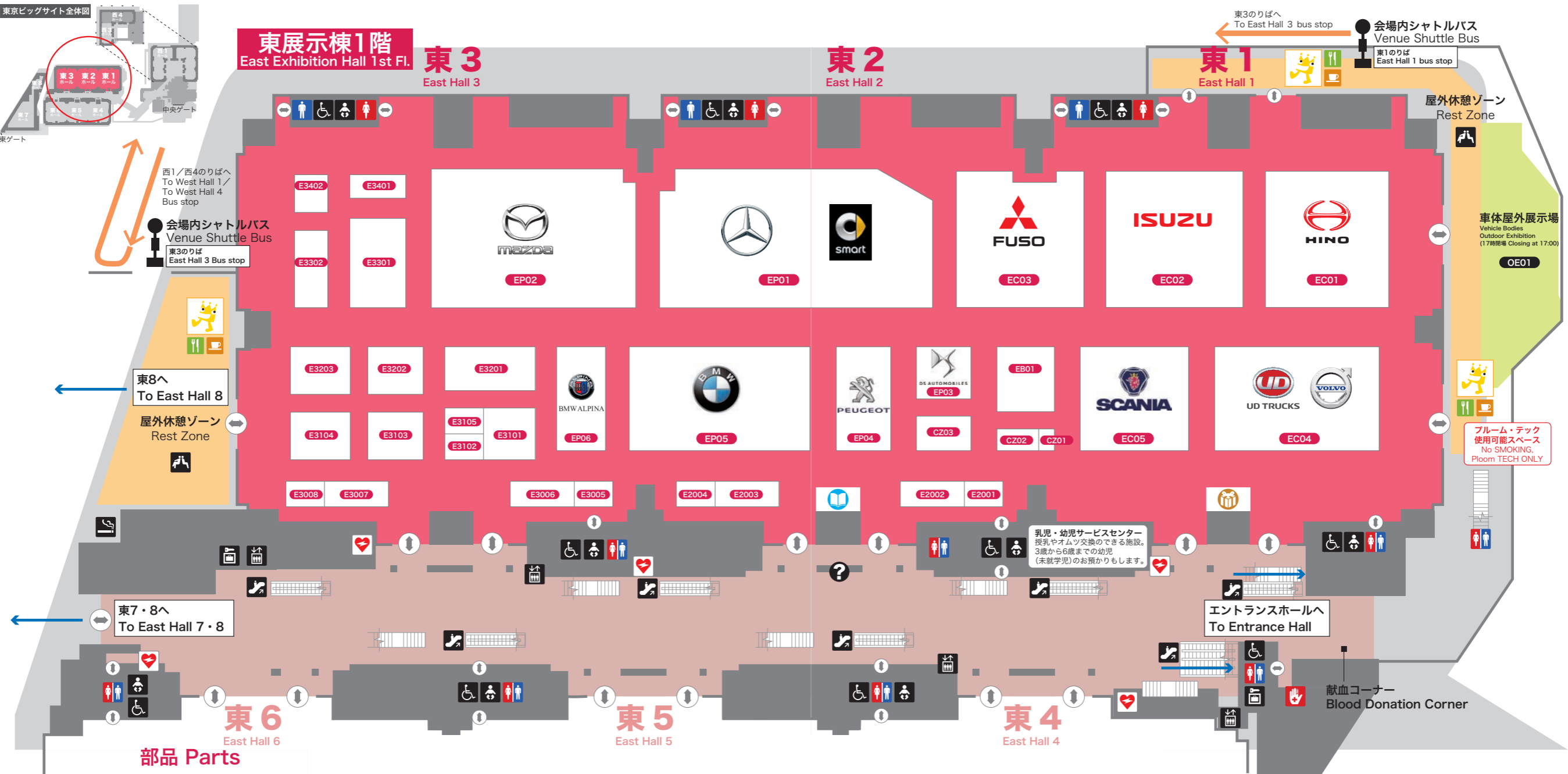
- W3001 九都府市首脳会議環境問題対策委員会(大気保全専門部会) Environmental Management Committee of the National Capital Region Nine Government Summit Council
- W3101 (一社)日本自動車連盟 Japan Automobile Federation
- W3201 国土交通省自動車局(独)自動車事故対策機構 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Road Transport Bureau National Agency for Automotive Safety and Victims' Aid
- W3301 国土交通省自動車局 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Road Transport Bureau
- W3302 (一社)全国自動車標板協議会 National Automobile License Plate Council
- W3401 (株)リケン Riken Corp.
- W3402 水戸工機(株) Mito Tool Mfg. Co., Inc.
- W3403 京都機械工具(株) Kyoto Tool Co., Ltd.
- W3404 (株)アルティア Altia Co., Ltd.
- W3405 モリテックススチール(株) Molitec Steel Co., Ltd.
- W3406 協和工業(株) Kyowa Kogyo Co., Ltd.
- W3407 (株)杉浦製作所 Sugiura Seisakusho Co., Ltd.
- W3408 (株)松井製作所 Matsui Universal Joint Corp.
- W3501 日本サーモスタット(株) Nippon Thermostat Co., Ltd.
- W3502 (株)レイズ Rays Co., Ltd.
- W3503 アーコニック・ジャパン(株) Arconic Japan Ltd.
- W3504 イサム塗料(株) Isamu Paint Co., Ltd.
- W3505 ユアサ工機(株) Yuasa Co., Ltd.
- W3506 日本ピストンリング(株) Nippon Piston Ring Co., Ltd.
- W3507 三輪精機(株) Sanwa Seiki Ltd.
- W3508 TPR(株) TPR Co., Ltd.
- W3601 (株)クゼー Kuzeh Corp.
- W3602 東京機器(株) Tokyo Roki Co., Ltd.
- W3603 大同メタル工業(株) Daido Metal Co., Ltd.
- W3604 (株)ファインシンター Fine Sinter Co., Ltd.
- W3605 マブチモーター(株) Mabuchi Motor Co., Ltd.
- W3606 HKT(株) HKT Corp.
- W3607 IPF(株) IPF Corp.
- W3608 朝日電装(株) Asahi Denso Co., Ltd.

## TOKYO CONNECTED LAB 2017

- TCL01 トヨタ自動車(株) Toyota Motor Corp.
- TCL02 本田技研工業(株) Honda Motor Co., Ltd.
- TCL03 日産自動車(株) Nissan Motor Co., Ltd.
- TCL04 KDDI(株) KDDI Corp.
- TCL05 (株)デンソー DENSO CORPORATION
- TCL06 WHILL(株) WHILL K.K.
- TCL07 (株)IHI IHI Corp.
- TCL08 (一財)道路交通情報通信システムセンター Vehicle Information and Communication System Center
- TCL09 (一社)水素供給利用技術協会 The Association of Hydrogen Supply and Utilization Technology
- TCL10 国土交通省道路局 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Road Bureau
- TCL11 美園タウンマネジメント協会 The Consortium for Town Management of Misono
- TCL12 環境省 Ministry of the Environment
- TCL13 (株)ハタプロ Hatapro, Inc.
- TCL14 Ninebot Inc.
- TCL15 Global Mobility Service(株) Global Mobility Service, Inc.
- TCL16 旭硝子(株) Asahi Glass Co., Ltd.
- TCL17 (株)MSソリューションズ MS Solutions Co., Ltd.

- エスカレーター Escalator
- エレベーター Elevator
- 化粧室 Restroom
- 乳幼児用施設 Nursery
- コインロッカー Coin Locker
- 身障者用施設 Accessible Facility
- グルメキングダム2017 Gourmet Kingdom 2017
- レストラン・カフェ・休憩ゾーン Restaurant & Cafe Rest Zone
- 喫煙場所 Smoking Area
- AED 自動体外式除細動機 AED/Automated External Defibrillator

# 東展示棟1階 East Exhibition Hall 1F



## 部品 Parts

- E2001** 住友理工(株)
- E2002** 曙ブレーキ工業(株)
- E2003** ジヤトコ(株)
- E2004** Öhlins Racing AB
- E3005** NOK(株)
- E3006** 日本特殊陶業(株)
- E3007** 日本発条(株)
- E3008** (株)ヨロズ
- E3101** Schaeffler AG
- E3102** 日信工業(株)
- E3103** MAHLE GmbH  
(株)マレフィルタースステムズ  
マレエンジンコンポーネンツジャパン(株)  
マレベアージャパン(株)  
マレエレクトリックドライブズジャパン(株)
- E3104** (株)ジェイテクト
- E3105** (株)エクセディ
- E3201** Continental Automotive Corp.
- E3202** Robert Bosch GmbH  
ボッシュ(株)

- Sumitomo Riko Co., Ltd.
- Akebono Brake Industry Co., Ltd.
- Jatco Ltd.
- NOK Corp.
- NGK Spark Plug Co., Ltd.
- NHK Spring Co., Ltd.
- Yorozu Corp.
- Nissin Kogyo Co., Ltd.
- MAHLE Filter Systems Japan Corp.  
MAHLE Engine Components Japan Corp.  
MAHLE Behr Japan KK  
MAHLE Electric Drives Japan Corp.
- JTEKT Corp.
- Exedy Corp.
- Bosch Corp.

- E3203** NTN(株)
- E3301** アイシン精機(株)  
アイシン高丘(株)  
アイシン化工(株)  
アイシン・エイ・ダブリュ(株)  
アイシン・エーアイ(株)  
(株)アドヴィックス
- E3302** 日本精工(株)
- E3401** (株)ケーヒン
- E3402** (株)ソニックデザイン
- NTN Corp.
- Aisin Seiki Co., Ltd.  
Aisin Takaoka Co., Ltd.  
Aisin Chemical Co., Ltd.  
Aisin AW Co., Ltd.  
Aisin AI Co., Ltd.  
Advics Co., Ltd.
- NSK Ltd.
- Keihin Corp.
- Sonic Design Co., Ltd.

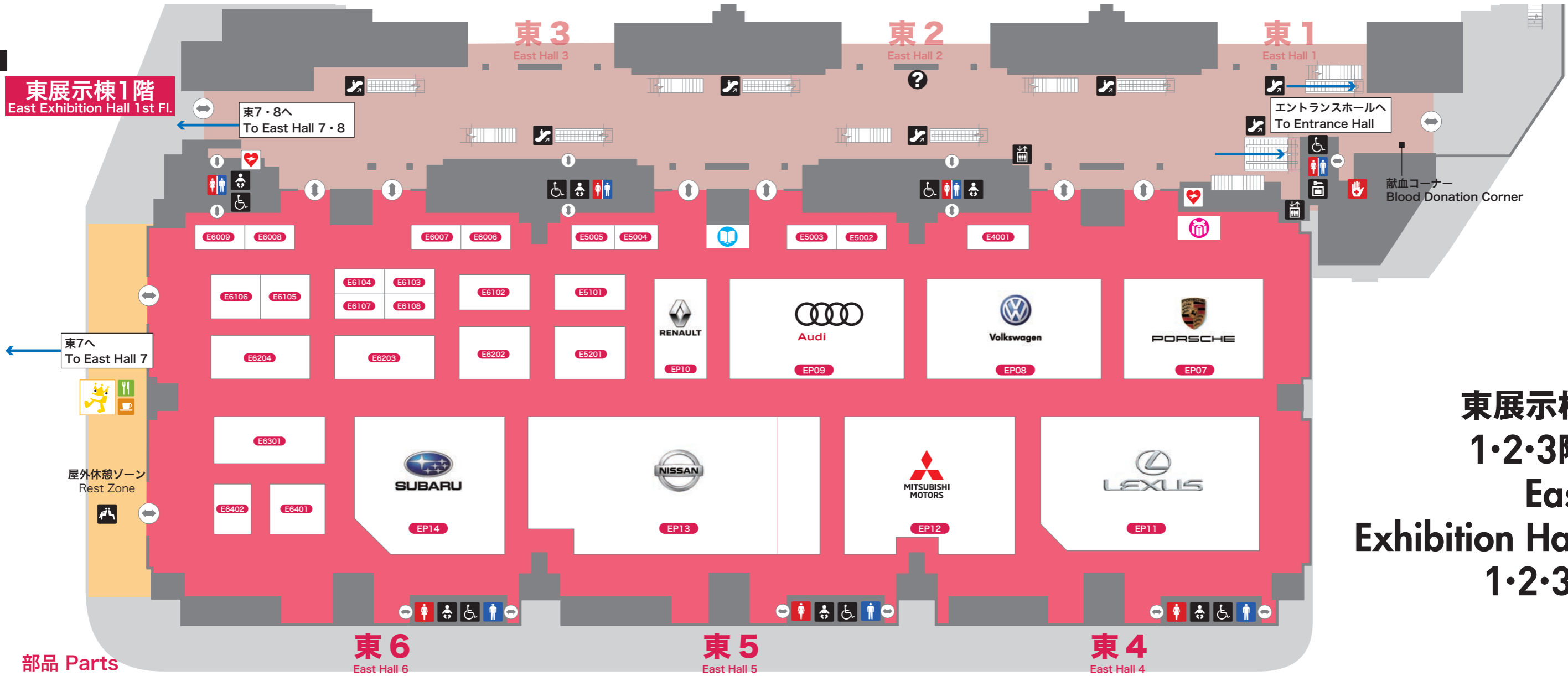
## 車体 Vehicle Bodies

- EB01** 日産車体(株)
- OE01** 極東開発工業(株)
- KYB(株)
- 新明和工業(株)
- 東邦車輻(株)
- 日本トレクス(株)
- 日本フルハーフ(株)
- (株)花見台自動車
- (株)浜名ワークス
- 八千代工業(株)
- (株)矢野特殊自動車
- 山田車体工業(株)
- (一社)日本自動車車体工業会
- Nissan Shatai Co., Ltd
- Kyokuto Kaihatsu Kogyo Co., Ltd.
- KYB Corp.
- ShinMaywa Industries, Ltd.
- Toho Car Co., Ltd.
- Nippon Trex Co., Ltd.
- Nippon Fruehauf Co., Ltd.
- Hanamidai Auto Co., Ltd.
- Hamana Works Co., Ltd.
- Yachiyo Industry Co., Ltd.
- Yano Special Purpose Vehicle Co., Ltd.
- Yamada body Industrial Corp.
- Japan Auto-Body Industries Association Inc.

## カロッツェリア Carrozzeria

- CZ01** 愛知県立愛知総合工科高等学校
- CZ02** (株)高山自動車
- CZ03** (株)イケヤフォーミュラ
- Aichi High School of Technology and Engineering
- Takayama Cars
- Ikeya Formula Co., Ltd.

- インフォメーション Information
- エスカレーター Escalator
- エレベーター Elevator
- 化粧室 Restroom
- 乳幼児用施設 Nursery
- コインロッカー Coin Locker
- 救護室 First Aid
- 身障者用施設 Accessible Facility
- グルメキングダム2017 Gourmet Kingdom 2017
- レストラン・カフェ・休憩ゾーン Restaurant & Cafe Rest Zone
- 喫煙場所 Smoking Area
- オフィシャルグッズショップ Official Merchandise Shop
- 自動車ガイドブック販売所 Japanese Motor Vehicle Guidebook Store
- AED 自動体外式除細動機 AED/Automated External Defibrillator



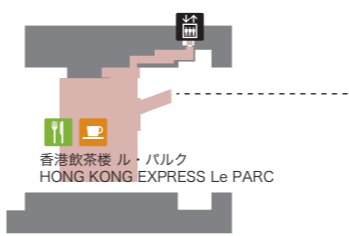
# 東展示棟 1・2・3階 East Exhibition Hall 1・2・3F

## 部品 Parts

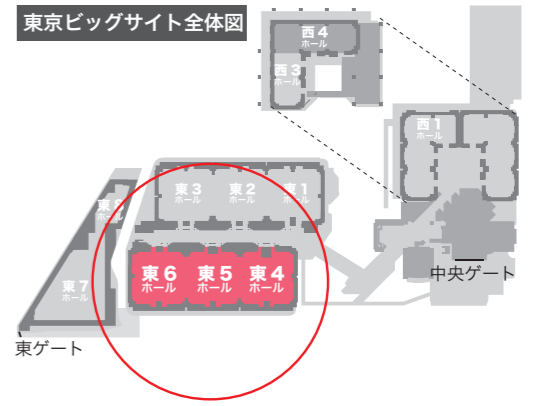
- E4001** ティ・エス テック(株) TS Tech Co., Ltd.
- E5002** 八千代工業(株) Yachiyo Industry Co., Ltd.
- E5003** (株)タチエス Tachi-S Co., Ltd.
- E5004** 住友電気工業(株) Sumitomo Electric Industries, Ltd.
- E5005** Samvardhana Motherson Group
- E5101** 豊田合成(株) Toyoda Gosei Co., Ltd.
- E5201** 三菱電機(株) Mitsubishi Electric Corp.
- E6006** 矢崎総業(株) Yazaki Corp.
- E6007** (株)ミツバ Mitsuba Corp.
- E6008** (株)東海理化 Tokai Rika Co., Ltd.
- E6009** オムロン オートモーティブエレクトロニクス(株) Omron Automotive Electronics Co., Ltd.
- E6102** トヨタ紡織(株) Toyota Boshoku Corp.
- E6103** (株)ユーシン U-Shin, Ltd.
- E6104** 日立金属(株) Hitachi Metals, Ltd.
- E6105** 横浜ゴム(株) The Yokohama Rubber Co., Ltd.
- E6106** 日本グッドイヤー(株) Goodyear Japan Ltd.
- E6107** スタンレー電気(株) Stanley Electric Co., Ltd.
- E6108** 富士通テン(株) Fujitsu Ten Ltd.
- E6202** 日立オートモティブシステムズ(株)日立製作所 Hitachi Automotive Systems, Ltd. Hitachi, Ltd.
- E6203** (株)デンソー DENSO CORPORATION
- E6203** アスモ(株) Asmo Co., Ltd.
- E6203** アンデン(株) Anden Co., Ltd.
- E6203** 浜名湖電装(株) Hamanakodenso Co., Ltd.
- E6203** 京三電機(株) Kyosan Denki Co., Ltd.
- E6204** 住友ゴム工業(株) Sumitomo Rubber Industries, Ltd.
- E6301** (株)ブリヂストン Bridgestone Corp.
- E6401** (株)豊田自動織機 Toyota Industries Corp.
- E6402** (株)小糸製作所 Koito Mfg. Co., Ltd.

- ?** インフォメーション Information
- ↑** エスカレーター Escalator
- ↑** エレベーター Elevator
- ♂** 化粧室 Restroom
- 👶** 乳幼児用施設 Nursery
- 👛** コインロッカー Coin Locker
- 🚑** 救護室 First Aid
- ♿** 身障者用施設 Accessible Facility
- 👑** グルメキングダム2017 Gourmet Kingdom 2017
- 🍽️** レストラン・カフェ・休憩ゾーン Restaurant & Cafe Rest Zone
- 🚬** 喫煙場所 Smoking Area
- 🛍️** プレミアムグッズショップ Premium Exhibitor Merchandise Shop
- 📖** 自動車ガイドブック販売所 Japanese Motor Vehicle Guidebook Store
- ❤️** AED 自動体外式除細動機 AED/Automated External Defibrillator

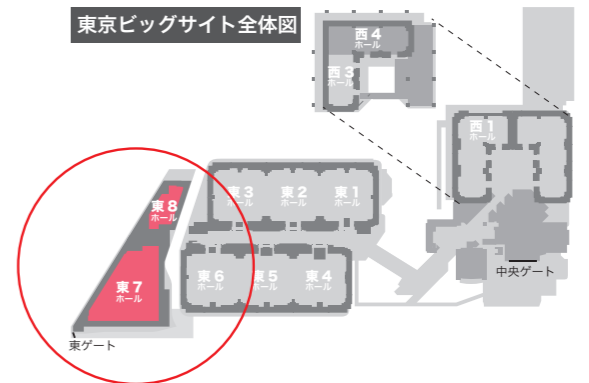
## 東展示棟3階 East Exhibition Hall 3rd Fl.



## 東展示棟2階 East Exhibition Hall 2nd Fl.



# 東新展示棟 New East Exhibition Hall

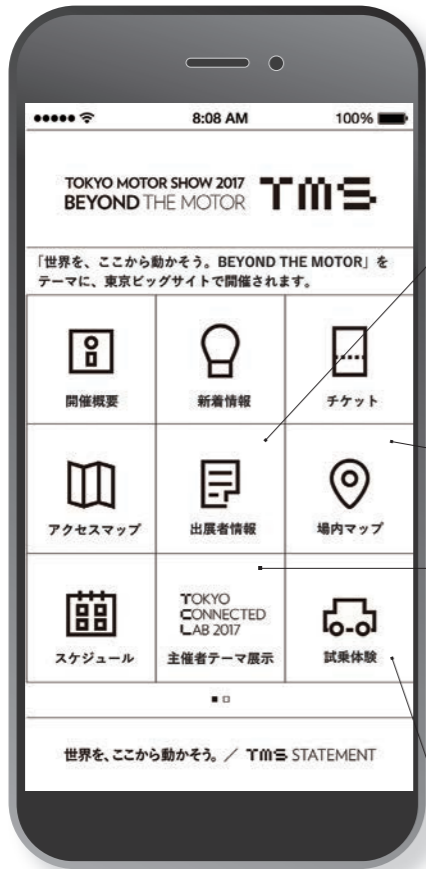


## 部品・機械器具 Parts, Machinery and Tools

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| <b>E7101</b> アルパイン(株)           | Alpine Electronics, Inc.                |
| <b>E7102</b> (株)東日製作所           | Tohnichi Mfg. Co., Ltd.                 |
| <b>E7103</b> (株)アステア            | Asteer Co., Ltd.                        |
| 大野ゴム工業(株)                       | Ohno Rubber Industrial Co., Ltd.        |
| 藤壺技研工業(株)                       | Fujitsu Giken Kogyo Co., Ltd.           |
| 丸子警報器(株)                        | Maruko Keihoki Co., Ltd.                |
| やまと興業(株)                        | Yamato Industrial Co., Ltd.             |
| (株)ワイビーステム                      | YP System Co., Ltd.                     |
| (一社)日本自動車部品工業会                  | Japan Auto Parts Industries Association |
| <b>E7201</b> (株)カーメイト           | Car Mate Mfg. Co., Ltd.                 |
| <b>E7301</b> Invest in Morocco  |   |
| <b>E7302</b> Nuevo Leon, Mexico |   |
| <b>E8101</b> 澤藤電機(株)            | Sawafuji Electric Co., Ltd.             |
| <b>E8102</b> 市光工業(株)            | Ichikoh Industries, Ltd.                |
| <b>E8103</b> (株)ミクニ             | Mikuni Corp.                            |
| <b>E8104</b> 大豊工業(株)            | Taiho Kogyo Co., Ltd.                   |
| <b>E8105</b> イワタボルト(株)          | Iwata Bolt Co., Ltd.                    |
| <b>E8201</b> (株)データシステム         | Datasystem Co., Ltd.                    |
| <b>E8202</b> TONE(株)            | TONE Co., Ltd.                          |
| <b>E8203</b> カルソニックカンセイ(株)      | Calsonic Kansei Corp.                   |
| <b>E8301</b> デルタ工業(株)           | Delta Kogyo Co., Ltd.                   |
| <b>E8302</b> (株)今仙電機製作所         | Imasen Electric Industrial Co., Ltd.    |
| <b>E8303</b> パイオニア(株)           | Pioneer Corp.                           |
| <b>E8304</b> KYB(株)             | KYB Corp.                               |
| <b>E8401</b> クラリオン(株)           | Clarion Co., Ltd.                       |
- 
- |                           |  |
|---------------------------|--|
| <b>?</b> インフォメーション        | Information                            |
| <b>♿</b> 化粧室              | Restroom                               |
| <b>👶</b> 乳幼児用施設           | Nursery                                |
| <b>👶</b> 授乳室              | Nursery Room                           |
| <b>👛</b> コインロッカー          | Coin Locker                            |
| <b>🚑</b> 救護室              | First Aid                              |
| <b>♿</b> 身障者用施設           | Accessible Facility                    |
| <b>👑</b> グルメキングダム2017     | Gourmet Kingdom 2017                   |
| <b>🍽️</b> レストラン・カフェ・休憩ゾーン | Restaurant & Cafe Rest Zone            |
| <b>🚬</b> 喫煙場所             | Smoking Area                           |
| <b>🛍️</b> オフィシャルグッズショップ   | Official Merchandise Shop              |
| <b>📖</b> 自動車ガイドブック販売所     | Japanese Motor Vehicle Guidebook Store |
| <b>🚒</b> AED 自動体外式除細動機    | AED/Automated External Defibrillator   |

# 公式アプリをダウンロードして、東京モーターショー体験をBEYONDしよう。

無料



出展者の出展内容やブース位置、イベントスケジュールなどが手軽にわかる。

行きたいブースに案内するナビ機能に加えて会場の混雑具合も確認できる。

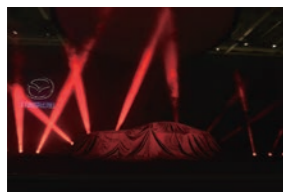
主催者テーマ展示「TOKYO CONNECTED LAB 2017」の「THE FUTURE」に参加したり、「THE MAZE」の体験予約ができる。

大人気の試乗体験プログラムを、事前予約できる。



iPhone対応端末:iOS 9.0以降。  
Android対応端末:Version4.0以上  
※該当機種でもご利用いただけない場合がございます。  
※iPhone、App Storeは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。  
※Android、Google Playは、Google Inc.の商標または登録商標です。  
※アプリご利用の際の通信料は、お客様のご負担となります。  
※サービス画面は実際のサービスと異なる場合があります。  
※サービスの内容は、予告なく変更する場合があります。

ご自身の現在地を確認したり、各プログラムへの参加予約の際は「Bluetooth」の設定を必ず「オン」にして「チェックイン」してください。  
【第45回東京モーターショー2017】公式アプリは、AppStoreもしくはGoogle Playから「TMS」を検索するか、上のQRコードからダウンロードしてください。



## 目の前で注目のクルマを見てみよう!

今回の東京モーターショーの注目車を360°VR動画で10月28日より配信。各ブースにある注目のクルマたちを帰宅後もじっくり楽し

めます。VR動画を配信しているサイトは右のQRコードでアクセスできます。他では見られないVR動画をぜひご覧ください。



## MITSUBISHI FUSO 三菱ふそう

東1・2・3ホール

### 数年以内に電気大型トラックの市販化を目指す

今年度の東京モーターショーのテーマは「BEYOND THE MOTOR世界を、ここから動かそう」だが、我々も同じ思いを持っている。世界的に都市化が進むことで2037年までに人口の約60%が東京などの都市部に集まると予測されている。交通渋滞や排出ガスの増加が懸念されるなかで、荷物の運搬の屋台骨を支えているトラックから変えていかなければと考えている。そこで電気商用車専用ブランド「E-FUSO」を新たに立ち上げる。自動車メーカーでは初の電気トラックとバスに特化して、このモーターショーでは航続距離350kmを誇るコンセプトモデルE-FUSO「Vision ONE」を世界で初めて公開する。EV駆動によって排出ガス、音をゼロにするこのモデルを今後数年以内の市販化を目指す。

また、「eCanter」は航続距離では100kmを誇り、さらにダイムラーの技を内外に取り入れており、すでに「セブン-イレブン」「ヤマト運輸」に導入し、都市化に向けた具体的なビジョンをこれでお見せしたい。



E-FUSO Vision ONEに乗って登場したマーク・リストセーヤ社長。最大航続距離350kmを誇るコンセプトモデルE-FUSO Vision ONEが世界初公開。日本の企業にも先日納入されたばかりという電気トラックのeCanterも出展された

## ISUZU いすゞ

東1・2・3ホール

### ドライバーの快適な作業性まで考え、近未来の「運ぶ」を提案

社 会が豊かになっていく時、そこには必ず「運ぶ」が関係している。長い間「運ぶ」を支え、その大切さを知っているいすゞだからこそ提案できる近未来がここにはある。だからこそ、我々の今回のテーマは「運ぶの時代に、できること。」である。いすゞが提案するEV「エルフ EV」では「排ガスゼロ」を始め「低騒音」、ドライバーのための「低振動」など、数多くの夢を載せている。さらに「ISUZU 6×6」は極寒の氷上から灼熱の砂漠まで地球上のあらゆる道で、「運ぶ」を実現する六輪駆動車のかぎりない可能性を提案。そして宅配を新たな視点で見直し、未来の配送を創造した「デザインコンセプトFD-SI」を世界初披露。蜂の巣をモチーフにしたバイオデザインの個性的なエクステリアだけでなく、運転席シートを車両中央に配置し、ドライバーがカゴスペースから運転席へとスムーズにアクセスできるなど、ドライバーの環境にも新しい発想で取り組むコンセプトだ。いすゞブースには近未来の「運ぶ」が詰まっている。



代表取締役社長、片山正則氏が登壇。「運ぶ」ことへの存在感が増しているこの時代。全力で「運ぶ」を支え、社会とともに未来へと進んでいくために、創立80周年を迎えたいすゞにできることの提案が数多くある

## HINO 日野

東1・2・3ホール

### 純国産トラックが誕生して100年、もっとはたらくトラック・バスになる

**今** 年は純国産トラックが誕生して100年となる記念すべき年。世の中は便利になったが、その反面でさまざまな問題も浮き彫りとなってきている。日野自動車のすべきことはトラック・バスをもっと世の中の役に立つ存在にしていこう。今回の東京モーターショーは「もっとはたらくトラック・バス」をテーマに展示を行う。

電動バスの日野ポンチョEVは2012年から限定で発売、現在は東京都や石川県で営業運転中である。一方、今年4月に創業以来のイノベーションスピリットを継承し14年ぶりに大型トラックの日野プロフィアを、16年ぶりに中型トラックの日野レンジャーをフルモデルチェンジ。キャビンにはトラックドライバーの職場環境を改善するための工夫が凝らされたユニバーサルデザインが施されている。お客様のビジネスに、社会に、もっと貢献し、未来の子ども達のあこがれとなるため、「もっとはたらくトラック・バス」となるために私たちは挑戦し続ける。



スピーチを行う代表取締役社長の下義生氏。職場環境の改善を目指した開発が行われた大型トラックのプロフィア。実用化が進む電気バスのポンチョは、東京都や石川県ですでに運用されている。

## UD TRUCKS ユーデイトラックス

東1・2・3ホール

### すべてのドライバーにとって、ベストなトラックを目指して

**「物** 流業界にソリューションを提供したい」という理念の下、当社は「Best truck for all drivers! — すべてのドライバーにとって、ベストなトラックを目指して」をキーワードに、東京モーターショー2017では主力大型トラックの「新型クオン」を展示する。また、新たにラインアップに加わったクオン 4×2 セミトラクターおよびクオン 6×4 ダンプも展示。今後はセミトラクター分野でもナンバーワンの立場を確かなものとしていきたい。

当社ならではのイノベーションは、技術面と同時にサポート体制にまで及んでいる。トラックの路上故障などに24時間・365日体制で対応する「UDロードサービス」には、現在約9000社が加入。それに伴うコールセンターも外部ではなく自社内に設置し、24時間体制できめ細かな対応をさせていただいている。ボルボグループとしてのさまざまなメリットを享受しつつ、ここ日本に根差した企業として「リーディングブランド」を目指していきたい。



UDトラックス 村上吉弘社長(左側)と、UDトラックステックノロジー シニアバイスプレジデントのダグラス・ナカノ氏(右側)。「クオン 6×4 ダンプ」(左)と、「クオン 6×2 カargo」のエクステリア特別デザインモデル(右)

## VOLVO TRUCKS ボルボトラック

東1・2・3ホール

### 企業理念の安全性能をさらに追求!

**ボ** ルボトラックのフラッグシップ「ボルボFH」。今回はその次期モデル予定車両を参考出品した。

ボルボFH次期モデルのテーマは、「The Power of knowledge」。2種類のユーロ6対応エンジンを導入。現行車に比べて20馬力出力を向上させている。オートマチックトランスミッション「アイ・シフト」も進化。許容トルクを広げ、パワーアップを図った。

安全性はボルボトラックのコアバリューゆえに、次期モデルはその点もさらに向上。衝突被害軽減ブレーキ付きアダプティブクルーズコントロール、レーンキープアシスト、レーンチェンジサポート、ドライバーアラートサポートなど、さらに充実した先進安全機能を標準搭載する予定だ。

広さと丈夫さをあわせ持つキャブは、世界でもっとも厳しいといわれる「スウェーデン式衝突安全テスト」をクリア。万が一の事故からドライバーの身を守る。



次期ボルボFH。ボルボグループとUDトラックスが考える未来の物流「スマートシティ」については、UDトラックステックノロジー シニアバイスプレジデントのダグラス・ナカノ氏が説明

## SCANIA スカンディア

東1・2・3ホール

### ヨーロッパに次いで、ニューモデルを日本でプレミア発表

**ス** ウェーデン発祥の大型トラックおよびバス、さらには重機や船舶用大型エンジンのメーカーであるスカニア。

現在、4万4000人の社員と100カ国以上に拠点を置くグローバル企業である。そのスカニア、2009年に参入して以降、日本は非常に重要なマーケットと捉え、今回発表する2モデルとひとつの大型エンジンは、ヨーロッパに次ぎ、第二のプレミア発表となった。これらのニューモデルは、スカニアにとって10年振りとなるモデルチェンジであり、200億SEK(スウェーデンクローネ)を投資して開発された自信作である。

燃費に関しては、パワートレインの改良で約3%、空気抵抗の改善で約2%を向上。また新型13ℓエンジンに関しては、排気後処理装置のSCRのみで排気ガス規制に対応させている。また、キャブの基本構造はボルシェエンジニアリングと共同で開発したもので、高張力鋼と最新の組み立て技術により堅牢で優れた安全性を持つキャブが完成している。



ジャパンプレミアは、R20H 500 4×2トラクタとG17N 360 6×2トラックの2モデルと、産業用エンジンのDC13。日本は重要な市場であると、スカニアジャパンの代表取締役社長、ミケル・リンネル氏がスピーチした

## BRIDGESTONE ブリヂストン

東4・5・6ホール

### 最新技術の紹介と持続可能なモビリティ社会実現に向けての提案

**今** 回は「Journey of Innovation for Sustainable Mobility」をテーマに「Innovative・Sophisticated」な世界観を軸とした、持続可能なモビリティ社会の実現に向けての革新技術と新しいソリューションを紹介。低燃費タイヤ「ECOPIA with ologic」を装着したソーラーカーや「POTENZA S007」を装着したアストンマーティン「DB11」なども展示する。またモータースポーツゾーンではブリヂストン・モータースポーツとファイアストーン・レーシングの活動を紹介しますとともに、佐藤琢磨選手が「インディ 500」で初優勝した際の車両モックアップ展示も。そのほか、バンク後も所定のスピードで一定距離を走行できるランフラットテクノロジー採用タイヤや、プレミアム商品として高い人気の「BLIZZAK」、「POTENZA」、「REGNO」も紹介。さらに興味深いのは空気充填が不要でバンクの心配のない「エアフリーコンセプト」技術を取り入れたタイヤと、それを装着した自転車の展示。体感試乗も実施するというほど盛りだくさん。



低燃費タイヤ、エアフリーコンセプト、ランフラットテクノロジー、プレミアム商品などのほかにも、ブリヂストンの低燃費タイヤを装着したソーラーカーも展示。ブリヂストンのサステナブルモビリティに貢献する環境技術を紹介している

## THE YOKOHAMA RUBBER 横浜ゴム

東4・5・6ホール

### 「クルマを自ら操りたい」ニーズに応えたい

**お** かげさまで当社は今年、創立100周年を迎えることができた。この100年間で当社が培ったものは「技術力」にほかならない。中期新戦略としては「プレミアムOEMタイヤ開発の強化」「ウィンタータイヤ開発の強化」「クルマ趣味を満たすタイヤの充実」が柱となる。プレミアムOEMタイヤの開発とは「オーダーメイド」のようなもので、要求性能は非常に高い。しかし今後も世界のプレミアムメーカーから指定される存在であり続けたいと考えている。なお本日、ADVAN Sport V105がBMW X3に新たに純正承認されたことをご報告する。ウィンタータイヤ開発でもナンバーワンを目指し、北海道旭川市のテストコースを4.7倍に拡大。「ice GUARD 6」では異次元の性能を実現できたと自負している。また運転の自動化は今後さらに進むはずだが、それと同時に「クルマを自ら操りたい」と考える層も存在する。そういったニーズにも応えるため、趣味的なタイヤのラインアップも拡充を図る。



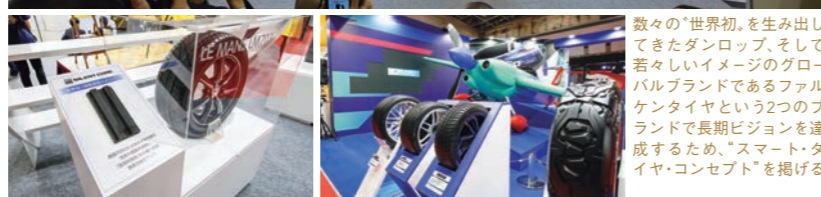
フリーフィングを行った横浜ゴム 山石昌孝社長。発表された製品はADVAN Sport V105。「異次元の性能」という「ice GUARD 6」と、11月1日発売のプレミアムコンフォートタイヤ「ADVAN db V552」(右)

## SUMITOMO RUBBER 住友ゴム工業

東4・5・6ホール

### ダンロップ、ファルケン 2ブランドで賢いタイヤを押し進める

**住** 友ゴムは長期計画「VISION2020（ニセンニジュウ）」を掲げ、新市場への挑戦、あくなき技術革新、新分野の創出の3点を重視し、商品開発を行っている。当社は1888年に世界初の空気入りタイヤを発明して以来数々の世界初を生み出してきたダンロップと、オンザパルスというグローバルメッセージを発信し、若々しいグローバルブランドのファルケンの2ブランドを展開。この2ブランドで長期ビジョンを達成するため、事前に危険を察知できるような賢いタイヤである「スマート・タイヤ・コンセプト」という開発思想を掲げている。「スマート・タイヤ・コンセプト」を実現するために、タイヤの回転変化を解析することでタイヤをセンサー化する「センシングコア」、トレッドが能動的に変化し安全性を確保する「アクティブトレッド」などを開発。さらにゴムの劣化制御、石油外資源を活用するなど原材料の厳選やリサイクルを含めた「ライフサイクルアセスメント」、「エアレスタイヤ」の開発なども合わせて行っている。



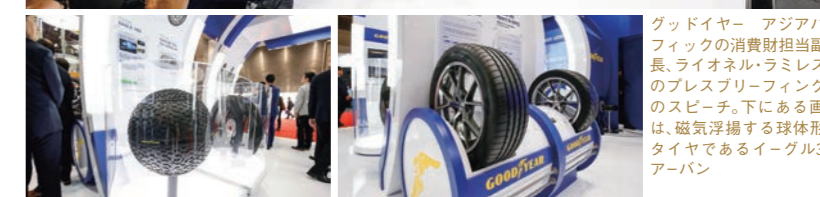
数々の「世界初」を生み出してきたダンロップ、そして若々しいイメージのグローバルブランドであるファルケンタイヤという2つのブランドで長期ビジョンを達成するため、「スマート・タイヤ・コンセプト」を掲げる

## GOODYEAR JAPAN 日本グッドイヤー

東4・5・6ホール

### AI技術でタイヤはクルマの神経システムのひとつへ

**1** 00年を超える歴史を持ち、月面を初めて走ったタイヤでもあるグッドイヤーのブースでは、将来のモビリティ社会の実現に向けた、最先端のタイヤ技術をご紹介します。まず、今回が日本初公開となる磁気浮揚する球体形状タイヤ、イーグル360とイーグル360アーバン。これは、感知、判断、変形、インタラクトといった特性を持った、AI技術による初めてのタイヤだ。AI技術により知能を持つことで、タイヤはクルマの神経システムのひとつとなり得る。また、日本のユーザーのニーズに応えるべく、オールシーズンタイヤのベクター4シーズンズと、プレミアムスタッドレスタイヤのアイスナビ7を展示している。この冬、ぜひお試しください。さらに、2018年発売予定の新製品である、プレミアムオンロードSUVタイヤ、EグリップパフォーマンスSUVと、アーバンクロスオーバーコンセプトタイヤであるコンセプトタイヤfor LEXUS UXも展示している。



グッドイヤー アジアパシフィックの消費財担当副社長、ライオネル・ラミレス氏のプレスフリーフィングでのスピーチ。下にある画像は、磁気浮揚する球体形状タイヤであるイーグル360アーバン



## TOYOTA AUTO BODY

トヨタ車体 | 西1ホール

### 人々の仕事を支え続けるかけがえのないパートナー

**当** 社は「Focus Your Life Style」をテーマに、乗る人や働く人にやさしいクルマ作りを行っている。世界初公開のLCV D-CARGO CONCEPTは、今後増加する女性配送スタッフやシニアにもやさしい小型デリバリーバン。開発にあたっては実際の配送現場で働く人々の視点を徹底的にヒアリングし、前後スライドドアや低床フラットフロアなどによる圧倒的な積み下ろしのしやすさを実現。その派生モデルLCV BUSINESS LOUNGE CONCEPTやLCV ATHLETIC TOURER CONCEPTなどを含め、「人々の仕事を支え続けるかけがえのないパートナー」でありたいと考えている。



ブリーフィング中のトヨタ車体 増井敬二社長。「人に寄り添う姿勢」を重視していた

## NISSAN

日産 | 西3・4ホール

### 2022年、完全自動化への血筋が見える

**東** 館にある日産のメインブースで「ニッサン インテリジェント モビリティ」を体験し、西館にある「もうひとつの日産ブース」で、さらに深く見ることができる。日産の考える「クルマとドライバーがより繋がり、もっとクルマで移動したくなる」という近未来のモビリティ社会とは何か。100%電気自動車のクロスオーバーコンセプトカー「ニッサン IMx」に搭載された知能化技術はもちろん、新型リーフによる「プロパイロット」技術を、さらに進化させて2022年にはドライバーが運転にいっさい介在しない完全自動運転を実現するという、近未来像までの道筋も知ることができる。



完全自動運転などについて日産の総合研究部長、土井三浩氏が登壇して語った

## Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Road Transport Bureau & National Agency for Automotive Safety and Victims' Aid

国土交通省自動車局+自動車事故対策機構 | 西3・4ホール

### 自動車事故を大幅に減少させるために安全性能評価試験を行う

**我** が国においては、自動車事故は減少傾向にあり、平成24年以来、事故死者数は3000人台となっているが、平成32年までに、その数を2500人以下にするという目標を掲げている。その達成のため、自動車の安全性能評価試験を行い、結果を公表することで、ユーザーがより安全なクルマを選べるようにし、かつメーカーの開発を促進しているところだ。平成29年前期自動車アセスメントにおける衝突安全性能評価では、マツダCX-5とトヨタC-HRの2台が、最高のファイブスターを獲得。予防安全性能評価では、8車種中7車種が最高評価に輝いた。



NASVA理事長 濱隆司より、CX-5とC-HRにファイブスター賞が贈られた ※NASVA=独立行政法人自動車事故対策機構

## TOYOTA INDUSTRIES

豊田自動織機 | 東4・5・6ホール

### カーエアコン用コンプレッサの軽量化・効率化で燃費の向上に寄与する

**豊** 田自動織機は基幹事業であるカーエアコン用コンプレッサ事業において世界60社以上の自動車ブランドに採用され、世界シェアで43%、累計生産台数5億台を突破している。1981年には10気筒斜板式固定容量コンプレッサを、1995年には片側斜板式可変容量コンプレッサを世界で初めて開発するなど、省燃費などの環境技術で業界をリードしてきた。現在はコンセプトモデルの将来型電動コンプレッサを2025年の実用化を目指して開発中。需要の高い電動コンプレッサ事業の海外工場での生産計画もあり、世界シェア50%を目指して進んでいく。



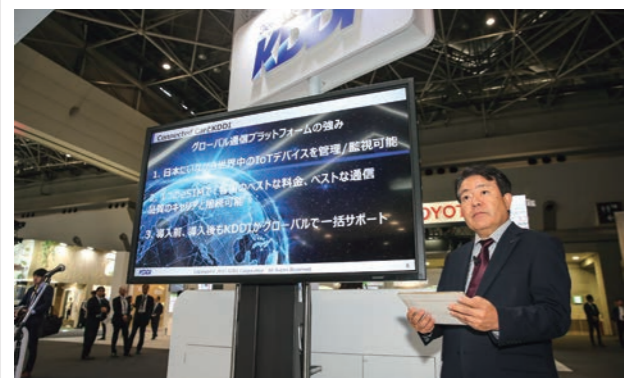
コンセプトモデルの将来型電動コンプレッサを手にする大西朗取締役社長

## KDDI

| 西3・4ホール

### ライフデザイン企業への変革を目指し、クルマとライフデザインをつなぐ新たな価値を提案

**K** DDIは通信関連企業のなかでは、自動車社会との関係性が非常に強い企業で、トヨタ自動車のG-BOOKやT-connectでは当社通信モジュールを内蔵する。いすゞ自動車のテレマティクス向け通信システム構築や運用も行う。さらに昨年6月にはトヨタとグローバル通信プラットフォームを発表したほか、トヨタや東京ハイヤー・タクシー協会とつながるタクシー実証実験も実施。今回の東京モーターショーでは、クルマを買う、乗る、楽しむ、点検する「Mobility×IoT」、家とつながるIoTである「Home×IoT」、ドローン運用をフルサポートする「Future×IoT」を提案した。



縦横無尽にグローバルにつながるKDDIの戦略を力説する森敬一常務

## Ministry of the Environment

環境省 | 西3・4ホール

### 「チョイス! エコカー」キャンペーンを実施中

**環** 境省は現在、さまざまな企業・団体・自治体などと連携しながら、低炭素型の製品やサービス、ライフスタイルなどへの転換を促す「COOL CHOICE」を推進している。東京モーターショー2017ではその一環として、エコカー選択を促進させる「チョイス! エコカー」キャンペーンを実施。2030年までに新車の50~70%を次世代型自動車にすることを目標に、さまざまな形でエコカーに関するPR活動を行いたい。10月28日(土)の13:40~14:30にはTHE MEET UPステージにて同キャンペーンのキックオフイベントも開催。ぜひ多くの方にご来場いただけたら幸いだ。



プレゼンテーションを行った環境省地球環境局地球温暖化対策課 松澤 裕課長

## OMRON Automotive Electronics

オムロン オートモーティブエレクトロニクス | 東4・5・6ホール

### 自動運転を実現する最先端のセンシング技術を体感

**事** 故のない安心・安全なモビリティ社会の実現に貢献する最先端の技術・製品の紹介。オムロンブースでは安全な自動運転の実現に貢献する、最先端のセンシング技術を体験型デモンストレーションによって、より多くの人々が理解しやすい形で紹介している。例えばドライバーの集中度を検知する「ドライバーモニタリング技術」とクルマの周辺状況を広範囲に検知するための3D-LiDAR (3Dライダー) など、ここでしか体験できない技術は興味深い。さらに本デモンストレーションに加え、コネクティッドカーや環境対応車の進化を支える技術や製品を幅広く展示してある。



オムロン オートモーティブエレクトロニクスの執行役員・福本哲也開発統括室長が登壇

## YAZAKI

矢崎総業 | 東4・5・6ホール

### 自動車のなかだけでなく、あらゆるものをコネクして未来とつなげる

**今** 回のYAZAKIのキーワードは、CONNECT to the Future。クルマの機器をつなぎ、人々の暮らしをつなぎ、そして社会全体をつなぐことで、豊かな未来を実現する。現代のクルマはパワーソースやコンピュータチップとつながることなしには、実現しない。自動運転についても手動運転から自動運転に一旦飛びに切り替わるのは現実的ではなく、今後はセンサーやカメラ、その他のデバイスが取り込み、ドライバーへ伝えることができる情報は増加していくと考えられる。ドライバーの疲労にも配慮し、安全運転に寄与する高機能ヘッドアップディスプレイなども展示した。



クルマと世界につながっていく未来の世界を語る社長の矢崎信二氏

## DENSO

デンソー

東4・5・6ホール

### 人の知見と経験に基づく高度なモノづくりの力をIoTでさらに進化させる

**自** 動車の電動化と自動運転の流れはますます加速している。そのなかで当社は、あらゆる分野の技術基盤を持つシステムサプライヤーとして基幹部品の革新に取り組んでいきたい。これまで3年間で当社は1兆円を超える研究開発投資を行ってきたが、今後2020年までの3年間は自動車の「電動化」「自動運転」の2分野に対して約5000億円の投資を計画している。また新技術や製品を通じて社会に貢献するために具現化させる「モノづくりの力」も非常に重要。創業以来培ってきた人の知見と経験に基づく高度なモノづくりの力を、今後はファクトリーIoTでさらに進化させていく。



さまざまな新技術の解説を含むプレゼンテーションを行ったデンソー有馬浩二社長

## HITACHI Automotive Systems

日立オートモティブシステムズ

東4・5・6ホール

### VRライドシアターで外部のAIとつながる自動運転の世界を楽しんでほしい

**現** 在、自動車産業はクルマの電動化、自動化、コネクテッドの3つのメガトレンドの波を受けているが、私どもは基盤事業である内燃機関の高効率化システムなどのみならず、今後大きな成長分野となる電動化や自動化関連事業を推進。電動化、自動運転システムのショーケースカーでは、モーターおよびインバーター、ハイブリッド車用リチウムイオンバッテリーパック、ミリ波レーダーなどのセンサーを展示。バーチャルリアリティをご体感いただけるVRライドシアターでは外部の人工知能と繋がる自動運転車両の走行をエンターテインメントとしてお楽しみいただける。



日立オートモティブシステムズ社長執行役員&CEO 関秀明氏

## TOYODA GOSEI

豊田合成

東4・5・6ホール

### 「エアバッグ体験シミュレータ」でエアバッグ展開の疑似体験を

**今** 回、私どもは「～Technology for Goodness～安全で環境にやさしく、快適なクルマづくりに貢献」をテーマに最新の当社製品を展示するほか、自動運転のレベル3以降を想定した「次世代コンセプトモデル(2020年頃)」と、2030年頃の超小型モビリティを想定したデザインコンセプトモデル「Flesby II」を併せて展示する。またブース内には「エアバッグ体験シミュレータ」も用意したので、ご来場者にはぜひエアバッグ展開の疑似体験もしてほしい。今後も当社は従業員3万6000人が一丸となり、世界の顧客から信頼される「真のグローバルサプライヤー」を目指す所存だ。



これまでの各種事例と「今後目指すもの」をプレゼンした豊田合成の宮崎直樹社長

## TACHI-S

タチエス

東4・5・6ホール

### 自動車用シートのイノベーションを体感してほしい

**タ** チエスは自動車用シートが売上の99%を占める、グローバル・シート・システム・クリエイター。系列に属さない独立系企業の強みを活かし、先行開発から生産まで一貫体制で価値ある提案を続けている。展示した「コンセプトX-3 フューチャービジョン」は、自動運転レベル3-4を想定した将来シートの提案だ。自動車用シートはここまでコンパクトで軽くしつつ、それをまったく感じさせない機能を実現できる。タチエスは、表皮サプライヤーや縫製メーカーとの協業のもと、自動車用シートのイノベーションを進めている。それを実際に体感していただきたい。



コンセプトX-3 フューチャービジョンと、(株)タチエス常務 島崎満雄氏

## MITSUBISHI ELECTRIC

三菱電機

東4・5・6ホール

### スマートモビリティ時代に必要不可欠な3つのキーワードを理解できる

**3** つのキーワードとは、運転支援やカーナビの音声認識機能を使って車を操作する「コネクテッド」、次に自動運転社会のニーズに応えるための「自動運転」、最後に環境に配慮する技術である「電動化」だ。現代の自動車社会に必要な不可欠なテーマに対して、三菱電機がどのように取り組んでいるか、そこから生まれる近未来の自動車社会がどうなるかを最新のHMI(ヒューマンマシンインターフェース)技術を使った「体験型展示」で紹介。主役は第4世代の最新コンセプトカーである「EMIRA I4」。このコンセプトカーによって数多くの技術的な提案を全身で感じ取れる。



最新の演出効果によって3つの分野が実現するモビリティを目の当たりにできる

## TOYOTA BOSHOKU

トヨタ紡織

東4・5・6ホール

### 未来の快適なモビリティ空間を提案する2台を出展

**ト** ヨタ紡織グループは、「明日の社会を見据え、世界中のお客様へ感動を織りなす移動空間の未来を創造する」ことを目指す企業像とし、モビリティ空間の未来づくりを進めている。「QUALITY OF TIME AND SPACE」、すなわちモビリティのなかで人が過ごす、より豊かで上質な時間や空間を提供していくことを、今後のありたい姿として定義。新たな体験を生み出すコト創りと究極のカスタマイズの2側面を空間視点で考えたコンセプト未来モデル「MOOX」と、人とクルマがつながり人の体型や気分に応じてシートの形状や空間が変化するコンセプト未来モデル「VODY」を展示。



「当社オリジナルのスポーツシートも展示しております」と石井克政社長

## TS Tech

ティ・エス テック

東4・5・6ホール

### クルマに乗ることで健康になるエクサライドシートなどを提案

**T** S テックはコーポレートメッセージである「Beyond Comfort」が示すとおり、「快適さ」の先にあるまだ見えていない世界を目指して、日々挑戦している。この想いを、自動車用シートや、二輪車用シートをはじめとする製品に込め、昨年度は世界14カ国の四輪車・二輪車メーカーに納品、約720万人のユーザーに製品を届けた。今回の東京モーターショー出展では、「Touch "座" Dream」(タッチザドリーム)をキープコンセプトに、オリジナル技術を用いて、未来の「座る」を提案。運転しながらエクササイズできる「エクサライドシート」や「やすらぎ空間」のシートを出展。



「もっと、感動してもらえる商品を、提供し続ける」と語る井上満夫社長

## CAR MATE

カーメイト

東7・8ホール

### 360度の映像をVRで再生するスマホ用アプリでより没入感ある映像を

**全** 天周360度カメラを備えたドライブレコーダー「d'Action」を2017年に発売したカーメイト。今回のモーターショーでは、このd'Actionを有効に使うための提案を実施。360度の映像をVRで再生するスマートフォン用アプリは、より没入感ある映像が楽しめる。またアクションカメラとしても使用できるd'Action用に、自転車やスキーなどでも安心して撮影ができる防滴ケースを開発。このほか、無人走行で撮影を行う360グラウンドローバー、顔検知型自律卓上ロボット「360ショット」を展示した。また、音声認識で回転やサンシェードの開閉などが可能なチャイルドシートも参考出品。



d'Actionの開発に長年深く関わってきた取締役兼副社長執行役員の徳田勝氏

## Pioneer

パイオニア

東7・8ホール

### 来るべき自動運転社会に向け、培ってきた技術を積極的に活用

**パ** イオニアはこれまで培ってきた光技術、ナビ技術、地図技術を活かし、自動運転の実現に「なくてはならない会社」になることを目指している。来るべき自動運転社会に向け、一般道での自動運転レベル3以上を想定した様々なヒューマン・マシン・インターフェイス・デバイスの開発、自動運転の実現に必要とされる走行空間センサー「3D-LiDAR」と高精度地図の開発、自動運転用地図の運用・更新を行う「データエコシステム」の構築に取り組んでいる。オランダのHERE Technologies社との資本提携をはじめ、異業種も含め連携を進めることで事業シナジーを創出していく。



3D-LiDAR搭載の「コンセプト・コックピット」を前にブリーフィングする大館諭常務

## Calsonic Kansei

カルソニックカンセイ

東7・8ホール

### 系列から独立し、真のモノづくり企業として成長していく

**来** 年80周年を迎える我々にとって今年は大きな転機となった。日産自動車グループから離れ、真に独立したモノづくり企業へと生まれ変わった。このチャンスをさらなる成長の機会ととらえている。新たな長期経営計画「Compass2021」を9月に発表。2021年までに、他社には真似できない、我々ならではの製品開発のほか、自動車部品以外にも積極的に挑戦していく。その一例が今後の自動運転時代には欠かせない自動車分野におけるサイバーセキュリティの技術開発だ。今年7月にフランスの会社と専門会社を設立。これからも“くるまの中から「世界」を変えていく”存在を目指す。



ブリーフィングでは代表取締役社長の森谷弘史氏が登壇

## YOROZU

ヨロズ

東1・2・3ホール

### ラインの自動化により生産性向上。100年企業を目指す

**ヨ** ロズは1948年の創立以来、プレス、溶接を軸に様々な自動車部品を生産し、1973年よりタイヤを支えるサスペンションの本格生産を開始。ヨロズの強みは企画、開発から生産まで一貫した独自のモノづくりであり、この先10年を見据え、「ヨロズブランドを世界に」という企業ビジョンを掲げている。ヨロズ生産方式(YPW)の一環として、無人化ラインを導入。プレス、溶接・組み立て、塗装、AGV搬送という全工程に自動化を取り入れることで、より高い生産性を実現する。来年70周年を迎えるヨロズは、様々なニーズに応えられるサスペンションシステムメーカーを目指す。



新型リーフのサスペンションなどが並ぶブースでブリーフィングする志藤健社長

## JTEKT

ジェイテクト

東1・2・3ホール

### ステアリングを介して、快適な自動運転を実現していく

**主** にステアリング、ベアリング、工作機械・メカトロニクス、駆動系部品の事業を展開しているが、ステアリングでは約26%の世界トップシェア。小型車から大型車まで、唯一EPS（電動パワーステアリング）をラインナップしているからだ。例えば普通自動車とバスとでは求められるものが違うが、それぞれに合った製品を開発しているほか、顧客の要望にも対応。今後の自動運転時代においてEPSやSBW（ステアバイワイヤ）は欠かせない。安全性と快適性をより向上させる技術など、ステアリングを介して人とシステムが協調することで、快適な自動運転を実現していく。



世界で唯一無二の存在であることを安形哲夫取締役社長がアピール

## SAWAFUJI ELECTRIC

澤藤電機

東7・8ホール

### 快適な水素社会の実現を目指す

**我** 々が伝えたいメッセージは「くるまの未来にデンキができること」。展示されているモーターは商用車向けのもので高効率で環境性の高いものになっている。また、発電コーナーに展示したドローンはエンジンと発電体を積み、長時間の飛行が可能。主にオーストラリアなどで使用される冷蔵庫は車載でも使用でき、キャンプなどでも活用できる。そして澤藤の技術でアンモニアから99.999%の高純度水素を生成することが可能になった。将来的にはアンモニアを燃料にした車両、無公害の発電装置を実現し、我々は快適な水素社会の実現を目指す。



ブリーフィングに臨む澤藤電機、内野直明代表取締役専務

## NHK SPRING

日本発条

東1・2・3ホール

### 「今のクルマにも、これからのクルマにもニッパツ」をテーマに現在と未来のパーツを展示

**今** 年で創業78年という、金属スプリングやシートなどを生産し続けている日本発条。展示ブースでは、「今のクルマにも、これからのクルマにもニッパツ」という今年のテーマに沿って、向かって左側に現代の部品を、右側には未来のパーツを並べた。未来のブースでは主に電気自動車のための快適なシートとして、VIPコンセプトシートを展示。これは振動抑制機能やリラクゼーション機能を持たせたもので、EVにおける快適な座り心地を提供するためのアイテムとして開発されたもの。また、幅広い用途が期待できるセラミックばねや未来の偽造防止繊維ラベルなどが展示された。



日本発条の代表取締役社長、茅本隆司氏が現在と未来のニッパツを説明

## NTN

東1・2・3ホール

### 世界をなめらかにする仕事を感じてほしい

**当** 社はベアリング、ドライブシャフトを主に扱ってきたが、ほかにも精密機器の製造販売を行っている。昨今のハイブリッドの流れもあり、自動車関連の70%の売り上げを記録している。今回の東京モーターショーでは新商品のモーター・ジェレネータ機能付きハブベアリング「eHUB」、「低フリクションハブベアリングII」をはじめ、それらが使われているスケルトンモデルを展示した。自動車の滑らかな動きに当社の商品がどのように貢献しているか当社の経営理念である「世界をなめらかにする仕事。」を感じていただければ幸いである。



ブリーフィングに臨むNTN常務執行役員の亀高晃司氏

## AISIN GROUP

アイシングループ

東1・2・3ホール

### 「ゼロエミッション」、「自動運転」、「コネクティッド」の3つをグループ企業の壁を越え重点開発していく

**主** 要6社による合同出展で、グループを代表してアイシン精機の代表取締役社長、伊原保守氏は今後はグループ企業の壁を越え、「ゼロエミッション」、「自動運転」、「コネクティッド」の3つを重点開発していくと発言。ゼロエミッションでは、1モータートランスミッションの追加、電気4WDユニットのeAxleの強化などを実施。自動運転では車両自体の制御に加え、インフラと協調し、カーシェア車両などの完全自動運転を目指している。コネクティッドでは、位置情報活用サービスを積極的に使用し、先読みシートアレンジや先読みオートサイドサポートシートなどを開発中だ。



幅広いハイブリッド車両に対応させるべく1モータートランスミッションも開発した

## BOSCH

ボッシュ

東1・2・3ホール

### 自動運転の最大の目標は交通事故の減少にあり

**モ** ビリティの未来は、自動化、ネットワーク化、電動化で、この2年の間に大きく前進したが、まだ変革は始まったばかり。ボッシュが自動化に取り組む目標は交通事故を最小限に抑えること。自動運転の実現でより多くの命を守るためにも高精度のマップは必須で、欧州と中国で主要なマッププロバイダーと開発に取り組んでいる。ネットワーク化、クラウドの利用は、道路交通におけるストレスも改善される。また、電動化においては、野心的なCO<sub>2</sub>目標を達成するためにパワートレインのリーディングカンパニーとして戦略的な製品ポートフォリオを整えている。



モビリティソリューションズ事業部門長のロルフ・ブルーランダー氏(左)がスピーチ

## MAHLE

マレ

東1・2・3ホール

### 軽自動車にぴったりな技術を備えたコンセプトカー「MEET」

**日** 本でマレが歩み始めて約50年が経つ。日本は自動車メーカーが多いため私たちにとって重要な拠点だ。これからの電動化時代において、私たちの持つ高度な設計力とこれまで培ったエレクトロニクスの豊富な知識は大きな武器になると思う。今回披露したコンセプトカー「MEET」は都市型の電動モビリティで、日本の軽自動車にはピッタリ。充電しなくても1週間は走行でき、熱効率を向上させることで航続距離を延ばした。日本の軽自動車の電動化にはピッタリだと思う。いっぽうでピストンの摩擦低減など内燃機関の更なる性能向上もこれからの時代に欠かせない、我々の技術だ。



ブリーフィング中のマレグループ会長兼CEOのウォルフヘニング・シャイダー氏

## JATCO

ジャトコ

東1・2・3ホール

### 考えるトランスミッションで未来のモビリティを豊かに

**ジ** ャトコにとって2017年はマイルストーンとなる年である。ATの生産開始から50年、CVTは20年を迎え、3月にはATとCVTの累計生産台数が1億台を達成した。自動車業界が電量化、自動運転化、コネクテッドと進むなかで、ジャトコは「CVTを磨く」、「EVに新しい価値を」、「自動運転をサポート」の3つの方向を考えている。小型軽量化や燃費向上といった基本性能を磨く。EVにトランスミッションならではの機能を加える。シームレスな変速や駆動力予測により快適な自動運転を実現する。考えるトランスミッションを提供することで、未来のモビリティを豊かにできるはずだ。



CVTでトップシェアを誇るジャトコを代表してブリーフィングする中塚晃章社長

## IKEYA FORMULA

イケヤフォーミュラ

東1・2・3ホール

### ドライビングスポーツの究極の姿を求めたV10型エンジン

**ク** ルマが自動運転で走り回る次世代の交通社会では、クルマを個人で所有する意味が失われてしまうだろう。しかし私たちが愛する「クルマ」がすべてなくなるわけではない。馬が交通機関の動力としての役割を終えても、人と一緒に走る存在としてあり続けているように、操ることを楽しむドライビングというスポーツが人を楽しませ、感動させる存在になり得ると思う。人の心を昂ぶらせるのは、やはりシリンダーのなかで燃料が燃えて生まれるパワーや、全身に響くビートだ。ならばと、フォーミュラ1のエンジンと同様のV型10気筒エンジンを製作。私たちの次なる夢が動き出す。



製作したV10搭載のマシンを目の前に語る池谷信二代表取締役社長

## Continental Automotive

コンチネンタル

東1・2・3ホール

### 走行中にタイヤの空気圧を自動調整するなどさまざまなイノベーションの流れを作る

**2** 017年を迎え、自動車業界を取り巻く環境は大きく変わってきている。すでに確立されたテクノロジーやビジネスモデルが新しいものに代わってきている中で我が社は最新の開発事例であるデモ車、CUBEによる「運転支援・自動運転」、ワイヤレスの自動インダクティブチャージなどの「電動化」、安全を担保するための「コネクティビティ」、そして道路に触れることで走行中に空気圧を調整する「タイヤ」などイノベーションを進めていく。この東京モーターショーではVRグラスを使用して車両コンセプト「BEE」の体験などができるのでぜひお試しください。



プレスブリーフィングに臨むContinentalのエルマー・デーゲンハルト博士

## Schaeffler

シェフラー

東1・2・3ホール

### 低エミッションおよびローカル・ゼロエミッションドライブを目指したソリューションを披露

**シ** エフラーは低エミッションとローカル・ゼロエミッションドライブを目指した市場向けソリューションの幅広いポートフォリオを披露。48VハイブリッドモジュールとMTを組み合わせ、日本向けのコンパクトで手頃なハイブリッドソリューション「ガソリン技術車」(GTC)は、今後求められる燃料消費量に関する規制要件を現時点ですでに達成可能にする方法を実証している。また、48V化によるハイパフォーマンスなハイブリッドテクノロジーの「シェフラーハイパフォーマンス48Vシステム」を展示。このシステムが秘める革新の可能性をかぎりなく広げていきたいと考えている。



世界の持続可能なモビリティのための技術を披露したシェフラー

## TAKAYAMA CARS

高山自動車

東1・2・3ホール

### 小型電気自動車「マイクロフリーダ」発売開始 キッチンカーや災害時の運用に役立てる

**小** 型電気自動車の生産販売をしている我が社は10月26日、小型電気自動車「マイクロフリーダ」の発売を開始する。東京都立産業技術センターと共同開発したアルミ材を使い、車体重量が当社比で50%近く軽量化。鶴盛工業(株)の生産方式によって受注後3ヵ月で納車できる体制を整えた。全長2100mm×全幅1120mm×全高1980mmの車両は停車時に全幅が2020mmまで広げることが可能。車両本体価格は498万円からキッチンカー用のオプションを70万円台から用意する。東京モーターショーでは使用例として防災訓練や災害時の運用方法を展示した。



プレスブリーフィングに臨む高山自動車代表取締役の高山英一氏

## AICHI HIGH SCHOOL of Technology and Engineering

愛知総合工科高等学校

東1・2・3ホール

### 学生が生み出した折りたたみ式のAI車両は既存の常識を壊した未来のEV通勤車

**愛** 知県立愛知総合工科高等学校専攻科。この学生が2050年のクルマ社会を想定して作った展示車両がCollapse。全長が2340mmから1600mmへと折りたたみ可能な車体で、カーシェアリングを前提としたAI搭載モデルである。「2050年、AIを搭載した自動車型ロボットが「やりがい」をもって人間社会に貢献している」とのビジョンを持った10代の若者が未来の自動車社会を見据えて開発した。私たちが大人になる2050年には日本中のコンパクトシティが進展し、公共交通としてCollapseたちが走行している。そんな未来のために今なにができて、なにが必要なのかを見据えている。



製作と同時に活用方法や利益の収益方法も提案している

> We make the future real. “未来をみんなに”

# 新時代のフォルクスワーゲンを 視覚で体感する

その高い信頼性、そして高い実用性で人気のフォルクスワーゲン。東京モーターショーでは2022年の市販が決定した電気自動車「I.D.BUZZ」のコンセプトモデルが登場。さらに日本市場で展開の始まるArteon、Polo、up!GTI、Passat Variant TDIも展示。また新感覚のVR/AR体験も多数展開し「視覚」をフルに使ったブース展開となっている。

**1**  
TOPIC  
2022年に市販決定  
「I.D. BUZZ」コンセプト

名車“Type-2”マイクロバスのイメージもある「I.D.BUZZ」。キュートな外観に、最先端のEV技術のマッチングが光る



2022年に市販が決定した「I.D. BUZZ」。名車である“Type-2”マイクロバスを彷彿とさせる1台だが、車両のコンポーネントは21世紀の最新トレンドを取り入れたもの。動力源はバッテリーの完全な

EV。近年電動化に取り組むフォルクスワーゲンの潮流に乗ったモデルだ。

また運転支援システムも充実しているのが特徴。「I.D. BUZZ」は新世代EVとして完全自動運転機

能を備え、その証に運転席が180°回転する機能も持ち合わせる。ドライバーも同乗者とのおしゃべりを楽しみながら移動時間を過ごせるのだ。航続距離600kmという実用性の高さに加えて、EVらしい

鋭い加速なども魅力になる。

2022年の市販化に向けて開発の進む「I.D. BUZZ」。未来を身近に感じるコンセプトモデルを東京モーターショーで目にしよう。

**2**  
TOPIC

ジャパンプレミアが一堂に会す  
Arteon、Polo、up!GTI



日本で実車の初お披露目となる3車種が登場。Arteonは2.0ℓターボエンジンを搭載するグレードを機軸にフォルクスワーゲンの最上級ラインアップを担うサルーンだ。サルーンといってもそのスタイリングは5ドアハッチバックであり、フォルクスワーゲンによる新たな

サルーンの一面を表現しているモデル。全長4.9mの伸びやかなデザインにも注目だ。

また新型となるPoloは前型よりもスペースを効率化し、広く変わったにも関わらず車重は約70kgも軽量化している。ホイールベースが伸びたことでキャビン空間が広

くなった。フォルクスワーゲンを支える基盤となるPolo。その姿をぜひじっくりと見てほしい。

最後はup!GTI。フォルクスワーゲンでもっともコンパクトなラインアップであるup! キビキビした走りは多くのファンがいるが、そんなup!にGTIが登場した。GTI

の特徴でもあるチェック柄のシート、そして3ペダルの6速マニュアルトランスミッションも選択可能。コンパクトでも楽しさはビッグに!!



ジャパンプレミアの3車種が一堂に会す東京モーターショー。Arteonは特に注目株だ



e-mobilityとして電動化を進めるフォルクスワーゲン。環境への配慮はもとより、運転の楽しさや実用性への配慮も忘れないのがフォルクスワーゲン流

**3**  
TOPIC  
フォルクスワーゲンは電動化も“e-mobility” 3車種は必見

フォルクスワーゲンは電動化にも積極的に取り組んでいることをご存じだろうか。すっかり日本のユーザーの間でもおなじみの“GTE”グレードは、現行ラインアップではGolf、そしてPassatに設定されている。“GTE”の文字が示すとおり従来

のフォルクスワーゲンのモデルが持つ洗練されたスポーツ性能を、プラグインハイブリッド技術でさらにブラッシュアップ。人とクルマの関係が新しくなる、そんな感覚を味わえるのが“Golf GTE”と“Passat GTE”である。東京モーターショーではこの2モデルに追

加して新たなフォルクスワーゲンの電動化を示す1台も展示する。それが“e-Golf”。完全な電気自動車として登場するこのモデルは、航続距離が300kmにも達する。電気自動車らしいシームレスで力強い加速感など、フォルクスワーゲンの新たな魅力を堪能でき

る1台でもある。電動化という航続距離などの効率化ばかりが目立ってしまう傾向にあるが、フォルクスワーゲンらしさ、そしてクルマそのものの楽しさを感じられるのがフォルクスワーゲンの“e-mobility”である。

**4**  
TOPIC  
VRであのコンセプトカーに乗る  
名作家のコンセプトも楽しもう

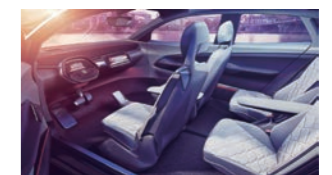
フォルクスワーゲンブースはVR/ARを駆使したコンテンツがたくさん!! I.D. CROZZは電気自動車のクロスオーバーモデル。近未来を感じるエクステリアとインテリアを、東京モーターショーの現場でVRで体感することができる。さらにあなたの脳波を計測し、直感でピッタリのモデルを見つけるコンテンツも。ピピピッとあなた

が感じたモデルが次の愛車かも? さらにミニチュア写真家である田中達也氏が手がけたミニチュア世界VR体験も必見。さまざまなモノで作った街をミニチュアのビートルで爽快に走り抜けます。展示車両にあるステッカーにス

マートフォンをかざすと、ミニチュア研究員がクルマの魅力を紹介してくれるARアプリ“Volkswagen AR”のダウンロードもお忘れなく。



I.D. CROZZ VR体験  
あの話題のコンセプトカーに  
VRで乗ってみよう



Intuitive Car Finder  
あなたの脳波で  
ぴったりのクルマを見つけます



The Smallest Volkswagen VR ミニチュア体験  
さまざまなモノで作った街をミニチュアビートルが走ります



アンケートに答えて  
素敵なノベルティをもらおう!!



オリジナルピンバッジ

製作者  
田中達也

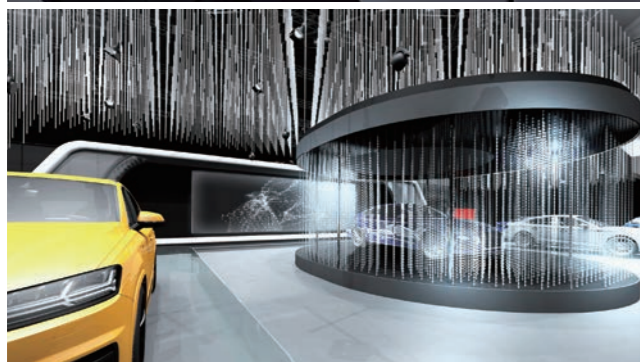


ミニチュア写真家・見立て作家。  
NHK連続テレビ小説「ひよっこ」  
のタイトルバックを担当

KEYWORD > 「人工知能、電動化、スポーツ」

# 楽しさと新しさ、クルマの未来が加速する。

人工知能、モーターパワー、高性能モデル……クルマ本来の魅力と新しさの共存



Audi ELAINE。スリーサイズは、全長4900mm×全幅1980mm×全高1530mmというスペース。クーペルックな流麗なフォルムは会場ぜひチェックしてみてください

## TOPIC 1 Audi AIが移動時間を新しくする

Audi AI(人工知能)とe-tron技術を体現した日本初登場のモデルがAudi Elaine (エレヌ)だ。フロント1基、リヤ2基の計3モーターを車軸上に収めた4輪駆動の電動SUV。人工知能と電動化を売りにしているだけでなく、その最高出力は435ps、ブーストモード時は515psに達し、非常にパワフルな点も自動車ファンにとっては目の離

せない存在だ。さらに航続距離も500km以上とし、EVでありながらエンジン車に匹敵するロングドライブが可能。Audi AI技術を生かし、時にはドライバーのさまざまな希望に応え、より快適に。時にはそのパワフルさを生かし、意のままに操れる。まさに「知能を持った野獣」なのだ。

「クルマの中で、もっと自由な時間を」。それを実現する技術の総称がAudi AIだ。この技術は、クルマ自らが学び、状況を先読みしてくれる「高い知能と共感性」が鍵。“ちょっと先の未来”に搭載される技術がこの会場で見える!



最上級セダンを担うAudi A8の新型も日本初公開。自動運転とMHEVという2つの技術を得た車だ

Audi Elaine同様Audi AIを搭載するのが、Audi A8だ。なかでもトピックは、「一定の条件下で、運転操作を完全にクルマに任せられる」段階(レベル3)の自動運転を実現している点。今回日本初公開となるAudi A8は、2010年から販売されている現行モデルに替わる、

フルモデルチェンジの新型だ。搭載されるエンジンはV8、3ℓをボトムに450ps超のV8、4ℓなどをラインアップ。また、全エンジンにマイルドハイブリッドシステム(MHEV)を採用し、電動化に繋がる要素も持つ。

MHEV技術を搭載したコンセプトカーが、Audi Q8 sport conceptだ。肝はMHEVと電動式コンプレッサーを備えたV6、3ℓターボのTFSIエンジン。“ハイブリッド”の響きから連想するとおり、燃費がいいだけでなく、パワーにも優れ「8気筒の性能と4気筒の燃費」を実現。最

高出力476hp、最大トルク700Nmというスペックを誇る。いっぽうで、渋滞時や駐車時はモーターのみで走行可能で、20kWのエネギー回生能力を誇るなどMHEVは燃費面にも寄与。エコとパワーを両立したAudiの電動化を象徴するモデルだ。

## パワフルかつエコ「e-tron」の新展開に注目

TOPIC

# 2

将来への持続可能性の追求はAudiにとって重要な柱。そのために環境負荷を抑える技術がe-tronをコアとする電動化だ。Audi A8、Audi Q8 sport conceptに搭載されるマイルドハイブリッドは、燃費向上に加え、エンジンと組み合わせることで、さらなるパワーアップをも実現する新しい電動化技術の提案だ。



Audi Q8 sport concept。MHEV搭載。スタータージェネレーターによって回生したエネルギーは動力性能向上にも活用可能



Audi RS 4 Avant。駆動方式はAWDのquattro(4輪駆動)。変速機は8速ディブトロニックを採用

## TOPIC 3 刺激的なスポーツブランド Audi Sport

圧倒的な性能と洗練されたデザインを持つモデルを展開するAudi Sport。今回はAudi R8 Spyder等の展示に加え、使い勝手のよさと至上的スポーツ性を両立するAudi RS 4 Avantを日本初公開。

搭載されるV6、2.9ℓツインターボエンジンは、450hpの最高出力と600Nmもの最大トルクを発生。0-100km/h加速4.1秒の俊足を誇る。旧型比で性能向上を果たした刺激的なスポーツワゴンファン必見。

### CONCEPT Audi AIの世界観を光の演出で表現

人工知能のAudi AIにはカタチがないが、今回の東京モーターショーに向けて特別に設計されたブースデザインでは、Audi AIの世界観を光の演出によって表現する。

ブースは瞬間ごとに表情を変え、来場者一人ひとりに対して無限のカタチがつけられていく。その一度しかない瞬間を、魅力的な出展車両とともに、Audiブースで体験しよう。

### SPECIAL スマホを使ってガイド&特別アトラクション実施

Audiブース内では、Audiの様々な技術や展示モデル情報を、スマートフォンにて案内。Chatbotで音声ガイドを受けながらAudiブースを探索可能。音声だけでなく、写真を通じて展示車両の情

報を受け取ることも可能だ。また、日本初公開の新型Audi A8に乗り込んでAudi AIの世界観を体験する特別なアトラクションを実施。会期中、毎日限定数十組が体験できる。

# メルセデス・ベンツが自動車を再定義する

世界に先駆け自動車の歴史を作ってきたメルセデス・ベンツ。そしてこの先100年の歴史もメルセデス・ベンツが作る



メルセデスAMGが持てる技術を惜しみなく注ぎ込んだProject ONE。クルマ史上、最も現代のF1に近いスーパースポーツといえる

## 1 新時代の象徴 Mercedes-AMG Project ONE

AMGの設立50周年を記念すべく、フランクフルトモーターショーで発表されたばかりのProject ONEが東京モーターショーにやってきた。パワーユニットはF1マシンに搭載される1.6ℓ、V6ガソリンエンジンをほぼそのまま使い、それに4つのモーターを組み合わせたハイブリッドターボエンジン。これにより総出力は1000馬力以上、エンジン回転数は公道モデルでは他に類をみない1万1000rpm。0-200km/hはわずか6秒、最高速度350km/hオー

バーという性能を実現している。組み合わせられるトランスミッションはF1同様の8速。パドルシフト機能も併せ持つ。ボディもF1譲りのカーボンモノコックで、強力なダウンフォースを生み出すグラウンドエフェクトを巧みに利用している。またサスペンションは、これもF1同様のプッシュロッド式となる。今回の東京モーターショーは実車を見ることのできる希少なチャンスなので、お見逃しなく。

## 2 未来は Concept EQAが切り開く

EQはメルセデス・ベンツのEV専用ブランド。今回東京モーターショーにやってきたアジア初公開となるConcept EQAは、その最新コンセプトモデルである。2個のモーターにより最大合計出力272hpを発揮するパワートレインを持ち、バッテリーコンポーネントは拡縮が可能なので、希望の出力や航続距離をユーザーが選

択できる点も先進的。最大航続距離は400kmとなる。また、急速充電を使用すれば10分ほどの充電で100kmの航続距離が得られるので、高い利便性を実現している。フロントライトはレーザーファイバーが採用され、特徴的なバーチャルグリルは走行モードに応じてデザインが変化する。



近未来を感じさせるスタイリッシュなデザイン。新たなデザインのLEDヘッドライトが個性的

ボディサイズは全長4285mm。ボディ両端まで伸びるLEDリヤライトが特徴



フロントのディスプレイで歩行者とのコミュニケーションが可能となっている

## smartが思い描く未来のカーライフ

シティビークルとして人気のsmart。そのsmartが将来のカーシェアの姿を提案するのが、完全自動運転で自ら街中を走行するEV、smart vision EQ fortwoだ。ステアリングもペダルもなく、AIと連携して他のクルマや歩行者

# 3

TOPIC

などとコミュニケーションをとりながら、クルマ自体がユーザーの希望する場所まで迎えに来てくれる。車両が使用されていないときは自動で充電ステーションに移動し、充電することもできる。

## 4 オンラインでお気に入りのクルマを

メルセデス・ベンツは新たなクルマの購入体験を10月25日から提供している。それがインターネットでのクルマの販売である「Mercedes-Benz Online Store」だ。オンライン販売は以下の3車種。  
・ smart BRABUS forfour canvas-top limited  
・ smart forfour turbo crosstown limited  
(上記2台はスマートブースにて

展示中)  
・ SLC 200 Sports MT limited  
これまでクルマの購入といえばディーラーに出向き購入するのが常識だったが、契約完了までをオンラインで行い、ディーラーで納車するだけとなった。詳細は右のQRコードからアクセスできる。



オフロードデザインと限定色で更に個性が際立つ smart forfour turbo crosstown limited



## 5 更なる体験を Mercedes me Tokyoで



最新モデルの試乗はもとより、カフェ&レストランでは本格的な味も楽しめるMercedes me Tokyo (住所:東京都港区六本木7丁目3番10号 ☎03-3423-1256)

東京六本木にあるメルセデス・ベンツのブランド情報発信拠点、「Mercedes me Tokyo」では、東京モーターショーに合わせて、ショーのサテライト会場として、様々なモデルの展示とともに、気軽に試乗出来る「トライアルクルーズ」と車外からスマートフォンで駐車操作を行う「リモートパーキングアシスト」のデモ、最大傾斜角45度のスロープをGクラスで登る「マウンテンクライム」を実施。また、メルセデス・ベンツ Vクラスを使った東京ビッグサイトとの無料送迎もある。詳細はメルセデス・ベンツブースまで。(実施期間は10月27日~11月5日まで)

### 東京モーターショー 特設サイトへアクセス!

東京モーターショー開催に合わせて、メルセデス・ベンツのWebサイトでは東京モーターショー特設サイトを開設。ショーに展示したコンセプトモデルの詳しい紹介や、メルセデス・ベンツ全モデルの情報をお届け。下のQRコードから今すぐアクセスできる。



KEYWORD > 「Moving Forward!」

# 人・クルマ・社会がつながる未来へ

日立オートモティブシステムズは、メカトロニクス技術を基盤に次世代の車両へと進化させる。最先端技術を“体感”し、一歩先の未来を見に行こう。

## 1 「Moving Forward!」日立グループブース

ハイブリッドカーや電気自動車の普及に加え自動運転技術の急速な発展、さらにはコネクテッド技術の活用など、クルマのあり方が大きく変わろうとしている。日立オートモティブシステムズはその変化において、メカトロニクス技術と日立グループのIT技術などにより、ユーザーに価値を与えている企業だ。

今回の展示では、「Moving Forward! 人・クルマ・社会がつながる未来へ」をテーマに、体感型展示、映像を通じて同社が取り組む電動化技術や自動運転・コネクテッドソリューションなどの理解を深めることができる。

東京モーターショーで日立といえば、擬似ドライブ体験ができる

人気の高いアトラクションのモーションライドが代名詞ともいえるが、今回のショーではVR（バーチャリアリティ）を活用したライドシアターが設置され、さらに臨場感溢れる自動運転走行シーンを感じることができるだろう。

また、同社が取り組むモータースポーツ特設コーナーでは、迫力あるスーパーフォーミュラカーの実車展示と、レーシングカーの運転席であるコックピットを設置。コックピットには座ることができ、日立オートモティブシステムズシケインがある鈴鹿サーキットの走行映像とともに迫力ある体感が可能だ。

日立オートモティブシステムズならではの取り組みや技術を実感しよう。

## 2 スーパーフォーミュラカーの迫力展示

モータースポーツコーナーでは、日立オートモティブシステムズがモータースポーツへのスポンサーシップを通じ、日立ブランドの浸透とともにモータースポーツの振興に貢献していることが窺える。

まずは全日本スーパーフォーミュラ選手権大会を主催する日本

レースプロモーションとパートナー契約を2014年より継続。全レースにおいて参戦するスーパーフォーミュラの車両すべてに、日立ロゴが掲出されている。今回はそのフォーミュラカーの実車に日立デザインを施し、迫力ある展示をしている。



さらに別に設置した運転席（コックピット）に座ることができ、サーキット走行映像とともにレーサー気分を体感できる。

また、同社はインディカー・シリーズに参戦中のチーム・ペンズキーに対するスポンサー契約を2012年から継続。本年は日立契約

ドライバーのエリオ・カストロネベス選手が日立的のロゴと共に疾走し、年間チャンピオンシップ4位でフィニッシュ。そのエリオ選手が使用したヘルメット、レーシングスーツが展示されている。レースファンのみならず一見の価値ありのアイテムだ。

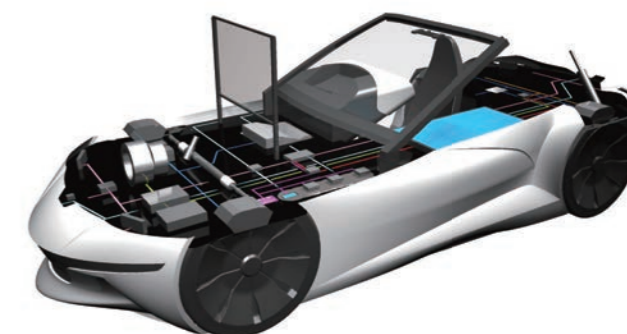
## 3 自動運転の実現へ向けて

環境保全、事故撲滅、高齢者移動支援、渋滞解消、快適性向上といったクルマへの社会ニーズにより高度なレベルで対応するためコネクテッド化が進み、自動運転の価値がさらに高まると考えられている。

日立オートモティブシステムズは、クルマと社会をつなげて新たな価値を創出するため、同社が有する環境・安全・情報技術と日立グループが有する情報通信・人口知能解析などの技術を統合し、高度化するソリューションの拡大を

狙っている。今回の展示では、マクセル(株)のヘッドアップディスプレイを含め、自動運転の実現に向けた技術をデモ車両に搭載し、わかりやすく紹介している。

併せて環境に対する世界的な問題意識の高まりを背景に加速する電動化に向けたモーター、インバーター、Liイオン電池および高効率なエンジンマネジメントシステムの展示をおこなっている。



## 4 オートモティブシステム事業の展開

日立オートモティブシステムズの歴史は、1930年に前身である日立製作所が自動車電装品を国産化したことに始まり、85年以上にわたり自動車機器事業を展開し、エレクトロニクスメーカーを母体としながらもクルマに対する深い知見を有している。

近年、クルマを取り巻く環境は大きく変化し、技術革新に加え、グローバル化に伴う多様な市場への

対応といった要求が一層高まっている中、同社はこれらにいち早く最適解と付加価値を提供すべく、力強い企業への変革を推進している。

「私たちは、人・クルマ・社会に新たな価値を創造し、豊かな社会の実現に貢献します」を企業理念とし、世界から最も信頼されるグローバル企業をめざしているサプライヤーである。

## 5 日立グループ会社も出展



国内市販向けナビゲーション「NXV977D」

日立のグループ会社のクラリオン(株)も東京モーターショーに出展している。

クラリオンブースでは、自動運転時代に向けて提案するSmart Cockpitソリューション技術を搭載したデモカーで、Real Interactive

HMIと、Personalized Seamless Serviceによる快適・安心な移動空間を体感できる。また、クラリオン独自開発技術であるQuad ViewやFull Digital Soundなどを紹介している。



KEYWORD > 「Tradition × Innovation」

# 思い通りって楽しい

ジェイテクトは1988年に世界で初めて電動パワーステアリングの開発・量産に成功し、女性でも手軽に軽自動車を運転できることを実現。この成果をはじめステアリングシステム、駆動製品の技術力を高め、ドライバーとクルマとが調和することで安全で快適なドライブを実現したジェイテクトだからこそできる、来るべき自動運転社会においてもヒトと機械が調和する将来技術などを紹介。前身企業である光洋精工、豊田工機、合わせて150年の歴史を継承し、2006年に合併し誕生した「歴史ある若い会社、ジェイテクト」の自動車会社の黎明期から支えてきた製品、現在の量産製品、そして将来に向けた開発品を、Tradition × Innovationをキーワードに展示を予定している

## 1 LEXUS LC500のカットモデル ～LC500に盛り込まれた JTEKTの技術を可視化～



普段では目にすることができないLC500の部品を一同に見ることができる

今年デビューしたクルマのなかで、国内外から最も注目されていると評判なのがレクサスLCシリーズ。そのトップレンジの

LC500にはジェイテクトの最新電動パワーステアリングシステムのRP-EPSをはじめ、ハブユニット、TORSEN（トルセン）などの製品

が搭載され、走りの楽しさと質感を両立させた魅力のある走りの実現に大きく貢献している。ジェイテクトブースの目玉のひ

ととしてLC500のカットモデルを展示。普段では見ることのできないジェイテクトの技術、製品を一同に見ることができる。



VRゴーグルを使ってテストコースでの自動運転走行を体験

## 2 JGOGGLE ～360度映像のヴァーチャルリアリティ コンテンツ第2弾～

JGOGGLE2は一般人が普段足を踏み入れることのできないテストコース、ジェイテクト伊賀試験場を360度映像で見ることができ

る同時に、そこを舞台に開発が進められている最先端の自動運転対応技術の実車走行映像を360度映像で堪能できる。

電動パワステのバイオニアのジェイテクトが自動運転の実現に向けて考えるドライバーとシステムの意思伝達と協調性をより高め

る高精度舵角制御、ハンズオンディテクション、操舵権限移譲技術、アクシデンタルタッチといった先行技術を仮想体験しよう！

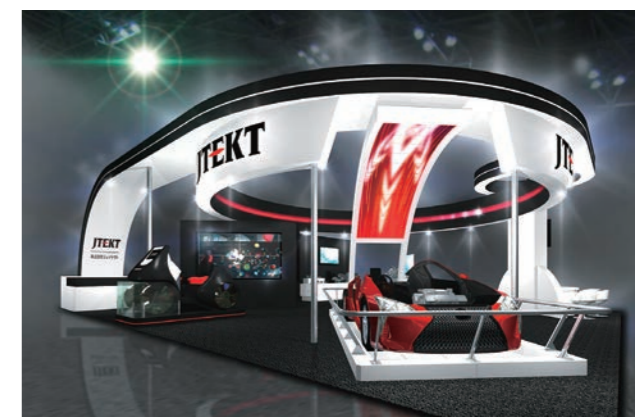
### > 造形にこだわった黒、赤基調のブース

ブラックとレッドを基調にしたジェイテクトらしい色遣いのブースは、造形にもこだわりを見せる。出展コンセプトである「思い通りって楽しい」に則り、ドライバーとクルマが協調することを円形のデザインを用いて表現している。

ブース壁面には光洋精工創業、豊田工機設立から現在までのステ

アリング、駆動、軸受けという商品群を年代に沿って紹介。

近未来を予感させるデザインコンシャスなジェイテクトブースは、自動車産業の発展を支えるNo.1 & Only Oneのリーディングカンパニーの過去(歴史)、現在(現在の製品群)、未来(近未来の技術)が同居している。



ジェイテクトの将来技術を一体としたコンセプトモデル

## 3 Future Concept Vehicle ～JTEKTが開発中の 将来技術が満載!～

ジェイテクトの目玉コンテンツとして注目を集めること必至なのが、Future Concept Vehicleで、ステアバイワイヤシステムの電動パワーステアリングとインホイール

モーターが一体化されている。同時に自動運転化を見越したハンドル格納技術であるリトラクタブルコラムモジュールも搭載されている注目のコンセプトカーだ。

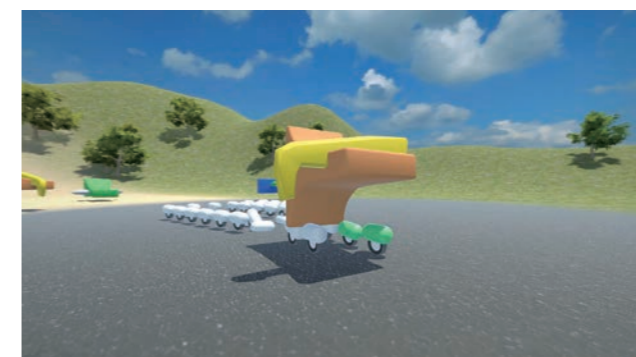
## 4 大型車向け EPSシステム ～大型車の自動運転化の キーテクノロジー～

大型車は車重が重く、タイヤ径も大きいためEPS化が難しく、この点が大型車の自動運転化において大きなネックとなっている。EPSのバイオニアかつ世界で

唯一EPSのすべてのラインアップを揃えるジェイテクトは、大型車のEPS化技術についても積極的に独自開発を進め、TMSでその最新技術を公開する！



ジェイテクトは大型乗用車やバス、トラックなどでの自動運転化を実現するために、大型車向けのステアリングシステムを開発



開催場所 / JTEKT ROOM Ginza: 東京都中央区銀座7-11-15 東京ジェイテクトビル1F  
開催期間 / 10月18日(水)～11月24日(金) 平日のみ開催  
詳細は<http://jtekt-sp.com/mobiverse/>



## 5 ジェイテクトブースサテライト会場 ～JTEKT ROOM Ginzaで 未来のモビリティの 可能性を体験～

ジェイテクトでは会場を飛び出し自社のショールームでもTMSの企画を展開。多摩美術大学のデザインチームが、ジェイテクトが手がける「曲がる技術、が遠い未来社

会のモビリティでどのような姿になるのかなど可能性を思索。美術大学らしき溢れる表現を通じてジェイテクトの技術の可能性とモビリティ社会の姿を体験可能。

KEYWORD > 人とクルマが寄りそう未来へ

# ICTで人とクルマをもっと近くに。

“ICT”で「人」「クルマ」「社会」のデータをつなぎ、新たなモビリティライフの提供を目指す自動運転実現の一端を担う、富士通テンの先進技術を体験しよう

TOPIC

## 1 ICTを活用し、人とクルマが寄りそうモビリティソリューションを提案

ブースでは「ICTで人とクルマをもっと近くに。」をテーマにICTを活用したモビリティソリューションや、安心して快適なドライブを支える先進運転支援システムなど、自動運転実現の一端を担う技術開発の取り組みを映像や実機体験デモを通して紹介される。クルマやスマートフォンなどさまざまなモノがネットワーク化し

たモビリティ社会で、サイバー空間に蓄積、共有された車両や天候などのビッグデータを分析、予測することで現実世界に多くの嬉しさが生み出される様子を各展示を通してわかりやすく紹介。さらに「センシング技術」、「情報分析ソリューション」、「先進HMI」の各カテゴリーにおける先進技術が披露される。



TOPIC

## 3

### 前も後ろも記録できる。ドライブレコーダー内蔵ナビ「録ナビ」タッチ&トライ

ECLIPSE 録ナビ



ドライブレコーダー内蔵のECLIPSE最新カーナビ「録ナビ」は、前方映像の記録に加え、バックアイカメラ(別売)を装着することで後方映像の記録も可能。記録映像はナビ画面ですぐに確認でき、専用アプリを使えばWi-Fi経由で録

画データをスマートフォンに転送することもできる。また、毎月新規で開通した道路の差分情報を自動で更新する「自動地図更新」などのつながるサービスもWi-Fi接続で利用することが可能だ。



TOPIC

## 2 自動運転実現の一端を担う富士通テンの先進技術

クルマの周囲を“見る・捉える”「センシング技術」



### リモートマルチアングルビジョン

4つのカメラ映像を合成し、車両の周囲をさまざまな視点で見ることができる「マルチアングルビジョン™」に通信機能を搭載。車両の衝撃を検知するとスマートフォンに通知し、離れた場所においても自車の様子を確認することができる。



### 周辺監視ミリ波レーダー

今回は周辺監視ミリ波レーダーのうち、ドライバーの死角をサポートし交差点での歩行者検知などで威力を発揮する前側方ミリ波レーダーを紹介する。

ビッグデータ活用で新たなサービスを提供「情報分析ソリューション」



### AIを活用したタクシー配車システム

人口統計データ、車両運行データ、気象情報、イベント情報などのビッグデータを組み合わせ、30分後のタクシー需要をAIが予測。乗りたい時に待たずに乗れる効率的なタクシー配車システムの実現を目指す。

ドライブの状況に応じた車室空間を演出する「先進HMI」

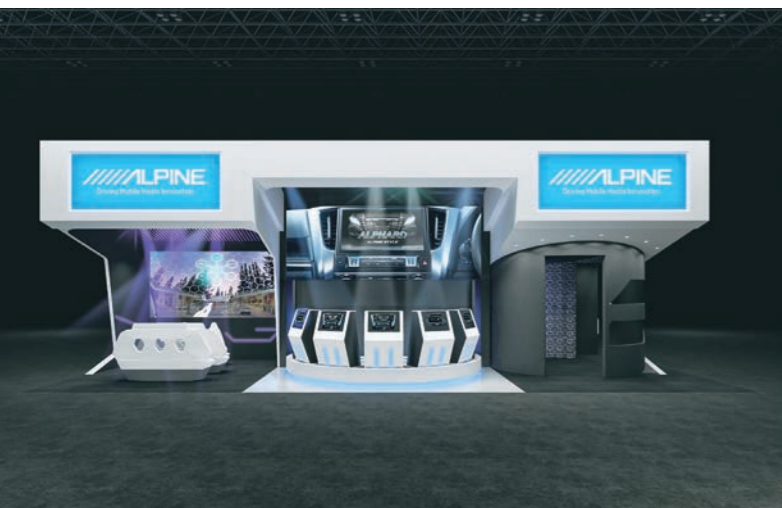


### 車載用 超指向性スピーカー

車載向けに薄型化を実現した超指向性スピーカー。同乗者が寝静まった時などに、ドライバーだけにカーナビゲーションの案内音声を届けるといった、伝える相手・範囲をコントロールできるスピーカー。

# 感動の移動時間・空間を提供する

人とクルマの関係を進化させてきたアルパイン。今回のショーではより深い人とクルマのかかわり方を提案してくれる



The Alpine UX theater, ALPINE STYLEプレミアムスペースデザイン、Alpine Premium Sound System、3つの楽しさが詰まった今回のブース。これからのクルマとの関係をより深く知ることができる

## 1 TOPIC 近未来の車内の感動をブースに凝縮

1967年の創業以来、世界中のドライバーと、自動車メーカーに信頼されてきたアルパイン。オーディオから始まってカーナビ、カーエンタテインメントと常に革新的な製品を発売してきた。そして今回の東京モーターショーではアルパインが提唱する近未来の車内空間とはどういうものなのかを見せて

くれる。ブースでは、感動の移動時間&空間を体験できるThe Alpine UX theater、車種専用で最高の室内空間を創りだすALPINE STYLEプレミアムスペースデザイン、アルパインサウンドの魅力が体験できるAlpine Premium Sound Systemが展開されている。

## 2 TOPIC 2030年のシームレスHMIを世界に先駆け提案

コネクテッドカーの登場により、日々進化を続ける車内空間。それは移動する時間そのものありかたさえも変えようとしている。アルパインはそんな未来をすでに見据えて、今回の東京モーターショーでは2030年のシームレスHMI(ヒューマン・マシン・インターフェイス)の世界を体験させてくれる。それがThe Alpine UX theater。

前面、左右側面、天井面の巨大モニターに映し出される迫力の映像では、2030年の都市に住む家族と父親のビジネスパートナーたち

のある1日が紹介されている。そのストーリーの中ではAIの存在、未来のホームリンク、認証技術、そしてクルマとの未来のコミュニケーションなどが描かれている。もちろんThe Alpine UX theaterで提案されるシームレスHMIの世界は、単なる夢物語ではなく、常にこの業界で革新的役割を担ってきたアルパインが、同社のテクノロジーをベースにした未来予想図である。大きく変貌を遂げる未来のシームレスHMIの世界をぜひ体験してほしい。



前面、左右側面、天井面の巨大モニターを使用する



まるで未来のクルマに乗っているような臨場感が味わえる



未来のクルマの車内に現れるホログラム。これもコミュニケーションの一つとなる



アルパインが予想する未来のインストルメントパネル

## 3 TOPIC ALPINE STYLE プレミアムスペースデザイン

「ALPINE STYLEプレミアムスペースデザイン」とは、カーナビゲーション、リアビジョン、プレミアムサウンド、カメラなど、車種ごとに最適な室内空間を提案するコンセプト。ブースではALPINE STYLEプレミアムスペースデザインの中心となる車種専用・大画面カーナビ「ビッグX」が展示され、音声によって快適な操作を実現する「ボイスタッチ」を体験することができる。従来の音声認識とは異なるスピード感ある「ボイスタッチ」をぜひ試してほしい。



ALPINE STYLEプレミアムスペースデザインは最高の室内空間を創りだす。コーナーではその中心となる4台の車種専用・大画面カーナビ「ビッグX」を展示。実際に触れることができる



車種専用とすることで、インパネへの緻密なフィットリングを実現した「ビッグX」。トップモデルの「ビッグX 11」は11型の高画質・大画面を装備する



AV環境もトータルにコーディネート。「リアビジョン」は天井吊下げ型後席モニターとして高画質・大画面で、美しい装着感を実現する

## 4 TOPIC 最新のスピーカー「X」でプレミアムなアルパインサウンドを体感

車内における最高の音響空間を創業以来追求してきたアルパインの最新スピーカーが「X」。その「X」を中心として車内に高品位な音響空間を創りだすのがAlpine Premium Sound System。今回のブースではそのサウンドを実際に体験できるセミクローズドゾーンが用意されている。アルパインが考える自動車室内での超リアルなサウンドを体感してみよう。



4〜5名が同時に体感できるAlpine Premium Sound Systemコーナー。アルパインの考えるプレミアムサウンドを体感できる

### アルパイン 50年の歴史を展示



今年で創業50年を迎えるアルパイン。その歴史を創ってきた銘機がブースサイドに展示されている。ファンならずとも必見だ

KEYWORD > 「安心、快適なクルマライフへ」

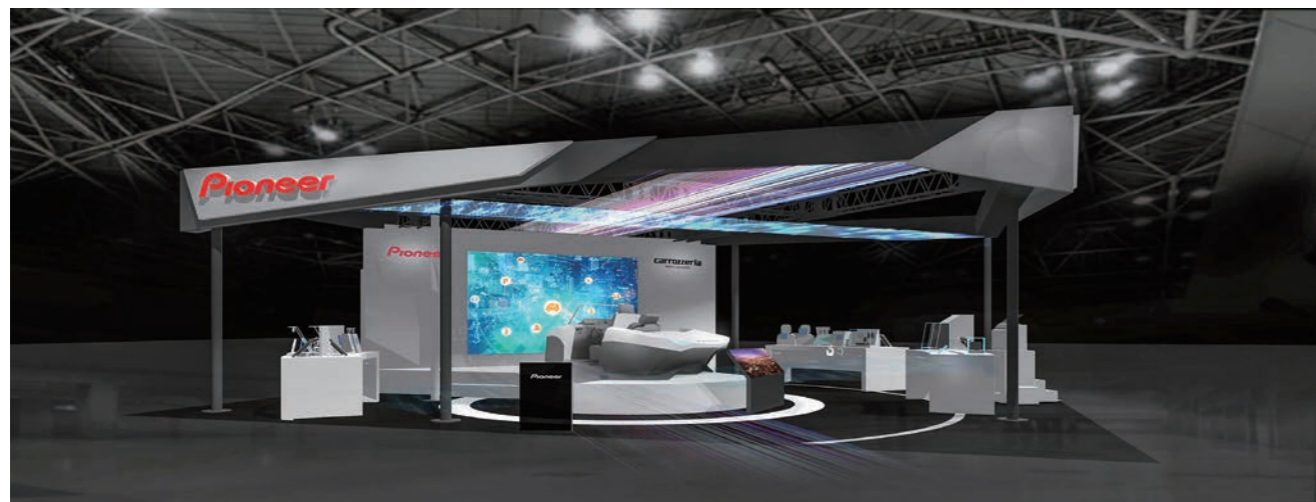
# 近未来のカーライフを彩る さまざまな「新(真)価値」を提案

パイオニアが開発している独自の走行空間センサー「3D-LiDAR」を初公開

**1** TOPIC  
自動運転社会に向けた  
数々の最先端技術を出品

パイオニアブースでは、近未来の自動運転社会に向けて、パイオニアが開発しているさまざまな「新(真)価値」を提案します。メインステージでは、パイオニアがこれまで培ってきた技術やノウハウを用いて実現する「自動運転時代の安心、快適なカーライフ」を大型LEDディスプレイで紹介しています。

ブース内には、「コンセプト・コックピット」や走行空間センサー「3D-LiDAR」のほか、フレキシブルタイプの「有機ELテールランプ&ターンシグナル」、「レーザーキャンHUD」や、位置情報を活用したさまざまなサービスなど最先端技術の数々を展示します。



ブース中央に設置した「コンセプト・コックピット」のほか多彩な先進技術を展示、前方の大型ディスプレイと天井に配置したディスプレイでステージを華やかに演出

## ラスベガスをドライブしながら 自動運転時代の先進機能を体感

「コンセプト・コックピット」は、一般道での自動運転レベル3以上を想定したシミュレーターです。パイオニアが提案する安心・安全機能やエンタテインメント機能を、ラスベガスの市街地をドライブしながら体験できます。「音」「光」「振動」を用いたさまざまなHMIデバイスによる未来の快適なドライブを体感してください。



先進技術を活用した近未来の車室内空間を体感できる「コンセプト・コックピット」

**2** TOPIC

MEMSミラーを用いた独自の走行空間センサー「3D-LiDAR」(スキャンング部)

KEYWORD > Cabin Innovation & Energy Management

# くるまの中から「世界」を変えてゆく

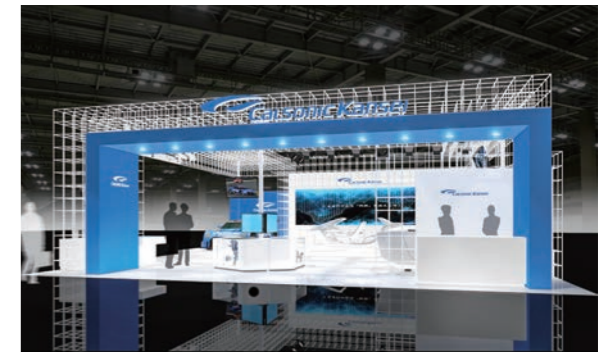
世界をリードする革新と、ものづくりに情熱を持って取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

## くるまの中から「世界」を変えてゆく 新生カルソニックカンセイ

2017年3月、カルソニックカンセイは、日産自動車グループの一人から、独立した自動車部品のメーカーへと変わった。新生カルソニックカンセイは、Cabin InnovationとEnergy

Managementを核として、技術革新のDNAとモノづくりの情熱で「システムソリューションプロバイダー」を目指している。10年ぶりの出展となる東京モーターショーのカルソニックカンセイ

**1** TOPIC



イブースは、「くるまの中から「世界」を変えてゆく」というテーマメッセージのもと、くるまの中にある見えない部分の価値がスキャンングされて光り輝くような、透明感ある空間となった。カルソニックカンセイブランドを体験できるエクスペリエンス・スペースは見逃さない。

## 2 TOPIC これが夢のキャビン 新作モックアップ Human-Max VISION

「くるまの中から「未来」を変えてゆく」をテーマに、新作モックアップ「Human-Max VISION」がブースの中央に展示される。カルソニックカンセイが考える未来のスマート・モビリティライフの様子を、AR技術「ミライスコープ」を通して楽しむ仕掛けが用意されている。ミライスコープの端末を借りてモックアップに近づくと、未来のドラマが体験できる。

ブース右側のCabin Innovationゾーンは、「くるまの中から「モビリティライフ」を変えてゆく」をテーマに構成されており、自動運転時代のモビリティライフを提案

する「Human-Max REAL」は試乗が可能だ。自動運転モードで出てくる助手席テーブルは、量産車のレイアウトにも適応可能なアイデア。隣には、世界を代表する完成車メーカーに認められた「高品質なコックピットモジュール製品」が展示されている。表面の質感だけでなく裏側も覗いてみると、緻密にレイアウトされたモジュールから高度な設計力が伝わってくる。

ブース左側のEnergy Managementゾーンは、「くるまの中から「エネルギー効率」を変えてゆく」がテーマだ。エネルギーロス無くして効率を最大化する技術を、



未来のキャビン予感させるブルーのピクトグラムサイドビュー。ARを通して空気やエネルギーの流れを見ることができる

熱エネルギー、空調エネルギー、電気エネルギーの3つの分野ごとに、ひと目で判る展示をしている。カルソニックカンセイのEV用インバータの生産累計は27万台、インバータ生産世界一の技術は必見だ。熱交換の効率をアップする魔法のVG-FINは、ミクロの世界を、見て触って感じられる大きさを拡大して展示している。普段は見えない熱エネルギー交換の不思議が体験できる。

## 3 TOPIC 世界最長 モータースポーツへの スポンサー

カルソニックカンセイは、モータースポーツ史上世界最長、36年間のタイトルスポンサーを継続している。(カルソニックカンセイ調べ)。「くるまの中から「情熱」を変えてゆく」をテーマに、モータースポーツ活動へのひたむきな情熱を、CALSONIC IMPUL GT-Rの実車を

目の前にして伝えている。10月29日(日)と11月3日(祝)には、モータースポーツファン必見の、星野監督とカルソニックレディーによる特別イベントも開催される。2018年、カルソニックカンセイは創立80周年を迎える。時代をリードする製品達に彩られた80年

の歴史展示も楽しい企画だ。歴史の中に息づく技術革新とモノづくりのDNAを磨き上げ、カルソニックカンセイは「くるまの中から「世界」を変えてゆく」。



カルソニック  
カンセイブースで  
これが体験できる!

1. AR技術「ミライスコープ」の体験
2. インテリアモックアップの試乗体験
3. 熱エネルギー交換の体験



「カルソニックカンセイ 第45回東京モーターショー2017」サイト  
<https://www.calsonickansei.co.jp/exhibition/201710/>

KEYWORD > 「Crafting the Core よりよい未来を次世代へ」

# 五感で新鮮体験、デンソーが支える近未来!

EVや自動運転など、近未来のモビリティ社会に欠かすことのできないテクノロジーの今と明日がわかる!



空間共有型 次世代VR  
**Future Tech Lab**  
未来のクルマの3つの秘密

VRヘッドセットとセンサーを装着して4m×6mの体験エリア内を動き回れば、デンソーの近未来の技術を楽しみ体験できる。

※混雑が予想されるため事前に整理券が配布されます  
※体験には身長など一定の制約条件があります

## 1 VRでデンソーの3つの注力技術を体感しよう

TOPIC

デンソーの最先端技術と近未来を仮想現実で思いっきり楽しもう! というのがVR(バーチャルリアリティ)コーナーの狙い。デンソーの最新技術をよりリアルに、より刺激的に体験するため、VR技術を駆使。最大6人まで同時に体験でき、エリア内を自由に歩き回りながら参加者同士が協力してミッションをクリアしていくというゲーム仕立てになっており、その理解度は抜群。約10分の体験を終えれば“Automated Driving”に

欠かせないセンシング技術、“Efficient Driving”のカギを握るエネルギー管理技術、“Connected Driving”で懸念されるハッキングなどのリスクに備えるセキュリティ技術といった、未来のモビリティ社会に向けてデンソーが注力する“3つのテーマ”を、楽しみながらスッと理解できる。カップルや仲間同士で体験をシェアできる新鮮なVRシステムは見逃すわけにはいかない。

## 2

### デンソーのモックカーで技術をすみずみまでチェックしよう

世界トップレベルのサプライヤー、といわれながら“どんな技術がどこに、どんな形で使われているの?”という疑問にズバリ答えているのが今回の「モックカー」。これまでデンソーが取り組んできた幅広い分野の製品を搭載したモックカーは、通常ではなかなか目にする事のできない、数多くのデンソー製品を一元的に確認できるという優れたもの。じっくり観察することで、EVや自動運転に貢献する製品が丸わかりだ。

まさにクルマの人体模型。内部に搭載されるデンソーの技術が丸見えだ。



Webでもっとデンソーをチェックしてみよう

よりよい未来のモビリティ社会に対してデンソーが何を考え、何をしようとしているか? より詳細を知りたい場合はWeb(tms.denso.com)にGo!

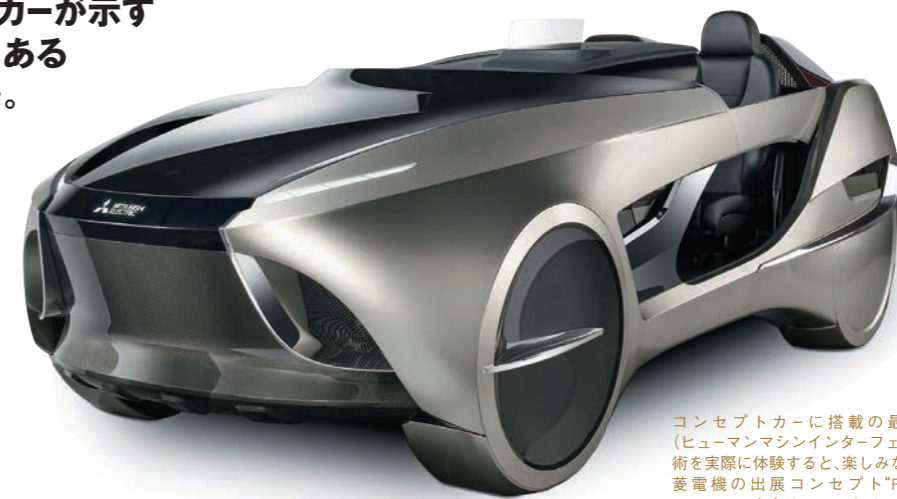
KEYWORD > Changes for the Better

# テーマは「未来はここにある」その意味を体感しに行こう!

“スマートモビリティ時代のクルマ社会”に欠かすことのできない“3つのキーワード”を三菱電機ブースでスッキリ、しっかり理解できる!

TOPIC

## 1 コンセプトカーが示すすぐそこにある未来とは…。



※混雑が予想されるため事前に整理券を配布いたします

コンセプトカーに搭載の最新HMI(ヒューマンマシンインターフェース)技術を実際に体験すると、楽しみながら三菱電機の出展コンセプト“Feel the EMIRAI ~未来はここにある~”が理解できる。

3つのキーワードとは、まず環境に配慮した、クルマ内外に対する技術である「電動化」だ。次に自動運転社会のニーズに応えるための技術である「自動運転」。そして運転支援やカーナビの音声認識機能

を使って車を操作する「コネクテッド」。このスマートモビリティ時代に必要不可欠なテーマに対して、三菱電機がどのように取り組んでいるか? そこから生まれる近未来のクルマ社会がどうなる

か? そんなワクワクするような提案を全身で感じ取れる“体験型展示”がある。その主役といえばメインステージに置かれたコンセプトカー「EMIRAI4」。これまでも三菱電機はコンセプトカーによ

て数多くの技術的な提案を行ってきたが、今回のEMIRAI4は第4世代の最新モデルであり、まさに集大成ともいえる。最新の演出効果によって3つの分野が実現するモビリティを目の当たりにできるのだ。

## 実証実験車が予防安全(自動運転)技術の“現在”をわかりやすく見せてくれる

TOPIC

## 2



xAUTOと共に「電動化展示コーナー」もあり、フルラインアップメーカーとしての幅広い技術が理解できる。

三菱電機ブースでもう1台、注目したいのが「xAUTO」と呼ばれる実証実験車だ。三菱電機の先進技術によって実現されている安全で快適な予防安全(自動運転)技術を1台に搭載し、公道での実証実験に使用するクルマである。このクルマを使った展示内容は実に魅力的。最新のAR(拡張現実)によって行われるため、ちよびり難解に感じる高度な予防安全(自動運転)技術などがストレス無く、そして楽しみながら理解できる。

Webでもっと三菱電機を知ろう

三菱電機の東京モーターショー特別ホームページでもっと「未来」を感じよう!!

KEYWORD > 世界初を生み出し続ける挑戦のDNAが、モビリティの変革に挑む

# Smart Tyre Concept

英国のJ.B.ダンロップが世界初の空気入りタイヤを発明した1888年以来、モータリゼーションが大きく発展した20世紀を通して、常にトップランナーとして先頭を切り拓いてきたダンロップが、高い技術力と開発力で変わりゆくモビリティ社会をリードしています。



代表取締役社長  
池田育嗣氏



## 1

TOPIC

100年を超える「世界初」の蓄積が、未来を切り拓く!



ダンロップは、世界で初めて空気入りタイヤを発明して以来、国産初の自動車用タイヤ生産、ランフラットタイヤの元祖である「DENOVO」の開発、世界初の「特殊吸音スポンジ」搭載タイヤの発売、100%石油外天然資源の低燃費タイヤ「エナセーブ100」の発売

など、数多くの「世界初」を生み出してきた。新しいことへの挑戦をアイデンティティとするダンロップは、自動車産業を取り巻く環境要因を見つめ、新しいモータリゼーションに対応し、来るべき時代に先駆ける「挑戦」に取り組んでいる。

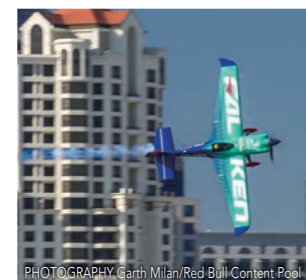


国産第1号タイヤ

世界初® 100%石油外天然資源タイヤ  
**エナセーブ100**

世界初技術  
**SILENT CORE**  
(特殊吸音スポンジ)

※合成ゴムが主流になって以降(当社調べ)



欧州で人気の  
ファルケンブランド。  
グローバルな活動が広く浸透!

## 2

TOPIC



ファルケンは欧州を始め、世界中で多彩な活動を広く展開。「FALKEN Motorsports」のBMW M6 GT3は、2017年「ニュルブルクリンク24時間耐久レース」で総合8位を獲得。また「Red Bull Air Race World Championship 2017」では、ファルケンがサポートして3年目の挑戦となる室屋

義秀選手が母国大会で優勝! 他地区でも、好成績を収めて大活躍している。さらに欧州サッカーでは英国プレミアリーグの人気チーム、リバプールFCとスポンサー契約を結び、躍動感あふれる若々しいブランドイメージを発信している。

## 3

TOPIC

自動車が変わる!  
社会が変わる!  
タイヤの新しいコンセプトが、  
変化を実現する。

# SMART TYRE CONCEPT

今、自動車を取り巻く環境が大きく動いている。地球温暖化を始めとする環境問題の深刻化、都市化や高齢化など人口動態の変化、シェアリングエコノミーの普及のような顧客ニーズの変化、AI、IoTの技術革新や自動車のコネクテッド化など世界

規模で急激に進展する情報技術の進化が同時に進む時代となることが予想される。タイヤの側から見ると、新モビリティ社会で主役となるべく増加するZEV (Zero Emission Vehicle) とSAV (Shared Autonomous Vehicle) に適応することが急務となっている。

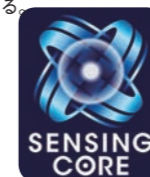
新しいモビリティ社会には今よりもさらに高い安全性と環境性能が求められると考える住友ゴムは、これまでとは一線を画した新しい商品を開発するための技術開発コンセプト「Smart Tyre Concept」を掲げる。セーフティ・テクノロジーと

エナセーブ・テクノロジー、それらを支えるシミュレーション・解析技術であるコア・テクノロジーにより構成される「Smart Tyre Concept」を駆使することで新しい時代をけん引する商品の開発スピードを一層上げるもくろみだ。

### 1. タイヤセンシング技術 「SENSING CORE (センシングコア)」

自動運転が進んだ社会では、クラウドにつながった自動車からのビッグデータの利活用が重要になる。そのときタイヤには路面状況を把握するセンサーとしての役割が求められることになる。今年の5月に住友ゴムが発表したセンシングコアは、ブレーキのコンピューターにソフトウェアを組み込むだけでタイヤをセンサーに変えることができる、まったく新しいセンシング技術だ。4つのタイヤの回転信号から、微妙な変化と違いを読み取り、独自のアルゴリズムで解析することで、路面やタイヤにかかる荷重を検知することがで

きる。路面やタイヤの状態を常時監視することができるに加え、クラウドを通してこの先の路面状態まで把握できるようになるので、自動運転中でも安心だ。複雑なセンサーをタイヤに組み込む必要がなく、既存の車載信号を使ってソフトウェアで検知するシステムであるため、多くの自動車への速やかな普及が期待されている。



### 2. アクティブトレッド技術

自動運転が進化すると、ドライブの中で人が担う部分は減少し、自動車側が自ら対応する部分が大きくなる。雨が降って路面が濡れたり、雪が降って道路が凍結した時に自動車側だけでなくタイヤ自身も自動的に

安全を図る必要がある。アクティブトレッドは、路面が濡れていたならウエット仕様に、凍結していたらアイス仕様に、その時々に必要な性能にスイッチする。これにより自動運転の安全性をさらに高めることが可能になる。

### 3. 性能持続技術

タイヤは、年月が経つとゴム内部に劣化や損傷が生じ、硬く、もろくなる。また走行距離を重ねると摩耗によりトレッド部分の溝が浅くなる。それらの経年変化は新品時よりウエットグリップを低下させ、さらにはハイドロプレーニング現象も起こしやすくなる。ダンロップは2015年のモーターショーで発表したADVANCED 4D NANO DESIGN技術を駆使し開発したエナセーブNEXT IIでは摩耗

の飛躍的向上を実現。また、高機能バイオマス材料である「液状ファルネセンゴム」を採用したWINTER MAXX 02ではスタッドレスタイヤで最も重要なゴムの硬化抑制を実現している。今後、ゴムをさらに進化させるとともに、「Tyre Lifetime Simulation」を開発し、タイヤの摩耗進行に伴う機能変化をシミュレーションすることで、新品時の性能を長持ちさせるトレッドとプロファイルの開発を加速させている。

### 新しいモビリティ社会に 適応する、 新しい開発技術。

TOPIC

## 4

### 4. LCA (Life Cycle Assessment)

2013年東京モーターショーで100%石油外天然資源タイヤを発表して以来、バイオマス材料開発技術で業界をけん引しているダンロップ。材料のバイオマス化や転

た商品のライフサイクル全体で環境負荷を低減するLCA (Life Cycle Assessment) の考え方を取り入れて、タイヤ性能と環境性能をより高いレベルで両立させていく。そのためにこれまでのタイヤ材料の枠を超えた新素材の導入も視野に入れ、環境に適した商品開発を強力で進めている。



### 5. エアレスタイヤ技術

2015年の東京モーターショーで、空気充填不要のタイヤ「GYROBLADE (ジャイロブレイド)」を発表したダンロップ。完全自動運転化やシェアリングエコノミーが進展するのに伴ってタイヤの空気圧管理などのメンテナンス意識が低下するであろうことを見越して、空気を使わないタイヤの実用化に向けた技術開

発を進めてきた。130年前に空気入りタイヤを発明したダンロップが、空気を使わないエアレスタイヤを作り、これまでより一層トラブルの気遣いなく安心して安全な移動を実現できる世の中を目指す。



KEYWORD > 「高性能×革新」

## モータースポーツ技術のノウハウを結集

世界的なブレーキメーカーであるakebonoは、数々のモータースポーツ活動により培われた技術を市販モデルにフィードバック。さらには将来を見据えた画期的な新技術も公開する！

TOPIC

### 1 新開発の高性能量販車用ブレーキキャリパーに注目



写真左から新開発10ポット、8ポット、4ポットのオボーズドタイプのキャリパー（全てプロトタイプ）。新10ポットの市販モデルへの早期採用に期待がかかる

akebonoは2007年よりF1マクラレンチームにブレーキシステムを供給するなど、さまざまなモータースポーツ活動を行っている。そこで培われたブレーキ技術のノウハウを結集し、高速、高負荷、高温制動時の優れたブレーキ性能を実現するとともに、高価格車両としての快適性をも実現した高性能量販車用ブレーキをすでに欧州自動車メーカーに供給している。

今回の注目製品は、高性能スポーツカーをターゲットに新開発した小型軽量10ポットブレーキキャリパーや高性能量販車用に開発した8ポット、4ポットのオボーズドタイプブレーキキャリパー。akebonoブースで注目を集めること請け合いです。

### 電動化、地球環境保全に対応した新技術に注目



革新的技術のMR流体ブレーキを公開すると同時にこの技術を体感できる



新開発オボーズドタイプの電動パーキングブレーキ（プロトタイプ）

自動運転への対応と、摩擦粉やノイズを出さないといった地球環境への配慮の実現のため、akebonoはMR流体(Magneto Rheological Fluid)を用いた独自の技術により、摩擦によるブレーキと大きく異なる構造の画期的なブレーキを今回提案する。akebonoブースではこの新技術を体感できるコーナーを設けている。

このほか、新開発の高性能車両用オボーズドタイプ電動パーキングブレーキ、さらには植物資源(バイオマス)を活用した新開発ブレーキパッド用原材料「高機能バイオマスポリマー」を使用したブレーキパッドを展示。このパッドは高強度化とともに熱膨張や鳴き、異音抑制も実現している。

TOPIC

## 2

KEYWORD > 「YAMAHA FUTURE GAREGE 響き合う未来へ」

## 「広がるモビリティの世界」を提案します。

小型モビリティで、創造的な未来の扉を拓くYAMAHAが前回の東京モーターショーでも大評判だったMOTOBOTを進化させ出展する

「YAMAHA FUTURE GARAGE 響き合う未来へ」と題して刺激的な小型モビリティを出展するが、なかでも注目はワールドプレミア

となる「MOTOBOT Ver.2 (モトボッドバージョン2)だ。MOTOBOTは前回の東京モーターショーに出展された自律ライ

ディングロボットで今回はその進化版となるバージョン2を出展する。ベースマシンはMotoGPマシンYZR-M1の思想を受け継ぐロード

レーサー YZF-R1 M。6つのアクチュエーターを制御し、車両操作をより人間に近いものとする。高速でのサーキット走行を可能にした。バレンティノー・ロッシとのサーキットラップタイム勝負の結果が楽しみだ。

もう1台の注目は市販車となるXSR700 ABSだ。「Urban Casual Retro-ster」の開発コンセプトから生まれたオーセンティックな外観は懐かしくも新鮮なもの。カスタマイズへの期待も高まる。

そのほか斬新な4輪、2輪が、ギッシリ展示され目が離せない。

欧州で人気のXSR700が待望の日本導入。さまざまなカスタムパーツが用意されるはずだ



モトボッドは200km/hを可能にしたのか？ また、MotoGPライダー、バレンティノー・ロッシとの勝負の行方はいかに？

サーキット走行が可能な自律ライディングロボット MOTOBOT Ver.2

### 「Urban Casual Retro-ster」 XSR700 ABS



KEYWORD > 「Focus Your Life Style」

## 人に寄り添い、乗る人にやさしいクルマをカタチに。

お客様の声に真摯に耳を傾け、人に寄り添うクルマを提供してきたトヨタ車体。今回は人へのやさしさ溢れる4モデルを出品。

人に寄り添うクルマづくりで、お客様の生活と仕事をもっと豊かに…という願いのもと、1945年の創立以来、3000万台ものクルマをつくり、お客様にお届けしてきたトヨタ車体。今回の東京モーターショーでは、人々の生活や仕事、街や社会に向き合い、トヨタ車

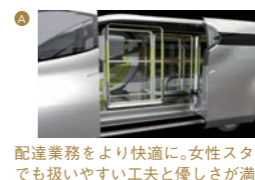
体が今まで培ってきた乗る人や働く人へのやさしい想いをカタチにした4つのコンセプトモデルを4台出展する。

お客様の生活と仕事に一番近いパートナーとして豊かな社会の実現を目指すトヨタ車体の想いを、ぜひブースで体感してほしい。

小型マルチバンLCVの魅力をも3つのスタイルで展示



①小型デリバリーバン「LCV D-CARGO CONCEPT」、②車いすアスリート向けの「LCV ATHLETIC TOURER CONCEPT」、③ビジネス専用ハイヤー「LCV BUSINESS LOUNGE CONCEPT」 LCV: Light Commercial Vehicle



配達業務をより快適に。女性スタッフでも扱いやすい工夫と優しさが満載!



車いすアスリートがひとりで楽に積み込み、乗り込んで快適に運転できる



シェアリングの機能性と利便性をギュッとつめこんだ超小型モビリティにも注目

ビジネスパーソンを最高のコンディションにいなう、ビジネス専用ハイヤー



「WONDER-CAPSULE CONCEPT」はシェアリングで初めて乗る人にも、安心と楽しさを提供

KEYWORD > 「FREEDOM MACHINE」

# 新たなハーレーダビッドソンとの生活が始まる。

本格的な装備を誇りながらも、最も気軽に乗れるハーレーダビッドソンが普通免許で乗れるトライクファミリー

TOPIC

## 1 大型自動二輪免許はいらぬ 普通免許で乗る ハーレーダビッドソン

ハーレーダビッドソンの名前を知っていても、実際乗るためには大型自動二輪免許が必要と思っている人が多い。しかしマニュアル普通免許で乗れるハーレーダビッドソンがあることを今回の東京モーターショーで紹介したい。それがトライクといわれるハーレーダビッドソン。写真のようにタイヤ

は3つ。停車中や低速でも自立するため初めてハーレーダビッドソンに触れるという人でも安心できる。現在ハーレーダビッドソンのトライクファミリーは、フリーウィーラーとトライグライドウルトラの2台。いずれもハーレーダビッドソンらしさを味わえるトライクといえる。



ワイルドなホットロッドスタイルを持つフリーウィーラー。風を感じて走るにはうってつけの1台



ラグジュアリーな乗り心地とフルドレスならでは華やかなスタイルを持つトライグライドウルトラ

※日本仕様は本画像とは異なるシングルフロントライトとなります

## 2 ハーレーダビッドソン、 それは自己を解放する マシン

TOPIC

2

ハーレーダビッドソンのエンジンは、どのモデルもV型2気筒のエンジン。そこから発せられる独特の鼓動感とサウンドはまさにハーレーダビッドソンならではの味わい。一度乗れば誰もが魅了されるはず。そしてハーレーダビッドソンと旅に出れば、今まで感じることのできなかった特別な自由が味わえるはず。



力強く押し出すような鼓動感と、独特なサウンドはハーレーダビッドソンの魅力。ぜひ一度乗って感じてほしい



STREET ROD®

750ccモデルも揃いラインアップはバラエティに富んでいる

Webで  
オンラインアップを  
チェックしよう



現在日本に輸入されているハーレーダビッドソンは33車種。より詳しい情報や試乗できるディーラーを知りたい場合はハーレーダビッドソンのサイトを訪ねてみよう  
www.harley-davidson.co.jp

KEYWORD > 「Mobility for Tomorrow」

# いま 現在と未来を創る「3つの技術」がテーマ。

今年、日本法人創業30年のシェフラー。エンジン、トランスミッションから電動パワートレインまで、シェフラーの現在と未来がわかる。

自動車、産業機械など世界中で、60を超える分野で、高精度部品およびシステムの開発と製造を行うシェフラー。INA、FAG、LuKという3つのブランドでも知られるシェフラーの、「自動車用最新技術の現在と未来」を多彩な展示品とともに伝えるのがブースの見どころ。展示は、3つの柱で構成されている。

1つ目は「エンジン、トランスミッションなどの進化とそれらを支える技術」の紹介。例えば、ジャガーのエンジンAJ200に採用されるUni Airというエンジン可変動弁システムがわかるカットモデルなどを展示してある。

2つ目は「メカトロニックシステム」を中心とした展示。電動バルブタイミング可変システムや電制スタビライザーシステムなど、進化著しい電動化技術を実感できる。これらをショーケース内に展示。

タッチパネルに触れると説明が画面に表示され、わかりやすい。

3つ目は量産化に向け、積極的に開発を進める「電動パワートレイン」。電動アクスル、ハイブリッドモジュール、インホイールモーター

を紹介するとともに、シェフラーアウディスポーツのフォーミュラEのマシンを展示。モーター、インバーターが勝敗のカギを握る世界、マシンに搭載されたシェフラーの技術力を直に感じられる。

一般公開日よりABTシェフラーアウディスポーツのフォーミュラEのマシンも展示!



3年目の今年、初のチャンピオンを獲得。10月28日にはドライバーのルーカス・ディ・グラーシがブース内に登場

KEYWORD > 「世界をなめらかにする仕事。」

# 「なめらかな社会」の実現へ、NTNの最新技術を体感!

内燃機関からEVまで、「走る」「曲がる」「止まる」の操作と制御を支えるNTN商品が見どころだ

NTNは、トライボロジー技術で世の中のあらゆる回転部位を「なめらか」に続けて100年。今回は世界シェアナンバー1のハブベアリングやナンバー2のドライブシャフト、EV化に対応するモジュール商品などを幅広く紹介します。

ほかにも、当社の自動車商品を

集結したスケルトンモデルの展示やドライブシャフトの進化を体感できるドライブシミュレータ、ベアリングの組み立て体験ができるブースなど、NTNの「なめらか」技術を体験いただけるコーナーをご用意しています。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

ドライブシミュレータなどの体感コーナーを通してNTNの最新技術に触れることができる



東京モーターショーのブースではNTNの商品をわかりやすく紹介。「なめらか技術」を実感できる体験コーナーなどもある



KEYWORD > 「Invented for life」

# 体験してわかる、未来のカーライフ

近未来のクルマの姿とされる「コネクテッドカー」。それにより実際のカーライフがどう変わるのかを、ボッシュブースで体験してみよう

TOPIC

## 1 クルマはもっと便利に。未来のカーライフ体験



ボッシュブース一番の注目は、コネクテッド関連サービス「Bosch Automotive Cloud Suite」のデモンストレーションだ。実際にクルマに乗り込み、コンサート会場に向かうというストーリーのなかで、未来の「繋がるクルマ」が叶えるカーライフを体験できる。

す通知を発行する「Predictive Diagnostics (故障予測サービス)」。車両のECUソフトウェアを無線でアップデートする「Firmware over the Air (FOTA)」。近い将来、ユーザーはそれらのサービスを、クルマにいながらして享受できるようになる。言葉だけが先行しがちなコネクテッドカー。その真の利点を理解する絶好の機会だ。

普段の走行データをもとに車両の故障予測を行い、部品交換を促



Predictive Diagnostics、FOTAといった機能のほか、スマートフォン上の電子鍵をもとに車両を解錠できる「Perfectly Keyless」といった機能なども、モーターショー会場で体験できる

TOPIC

## 2

### 日本参入、ボッシュの電動アシスト自転車用ユニット

東日本大震災の折、有用な移動手段のひとつとして認識され、以降、順調にマーケットが拡大する電動アシスト自転車。その日本の電動アシスト自転車市場に、ボッシュが今年、参入する。

ボッシュが今回日本に導入するのは、プレミアムセグメント向け電動アシスト自転車用ユニット「Bosch eBike Systems」の最新シリーズ「Active Line Plus」。3軸センサー搭載で、最適なスピードおよびアシスト量を実現するDrive

Unit (モーター)をはじめ、バッテリー、チャージャー (充電器)、走行データが表示されるディスプレイで構成されている。ぜひブースで確認してほしい。



写真中央のディスプレイは、速度、距離、乗っている時間、距離残数を表示する



1秒間に1000個もの動きを測定して、快適なライディングを実現するDrive Unit。容量300Whのバッテリーは、専用充電器により約2.5時間で充電が完了する

KEYWORD > 「Feel the Passion, Feel the Future, Feel with KYB」

# 情熱が生んだ、独創の技術

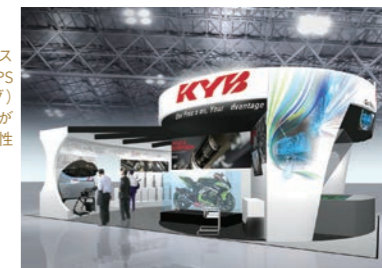
振動制御／パワー制御をコア技術とした、KYBの80年を超える歴史から最新技術までを体験しよう。

総合油圧機器メーカーであるKYB。今年のブースは「情熱」「未来」「暮らしの中でのKYB」という、3つのテーマに分けて独自の技術を紹介。過去から最先端までの四輪／二輪製品や、モータースポーツ

関連製品はもちろん、日本障害者スキー連盟アルペンスキーナショナルチームの公式サプライヤとなっているチェアスキー用品などを、幅広いラインアップを展示している。

### 情熱 (Passion)

力を入れているモータースポーツ関連製品を展示。EPS (電動パワーステアリング) 体感機では、スポーツEPSが作動することによる操作性の違いを体感できる



### 暮らしの中でのKYB (with KYB)

KYB製品の展示とキッズエリアを設置。お子様にもわかりやすい体感ゲームも楽しむことができる。あなたの生活の身近に、どれだけKYBがあるのか知ってもらいたい



### 未来 (Future)

KYBの「伝統」～「最先端技術」までを、実物とホログラムを駆使した仮想映像のコラレーションにより知ることができる

KEYWORD > 「より快適、便利に！あなたに、社会に、大きなメリット」

# 進化するVICS 3メディア」を体感・実感

カーナビを通した安全&快適なドライブ。ユーザーは喜び、社会的効果も高いVICS WIDEの体験。3メディアの進化も分かる。

VICSセンターでは、安全・安心で快適な運転サポートのために渋滞などの道路交通情報を現在3つのメディアでカーナビに提供していることをご存じだろうか。①FM多重放送('15年4月から新サービス

VICS WIDEを開始)、②光ビーコン (赤信号減速支援などの信号情報活用運転支援システムが'16年から加わった)、③電波ビーコン (ETC2.0のサービス) という進化する3メディアだが、中でも今回

一番伝えたいのが「VICS WIDE」のユーザーのメリットと、社会的効果の部分。

現在出荷されているVICS対応カーナビの約8割がVICS WIDE対応になっており、最新情報を捉え

て渋滞を回避。快適ドライブをユーザーに提供する。また非常時も安全・安心。例えば、50mm/h以上の大雨エリアをナビ上に表示。これらのリアル情報をVRで体験できる。



ブース内では渋滞回避や大雨エリア表示など最新VICSのサービスを映像、VRで体感。最新のカーナビも展示



女性が付けているのがVRスコープで、実際に運転する状況を360°見渡しながら進化する3メディアの便利さをリアルな動画の中で体感。3分30秒という時間もちょうどいい



### VRスコープで「進化するVICS」の便利さをリアルに味わえる！

VRの内容は横浜からスカイツリーまで、一般道と高速を走行する設定。進化する3メディアのサービス、特にVICS WIDEによる「最新渋滞情報を反映したルート探索」や「大雨エリアの表示」などを体感

会場でしか手に入らない

# 東京モーターショー2017 オフィシャルグッズ

東京モーターショーでは1993年より継続して会場内にオフィシャルグッズ売場を設置。2017年も、東1、7ホールと西アトリウムに設置されたオフィシャルグッズショップにて「BEYOND THE MOTOR」をデザインテーマとした素敵なグッズを購入できる。



楽しく遊べる東京モーターショー2017  
ロゴ入りのヨーヨー (税込み ¥1,200)



東京モーターショー  
公式ロゴを形どった  
ピンズバッジ (税込み ¥500)

世界中で大ブレイク中のおもちゃ「ローリングスピナー」。こちらもロゴ入り (税込み ¥1,900)



シンプルなデザインが  
美しいロゴ入りキャップ。  
フリーサイズ  
(税込み ¥3,500)



ロゴ入りオリジナルT  
シャツは13パターンと豊  
富に用意。こちらは黒地  
に白 (税込み ¥3,000)  
こちらはグレー系Tシャ  
ツのセンター部分に、黒  
地に白抜きロゴが (税込  
み ¥3,000)



「BEYOND THE MOTOR TMS」  
を大胆に押し  
つけた今治製マ  
フラータオル (税  
込み ¥2,300)



「チェッカー  
フラッグ」にも  
「市松模様」  
にも見えるお  
しゃれなオリ  
ジナル扇子  
(税込み  
¥1,500)



「TMS」のロゴがさり気なく彫り  
込まれているタイヤイメージのシリ  
コンリストバンド (税込み ¥1,000)



レザーの落ち着いた質  
感が好印象なオリジ  
ナルキーリング (税込み  
¥1,500)

こちらは一目シンプルだ  
が、よく見るとクルマ型の  
パーツが動く凝った造形と  
なるロゴ入りオリジナル  
キーホルダー (税込み ¥800)



クルマのルーフに相当する部分が  
開閉するかわいいキーホルダー  
(税込み ¥1,300)



シックなデザインで高級感漂うカーボンスタイル  
ロングウォレット (税込み ¥15,500)



上質感たっぷりのデザインが  
シブいカーボンスタイルのID  
ケース&ネックストラップ (税  
込み ¥8,800)



こちらの2つ折  
りサイズは黒地  
に白というス  
ポーティなデザ  
インウルトラ  
スエード®生地 (税  
込み ¥6,500)

## 東京モーターショー開催記念モデルも登場 行ってみよう、トミカコーナー

子供から大人まで楽しめるスペースとして大人気の「トミカコーナー」は今回も西ホール4階に登場。毎回好評の東京モーターショー開催記念トミカは、マツダロードスターやホンダNSX、いすゞエルフ車両運搬車などの計12種類を各700円(税込み)で販売。また86/BRZ Raceで活躍するレー

シングカー2台がTMS先行発売として登場し、その他キャラクターのトミカなどの販売も行われます(※会場では、いずれもなくなり次第販売終了)。



©TOMY 「トミカ」は株式会社タカラトミーの登録商標です。

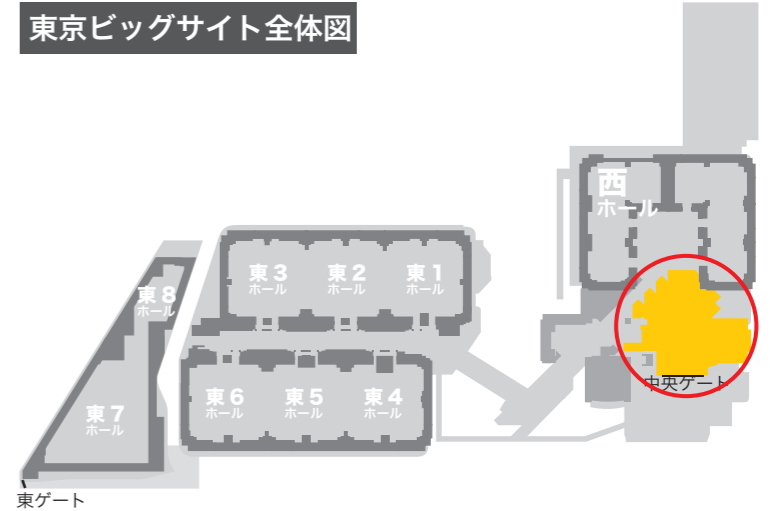
現代のモーターショーの多彩なテーマを取り上げる

# 東京モーターショーシンポジウム2017

自動車業界からの情報発信の一環として、第37回ショー(2003年)より実施している「東京モーターショーシンポジウム」を今回も開催します。社会的に関心の高いテーマを中心に、クルマを取り巻く多彩なテーマを取り上げます。会期(一般公開日(9日間))中、以下の計8本のシンポジウムを東京ビッグサイト会議棟(6階)にて実施予定です。参加は無料です。



## 東京ビッグサイト全体図



## 開催概要

日時	実施者	テーマ	会場
10月28日(土) 当日受付	自動車旅行推進機構	2020年クルマのたび	605-606 会議室
10月29日(日) 事前登録優先制	読売新聞社	未来貢献プロジェクト 「次世代クルマ社会に向けて」	605-608 会議室
10月31日(火) 事前登録優先制	一般社団法人 日本流行色協会	オートカラーアワード in 東京モーターショー2017	605-606 会議室
11月1日(水) 事前登録優先制	一般社団法人 セキュアIoT プラットフォーム協議会	安心・安全につながる車社会の実現を目指して ～コネクテッドカーのセキュリティを考える～	605-606 会議室
11月2日(木) 事前登録優先制	一般社団法人 日本自動車工業会 電子情報委員会	JAMAデジタルエンジニアリングセミナー	607 会議室
11月2日(木) 事前登録制	国土交通省	高齢運転者による交通事故防止対策について ～自動車の安全性向上に向けた取組み～	605-606 会議室
11月3日(金・祝) 事前登録優先制	SIP-adus	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動走行システム 市民ダイアログ	605-608 会議室
11月4日(土) 事前登録優先制	一般社団法人 電気自動車普及協会	近未来の展望(-2050年)・EVが創る社会と デザインの役割	605-608 会議室

※上記は予定のため変更になる場合があります。

# 計4台の“闘うマシン”を展示。コックピットにも座れます！ 乗ってみる？ 全日本 学生フォーミュラ大会参戦車両



西3ホールの公益社団法人自動車技術会ブースでは、今年9月5日から9日にかけて開催された「第15回 全日本 学生フォーミュラ大会」で優秀な成績を収めた4台のフォーミュラマシンが展示される。全日本 学生フォーミュラ大会というのは、「自動車技術ならびに産業の発展・振興に資する人材の育成」を主眼に公益社団法人自動車技術会が14年前から主催しているイベント。各大学・高専等のチームが約1年がかりで企画・設計・製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーを持ち寄り開催されている。

大会では車検／コストと製造／デザイン／プレゼンテーションといった「静的イベント」のほか、アクセラレーション(加速)／スキッドパッド(旋回性能)／オートクロス(スラローム走行など)／エンデュランス(約20kmの周回路走行)などの「動的イベント」を5日間にわたって実施。その結果を受け、最終的には車両の性能やタイムだけでなく、予算管理や安全性の徹底、そして適切なマーケティングなどを含む「ものづくりの総合力」が問われる形の内容となっている。自動車技術会 広報課によれば、学生フォーミュラの世界ランキン

グでは現在、欧州の大学チームの獲得ポイントが頭一つ抜けているとのこと。しかし日本の各チームも「人材の育成」を主たる目的としているにもかかわらずかなりの好成績を収めており、欧州には及ばないまでも、間違いなく世界トップクラスの位置を占めているという。今回展示されるのは、今年9月に静岡県のエコパ(小笠山総合運動公園)で開催された第15回大会のICVクラス(710cc以下の4サイクルエンジンを搭載するクラス)で1位から3位に入った各校のマシンと、EVクラス1位(総合4位)

となったチームのマシン。各チームからは説明員の学生もブースに派遣されるので、説明員と相談のうえであれば、各フォーミュラマシンのコックピットに座ってみることも可能。直線区間での最高速度は100km/hを超えるという想像以上に本格的な「学生フォーミュラ」の魅力と迫力を、ぜひその目で確かめていただきたい。ちなみに表示されるすべての学生フォーミュラマシンのコックピットには成人の方も座っていただくことができるが、マシンサイズ的にはお子様のほうが比較的にスムーズに座れるはずだ。



写真は前回、東京モーターショー2015の同ブース。



今年9月の第15回大会には全93チームがエントリー。



速さだけでなくコストや安全性なども審査対象に。

## 「未来のカーデザイナー」を目指す中高生たちの斬新なアイデアが満載 第5回カーデザインコンテスト優秀作品も展示

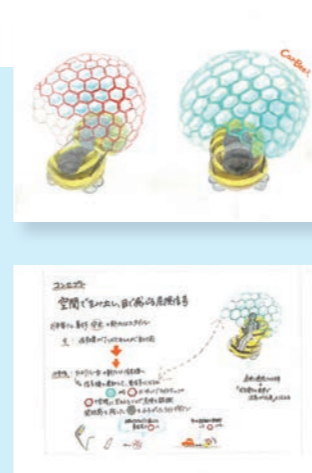
同ブースでは期間中、自動車技術会が中高生を対象に開催している「カーデザインコンテスト」の優秀作品も展示される。今回展示されるのは、第5回コンテストのカーデザイン大賞・カーデザイン賞・審査員特別賞受賞作、そしてユニークな着想の作品に贈られるダビンチ賞受賞作の計5作。いずれも中高生はなれた描画力と、そして中高生らしい自由な発想が魅力の力作ぞろい。ぜひそれら作品のクオリティとアイデアを確認していただき、そして「我こそは!」と感じた中高生諸君は、2017年11月1日～2018年1月20日までが応募期間となる「第6回カーデザインコンテスト」に挑戦を。



第5回カーデザイン大賞(最優秀賞)受賞作「bonds」。受賞者はなんと中学3年生!



カーデザイン賞(中学生の部)に輝いた「Wear」。“車を着る感覚”というのが斬新。



こちらはダビンチ賞(高校生の部)の「Car Bee」。事故撲滅のアイデアが盛りたくさん。

Toward & Beyond 2020

## 「オリンピック・パラリンピック等経済界協議会」

「オリンピック・パラリンピック等経済界協議会」といきなり言っても、多くの人はその存在自体をご存じないかもしれない。この団体は、日本中の企業が会社の垣根を越えた“オールジャパン体制”で一丸となり、2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックの支援と、その後に残るレガシー(遺産)形成を通じて、次の豊かな日本社会への寄与を目指すというもの。同時に東日本大震災ならびに熊本地震からの復興支援も、その活動目的の一つとしている。

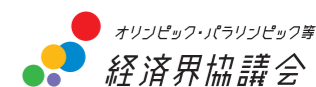
アプローチはハードレガシー(技

術関係)とソフトレガシー(文化関係)に分かれ、自動車業界が主に関与しているのは前者のハードレガシー。「安全・安心」と「環境」「ユニバーサル社会」「スポーツ・エンターテインメント」「元気な魅力ある地方」という5つのテーマのもと、2020年およびその後の社会をより良きものにすべく、さまざまな技術開発や関係省庁との折衝などを行っているのだ。

右下のイラストは、経済界協議会が考える「2020年の実現イメージ」。現時点から見ると本当に実現可能なのか?とも思うわけだが、

こういった技術そのものは、実はすでにほぼ出来上がっている。あとはそれをどう現実の社会や法律制度のなかに取り込んでいくか……という段階に達しているのだ。

そんなオリンピック・パラリンピック等経済界協議会は西展示棟4Fの西3ホールにブースを出展する。コンテンツのメインは「東北・九州復興サポートゾーン」。こちらは2020年東京オリンピック・パラリンピックの重要テーマである「復興」をキーワードに、東北および九州の優良企業の先端技術を展示するというもの。またこのゾーン



ではオリンピック・パラリンピックのグッズ販売も行われる。

もう一つのコンテンツは、12月25日(月)と26日(火)に大手町の三井住友銀行東館で開催される「カウンタウンショーケース」のPRゾーン。このショーケースは、2020年に向けた先端技術が現時点でどこまで達成されているのか?ということを紹介するもの。ぜひご注目いただきたい。



「カウンタウンショーケース」展示イメージ。体験型企画も多数用意される

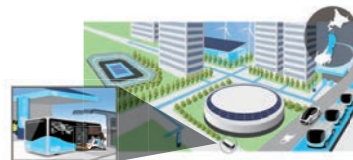
### 「2020年の世の中」はこうなっている!?



空港では顔認証システムでスムーズに入国。荷物はロボットが運んでくれる

### 「東北・九州復興サポートゾーン」の主な展示予定

会社名	県名	出展予定製品
日本ケミコン株式会社	宮城	キャパシタモジュール
ヤグチ電子工業株式会社		CO2センサー
株式会社コイワイ		3D積層砂型積物
株式会社堀尾製作所		高強度亜鉛合金(HZDC-500)部品
株式会社浄法寺漆産業	岩手	漆塗ステアリング
株式会社加藤藤子製作所	福島	アルミ製螺子
株式会社ニッセイ		アルミ鍛造品
会津UV漆グループ		会津UV漆製品
福岡県	福岡	
熊本県	熊本	
大分県	大分	



自動車やバスは燃料電池で走り、専用レーンでは自動運転の輸送トラックが隊列を組み走行中



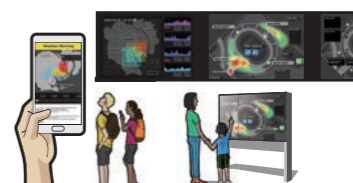
スポーツ観戦はいつでもどこにいても、現場と変わらない臨場感で体験することができる



地方でもICT化と水素社会が進行。食事の情報もスマホをかざすだけで知ることが可能



観光地では多言語を操る案内ロボが活躍。高齢者も電動アシストスーツで元気に歩く



東京の街はエネルギー管理が行き届き、サイバー攻撃すらも事前に感知できる



セキュリティ・バリアフリーも十分に整備。EVも非接触で走行中に充電が可能

# 試乗体験プログラム

場所と内容、受付方法を一新して実施。  
“見て乗って楽しめるコンテンツ”が多数!

今回の試乗体験プログラムは、センタープロムナードとお台場特設会場、MEGA WEBの3会場を実施。内容も大幅に拡大し、クルマ・バイクの楽しさとテクノロジーを体験できる“見て乗って楽しめるコンテンツ”を多数ご用意しました。また受付方法も一新し、東京モーターショー公式アプリまたは各会場に設置する専用予約端末による「当日事前予約制」を採用。当日2時間先までの試乗枠を先着順で予約することが可能です。

## 【試乗体験プログラム参加方法】

- ①東京モーターショー2017チケットを持っている方が試乗体験できます。
- ②東京モーターショー公式アプリによる試乗予約が必要です。アプリを立ち上げ、スマホのBluetoothをオンにし、東京モーターショー会場内にチェックインした方だけが試乗予約できます。

※チェックインは各会場の「チェックインエリア」で可能です。  
※スマホをお持ちでない方は、「チェックインエリア」に設置の専用予約端末から試乗予約が可能です。

## センタープロムナード

≪10月28日(土)~11月1日(水)≫  
10:00~17:00(プログラム開始10:45)

東京ビッグサイトから出発する無料シャトルバスまたは次世代タクシーに乗り、ヴィーナスフォートやメガウェブがある南西方向へ進んだ場所にあるのが、合計3箇所ある試乗会場の一つ「センタープロムナード」。こちらでは10月28日(土)~11月1日(水)の5日間、近い未来実現される“新しい移動手段”を体験してもらうことを目的に、センタープロムナード内に設けられたコースでパーソナルモビリティの試乗会が行われる。試乗時間は期間を通じて10時~17時で、プログラム開始は10時45分。



## お台場特設会場

≪10月31日(火)~11月1日(水)≫  
10:00~17:00(プログラム開始10:45)

センタープロムナードのすぐ隣にあるのが「お台場特設会場」。こちらでは10月31日(火)~11月1日(水)の2日間、会場内の特設コースや周辺の公道コースにて様々なプログラムを用意。



## MEGA WEB

≪11月1日(水)~11月5日(日)≫  
11:00~20:00(プログラム開始11:30)  
※11月5日(日)は18:00まで

センタープロムナードすぐ隣の「MEGA WEB」では11月1日(水)~11月5日(日)の5日間、MEGA WEBの試乗コース「ライドダウン」にて各種乗用車・二輪車の試乗会が実施される。



## ▶ 試乗体験プログラム参加方法

3会場で行われる試乗体験プログラムの当日事前予約を済ませる方法は非常にカンタン。スマートフォンをお持ちの人は、まず最初に第45回東京モーターショー2017の公式アプリをダウンロードしておこう。そのうえで「試乗体験」のアイコンをタップして進めば、2時間先までの試乗枠を先着順で予約することができる。会場へのチェックイン認証が必要

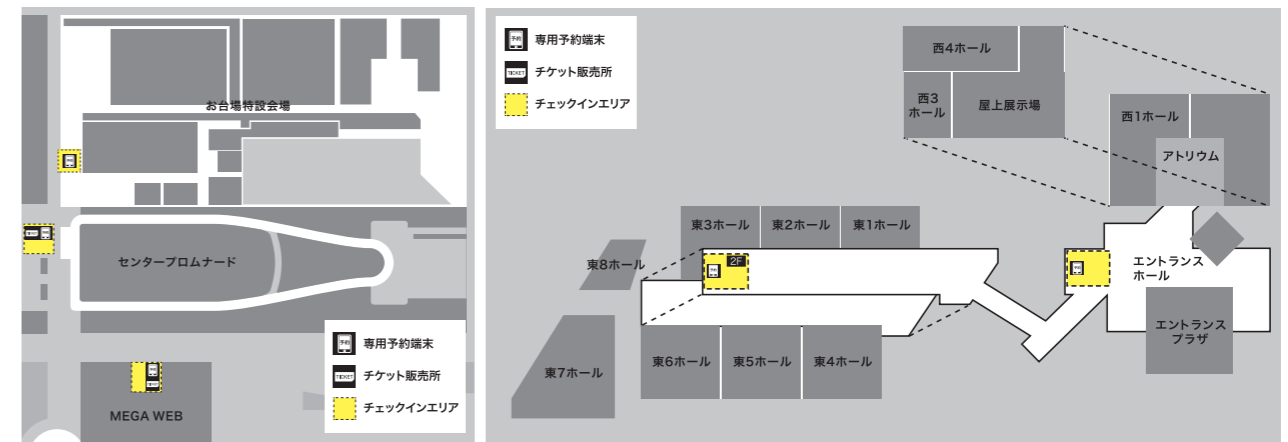
となるが、これも東京ビッグサイト会場内またはセンタープロムナード/お台場特設会場/MEGA WEBの各会場のチェックインエリアにてカンタンに行うことが可能。「スマートフォンは持ってない!」という人も心配はご無用。その場合は各会場内に用意されている専用予約端末にて、スマホ同様の簡単操作で当日事前予約を行うことができる。

- 1 東京モーターショー公式アプリをダウンロードする。
- 2 TMS2017会場のチェックインエリアにてBluetoothをオンにし、チェックインする。
- 3 ご自分の携帯のアプリか、会場の専用予約端末にて予約完了させる。
- 4 試乗予約完了QRコードと、TMS2017チケットを持って試乗受付をする。

○閲覧時刻から2時間先までの試乗予約が可能です。○既に予約をされている方は、試乗体験が終わるまで、次の予約は出来ません。○開始時間の10分前までに各プログラム受付にお越しください。予約は自動的にキャンセルとなります。時間に余裕をもってお越しください。○プログラムによって、試乗条件が異なります。詳しくは試乗予約の際に、ご確認をお願いします。○未成年の試乗体験については、保護者の同意書が必要となります。

## ▶ チケット販売所およびチェックインエリア

試乗体験プログラム会場でのTMS2017のチケット販売所と、試乗体験プログラム専用予約端末の設置場所は下図のとおり。ただし下図で示されている場所の一部は「予約端末のみでチケット販売所はなし」となるケースもあるので、TMS2017のチケットはあらかじめ購入しておくのが一番スムーズ。



## 試乗体験プログラムシャトルバス/試乗体験プログラム次世代タクシー

東京ビッグサイトから試乗体験プログラムが開催される臨海副都心エリアまでは、「試乗体験プログラムシャトルバス」または「試乗体験プログラム次世代タクシー」で移動することができます。シャトルバスは「東京ビッグサイト 中央ターミナル」「ヴィーナスフォート」「東京テレポート駅前ロータリー」の3カ所に設けた停留所を1周約25分で巡回します。※停留所でのみ乗り降りが可能です。



「次世代タクシー」として用意されるのは日産NV200タクシーとセレナ、トヨタ次世代タクシー(JPN TAXI)。従来型のタクシーとはひと味もふた味も違うそのデザインと機能をお確かめください。

## ▶ 試乗体験プログラムシャトルバス運行スケジュール

### ■東京テレポート駅前ロータリー

時刻	10月28日(土) 10月29日(日) 10月30日(月)	10月31日(火)	11月1日(水)	11月2日(木) 11月3日(金) 11月4日(土)	11月5日(日)
10		08 23 38 53	08 23 38 53	23 48	23 48
11	08 33 58	08 23 38 53	08 23 38 53	23 48	23 48
12	23 48	08 23 38 53	08 23 38 53	13 38	13 38
13	13 38	08 23 38 53	08 23 38 53	03 28 53	03 28 53
14	03 28 53	08 23 38 53	08 23 38 53	18 43	18 43
15	18 43	08 23 38 53	08 23 38 53	08 33 58	08 33 58
16	08 33 58	08 23 38	08 23 38 53	23 48	23 48
17	23 48	03 28 53	08 23 38 53	13 38	13 38
18		18 43	08 23 38 53	03 28 53	
19		18 43	08 23 38 53	18 43	

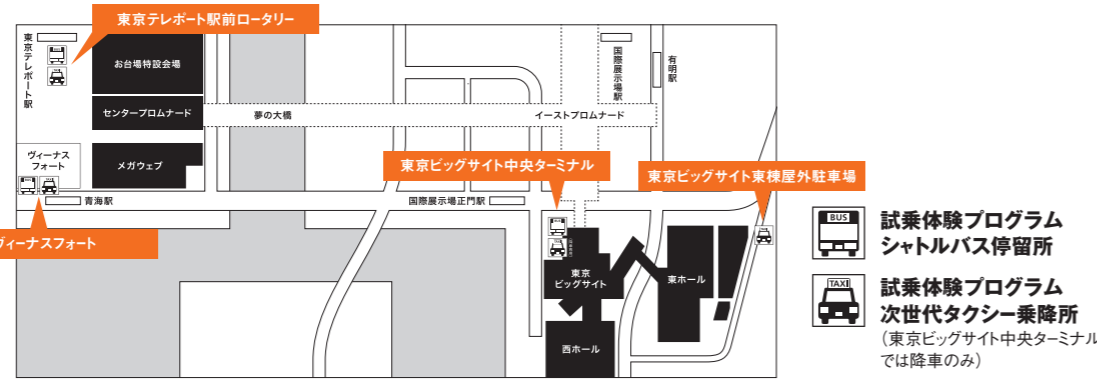
### ■ヴィーナスフォート

時刻	10月28日(土) 10月29日(日) 10月30日(月)	10月31日(火)	11月1日(水)	11月2日(木) 11月3日(金) 11月4日(土)	11月5日(日)
10		14 29 44 59	14 29 44 59	04 29 54	04 29 54
11	04 29 54	14 29 44 59	14 29 44 59	19 44	19 44
12	19 44	14 29 44 59	14 29 44 59	14 39	14 39
13	09 34 59	14 29 44 59	14 29 44 59	09 34 59	09 34 59
14	24 49	14 29 44 59	14 29 44 59	24 49	24 49
15	14 39	14 29 44 59	14 29 44 59	14 39	14 39
16	04 29 54	14 29 44	14 29 44 59	04 29 54	04 29 54
17			14 29 44 59	19 44	19 44
18			14 29 44 59	09 34 59	
19			14 29 44	24 49	

### ■東京ビッグサイト中央ターミナル

時刻	10月28日(土) 10月29日(日) 10月30日(月)	10月31日(火)	11月1日(水)	11月2日(木) 11月3日(金) 11月4日(土)	11月5日(日)
10	00 25 50	00 15 30 45	00 15 30 45		
11	15 40	00 15 30 45	00 15 30 45	15 40	15 40
12	05 30 55	00 15 30 45	00 15 30 45	05 30 55	05 30 55
13	20 45	00 15 30 45	00 15 30 45	20 45	20 45
14	10 35	00 15 30 45	00 15 30 45	10 35	10 35
15	00 25 50	00 15 30 45	00 15 30 45	00 25 50	00 25 50
16	15 40	00 15 30	00 15 30 45	15 40	15 40
17			00 15 30 45	05 30 55	05 30
18			00 15 30 45	20 45	
19			00 15 30	10 35	

3つの試乗会場と試乗体験プログラムシャトルバス/試乗体験プログラム次世代タクシー停留所



試乗体験プログラムシャトルバス停留所  
試乗体験プログラム次世代タクシー乗降所(東京ビッグサイト中央ターミナルでは降車のみ)

## お台場特設会場

<10月31日(火)~11月1日(水)>

TEST  
RIDE &  
DRIVE

### 1 超小型モビリティ試乗体験 (特設コース)

「特設コース」では、TOYOTA i-ROADとNissan New Mobility Conceptという2種類の超小型都市型モビリティを用意。TOYOTA i-ROADはクルマとバイクのポテンシャルを

併せ持った全幅870mmの都市型モビリティ。Nissan New Mobility Conceptは、高齢者や単身者世帯の増加といった社会背景に着目したまったく新しいコンセプトの車両。



### 2 超小型モビリティ試乗体験 (公道コース)

超小型モビリティ試乗体験の「公道コース」では、上記TOYOTA i-ROADを実際の一般公道にて試乗できる。混雑している都市部の道でも車線を占有せず走行でき、ハンドル操作

に合わせて左右の前輪が上下に動くことでコーナリングに最適な傾きになるi-ROADの爽快な走りを実際に体験してみよう。



### 3 次世代技術体験

「次世代技術体験」コーナーでは、国内各社の最新モデルに採用されている衝突回避支援システムや誤発進抑制機能など、さまざまな次世代技術を体験できる。試乗車両はスズキスイフト、

スバルレヴォーグ、ダイハツムーヴキャンパス、トヨタアクア、ホンダフィット、マツダCX-3、三菱アウトランダー PHEV、日野プロフィアなどの予定。



### 4 次世代技術体験 (プロパイロットパーキング)

こちらのコーナーでは新型日産リーフに採用された国産車初の本格的自動駐車機能「プロパイロット パーキング」の実力を体験してみることができる。駐車時にステアリングとアクセル、

ブレーキ、シフトチェンジ、パーキングブレーキのすべての操作を自動で制御しながら安全に車庫入れや縦列駐車ができるといった注目の機能を、ぜひご自身の目で確かめください。



### 5 次世代技術体験 (踏み間違い時サポートブレーキ)

トヨタ プリウスなどに搭載されている踏み間違い時サポートブレーキ (巻き込み警報機能付き)「インテリジェントクリアランスソナー」の機能を実際に試すことができるコーナー。目

の前の壁との衝突を避けることを最優先に、8つのソナーが前後方向の障害物を感知し、ドライバーがアクセルを踏んでもブレーキを自動でかけてくれる安全装備の威力をご体験あれ。



### 6 エクストリーム同乗試乗体験

プロドライバーが運転するトヨタ 86 GR (プロトタイプ) や日産GT-R NISMO、ホンダ NSXやS660などのさまざまな最新スポーツモデルや、新井敏弘選手がドライブするスバル

WRX STI全日本ラリー参戦車などの助手席でエクストリーム走行を体験できるコーナー。人気DJである日本カー・オブ・ザ・イヤー選考委員のピストン西沢氏監修によるプログラム。



### 7 オフロード同乗試乗体験

三菱自動車ならではの4WDモデルを使ったオフロード同乗試乗コーナー。三菱アウトランダー PHEVでは30度の登坂を、そしてデリカD:5ではなんと45度の登坂を助手席でリアルに

体験することができる。トヨタではランクル、ランクルブラド、ハイラックスを予定。試乗時間は1枠30分の予定。



### 8 電動カート試乗体験

こちらではシニア世代のお出かけの供となる最新世代の電動カートに試乗可能。試乗カートはホンダ モンパルML200とスズキET4Dの2モデルを用意。ホンダ モンパルML200は、快

適な乗り心地と高い操縦安定性を実現したスタイリッシュな新型モデル。スズキET4Dは「傾斜お知らせ機能」や「音声案内」など、安心のための機能が充実している。



### 9 商用車公道同乗試乗体験

大型免許を持っていない人はなかなか体験する機会が少ない大型商用車。こちらではいすゞと三菱ふそう、UDトラックスで同乗、スウェーデンScania社製トラックの助手席での公道試乗、

及び同乗体験を提供。最新大型商用車の知られざる安全装備や快適性、想像以上にスムーズな加速などを体感することができます。お子様の同乗も可能ですが、年齢や身長に一部制限あり。



### 10 パーソナルモビリティ試乗体験

ホンダのユニークなパーソナルモビリティ「UNI-CUB β」を体験できるコーナー。UNI-CUB βは人と調和する新たなパーソナルモビリティで、体を傾けて体重移動するだけで、まるで

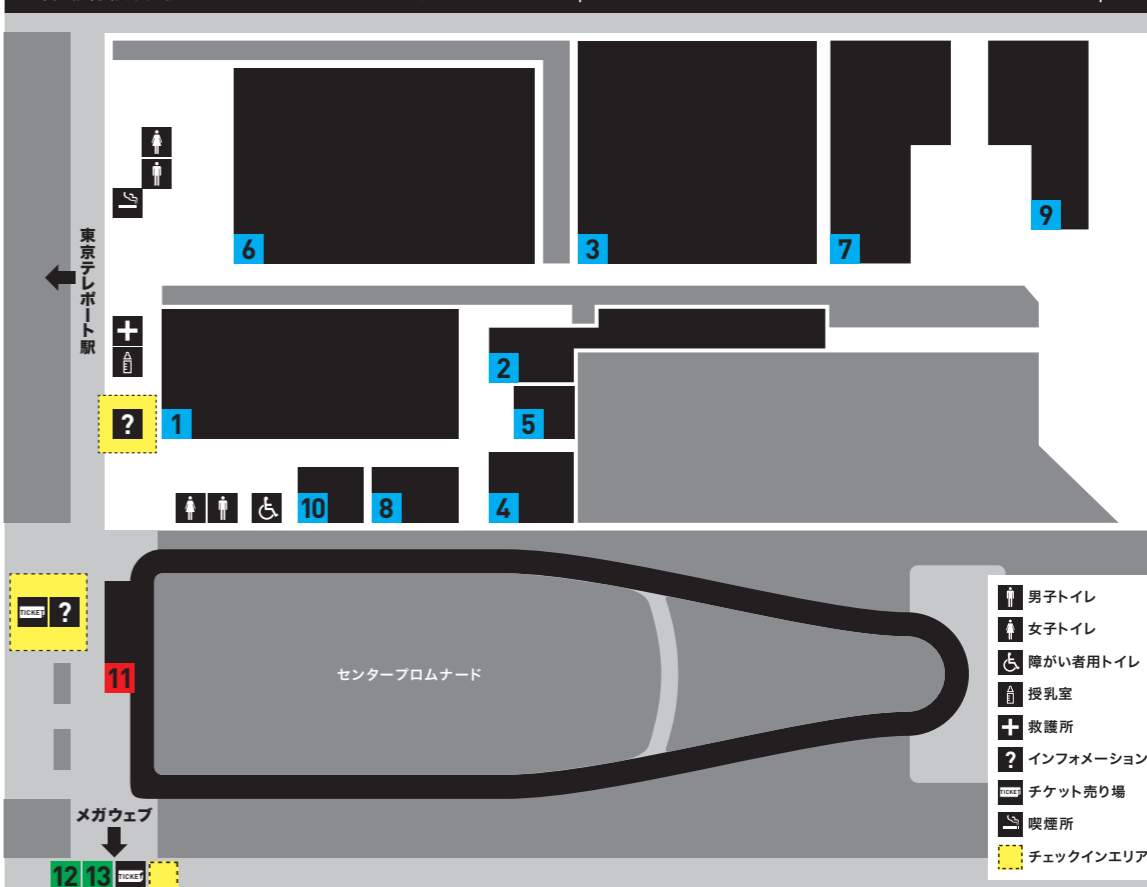
人の歩行のように自在な動きをすることが可能。また、両足の間に収まるコンパクトなサイズを実現させている点にも注目。試乗できるのは身長145cm以上、体重100kg以下の方のみ。

## > 3会場でTEST RIDE & DRIVE

最新の乗り物、そして未来の乗り物を体験してみよう!

試乗会場は  
こちら

お台場特設会場 / センタープロムナードマップ / Odaiba Special Event Venue and Center Promenade Map



- 男子トイレ
- 女子トイレ
- 障がい者用トイレ
- 授乳室
- 救護所
- インフォメーション
- チケット売り場
- 喫煙所
- チェックインエリア

## センタープロムナード

<10月28日(土)~11月1日(水)>

TEST  
DRIVE

### 11 パーソナルモビリティ試乗体験

センタープロムナードではトヨタ「Winglet (ウィングレット)」の試乗プログラムを用意。こちらは「動くことの楽しさと豊かさを、もっとたくさんの人に届けたい」というトヨタの願いから生まれたパーソナルモビリティで、子供からお年寄りまで自由に快適に移動を楽しめます。



## MEGA WEB

<11月1日(水)~11月5日(日)>

TEST  
RIDE &  
DRIVE

### 12 最新乗用車試乗体験

トヨタの展示ショールームであるMEGA WEBの試乗コース「RIDE ONE」で各社の「イチオシ」最新乗用車を試乗することができます。(※一部車両は同乗試乗体験となります) ◎参加ブランド: スズキ・スバル・ダイハツ・トヨタ・日産・ホンダ・マツダ・三菱・レクサス。



### 13 最新二輪車試乗体験

トヨタの展示ショールームであるMEGA WEBの試乗コース「RIDE ONE」で各社の「イチオシ」最新二輪車を試乗することができます。◎参加ブランド: カワサキ・スズキ・ホンダ・ヤマハ・MSソリューションズ。



# 働くくるま・珍しいくるま 大集合!!



これまで東京モーターショーに合わせて開催され、乗り物大好きなちびっこから大人までを大いに魅了してきた「働くくるま・珍しいくるま大集合!」が、今年も臨海ホールディングスグループの主催により実施される。

このイベントは、東京ビッグサイトから有明テニスの森までの南北方向を結ぶ広場「シンボルプロムナード公園 イーストプロムナード」にて、10月28日(土)と29日(日)の2日間のみ行われるもの。

「働くくるま」のコーナーでは自衛隊や警察、消防、首都高速、JAFな

どの、災害や事故・事件が発生した際にいち早く対応し、私たちの生活と安全を支えてくれている特殊車両が展示される。そして「珍しいくるま」コーナーでは、専門ショップが腕によりをかけて仕上げたオーディオカーや、水陸両用車などのマニアックな車両多数が展示される予定。

「働くくるま」コーナーの展示車両それぞれの近くには自衛隊や警察、消防などで実際に働いている隊員や署員たちが説明スタッフとして控えており、普段はなかなか身近で見ることがない「働くくるま」に関する詳細な説明を聞くことが

可能。また場合によっては車両の運転席に座ってみたり、白バイのシートにまたがってみたりという希少な体験もできる。実際、昨年同イベントでは陸上自衛隊の特殊車両や交通機動隊の白バイに乗り込み、パパやママと記念撮影をしているキッズを多数目にした。またキッズだけではなく大人たちも、真剣な眼差しあるいはにこやかに、例えば43度の登坂能力を誇る陸上自衛隊の「高機動車」や「軽装甲機動車」、あるいは「化学防護車」など、さらには警視庁が所有する「災害地大量排水システム車」などの細部や内部をチェックしていたものだ。

開催場所は前述の「シンボルプロムナード公園 イーストプロムナード」で、こちらはりんかい線・国際展示場駅またはゆりかもめ・有明駅から東京ビッグサイトへ向かう際には必ず通りかかる場所。10月28日(土)と29日(日)の2日間はお子様連れでもそうでなくても、ぜひ東京モーターショー会場へ入る前に、あるいは東京モーターショーをたっぷり堪能した帰り道に、イーストプロムナードに立ち寄りてほしい。場所はりんかい線・国際展示場駅から徒歩2分で、ゆりかもめ・有明駅または国際展示場正門駅からは徒歩3分。

東京モーターショー  
2017  
と  
最新のクルマ  
を知る

## おすすめの2冊

東京モーターショー2017のこと、あるいは次世代自動車のことをさらによく理解したい場合は、自分の目で会場の隅々まで見てみるだけ

でなく「本」の力も借りるのも得策。そんなときに役立つのがこちらだ。一つは東京モーターショー2017の公式ガイドブックで、もう一つが毎

回おなじみの日本自動車工業会(自工会)が出版している「自動車ガイドブック(2017-2018)」。会場内の販売スポットでぜひ入手を!

TMS2017のオフィシャルガイドブックとなるこちらは、国産乗用車から二輪車、商用車・車体、輸入車、部品・機械器具、インテリアの解説、あるいは主催者テーマ展示である「TOKYO CONNECTED LAB 2017」や主催者イベントの紹介はもちろん、気になるコンパニオンの「コスチューム・コレクション」や、東京ビッグサイト周辺のグルメやショップなどの「ゆりかもめ沿線案内」などの楽しい情報、さらには読者プレゼントまでを網羅したオフィシャルガイドブック。B4判オールカラーで全164ページ、価格は600円(税込み)。



国産車のカラー口絵とカタログ、詳細な資料などが網羅された、自動車工業会が刊行しているおなじみのガイドブック。今回の特集企画は「最新自動車技術2017 ~Development in Automotive Technology~」で、最新の自動車テクノロジーを安全(自動運転)・環境・快適の3カテゴリーに分類し、それぞれの最新動向を紹介している。また自工会会員各社のほかに部品メーカーも含め、その最新技術のみならず「日本の総合的な技術力の高さ・緻密さ」も詳しく紹介。資料価値の高い、ぜひとも入手したうえで長く保存しておきたい1冊と言える。

### 注目をあびた東京モーターショー2017関連イベント

#### FUTURE MOBILITY SUMMIT : TOKYO 2017

プレスデー前日の10月24日と、プレビューデーであった同27日の2日にわたり開催されたFuture Mobility Summit Tokyo 2017。24日のDay1ではアジア・ASEANにおけるモビリティの未来ビジョンについて、国際的



ファシリテーター多数を招いての活発な議論が。また27日のDay2は、2020年およびさらにその先を念頭に置いた国内モビリティビジネスの創造について、市場を代表する各社のプレゼンテーションが行われた。

#### car design forum TOKYO 17



10月24日には虎ノ門ヒルズにて「Car Design Forum Tokyo 2017」も前回に続き開催された。こちらはカーデザインの未来を語るカンファレンスで、前回はダイムラーやBMW、ルノー、FCAなどをはじめとする国内外

のデザインチーフを招致。今回のフォーラムでは欧州からランドローバーやアストンマーティンなど、アジアからは現代、タタ、GACのデザインチーフを招き、急成長市場にフォーカスした議論と交流がなされた。

# セゾン自動車火災保険

## 『つながるボタン』で自動車保険の新しい安心を提供!

クルマの進化と時代に合わせて自動車保険も大きく進化している。その最先端をいくのがセゾン自動車火災保険の「おとなの自動車保険」で、『つながるボタン』と『つながるアプリ』の連動サービス\*1により、自動車保険界に新風を吹き込んでいる。ここではその凄さ、魅力に迫る!

### 『つながるボタン』(ビーコン)とアプリが連動するサービスが7月に開始された!\*

#### 緊急時のボタン通報機能はとても安心!



緊急時は写真のようにボタンを押す!

万が一、クルマで事故を起こした場合、多くの人は程度の差はあれパニック状態に陥る。そんな状況下で冷静な行動をとるのは難しい。事故現場の正確な住所がわからない! 契約している保険会社に連絡しようにも保険証券が見つからない! などといった焦りがさらに不安を煽る。

セゾン自動車火災保険が2017年7月からサービスを開始した『つながるボタン』とアプリが連動する

サービスなら、契約情報や事故現場の位置情報が即座に連携されるので、名前や電話番号、事故現場を伝えなくてもOK。『つながるボタン』は事故を起こした時の特効薬だ。

このヘルプネットともいえるサービスは自動車メーカーが一部の高級ブランドでのみ展開中だが、『おとなの自動車保険』なら車種に関係なく希望者は無料という画期的かつ革新的サービスなのだ。

これを見逃す手はない!



『つながるボタン』は天地約53mm×左右約37mmで、センターコンソール、ナビ画面横、ハンドル横などに装着。専用アプリと連動することで、緊急時のヘルプ、通常時の運転診断など、非常に貴重な機能を持っているいわば“安心のボタン”だ



原寸大

#### 事故の際のつながるサービス利用の流れ

- 1 事故時にボタンを押す
- 2 アプリが立ち上がる
- 3 事故の場合は事故をタップ
- 4 アプリから契約・位置情報送信
- 5 事故受付担当と電話でつながる

#### もしもの時も安心\*

『つながるボタン』には事故の衝撃を感知する機能も付いていて、衝撃を感知すると『つながるアプリ』のプッシュ通知が届く。2回目のプッシュ通知に反応がない場合、事故受付担当者から契約者のスマートフォンに直接電話がかかってくるので、事故に遭って『つながるボタン』が押せない場合でも電話がつながる安心は大きい。さらに電話に出ない場合は、ALSOKがかけつけてくれるなど、万全のサポート体制を誇る。

#### ALSOK事故現場安心サポートも『つながるボタン』でよりスムーズ!

『おとなの自動車保険』には事故の際に事故受付センターに電話すれば、ALSOK隊員が現場にかけつける『ALSOK事故現場安心サポート』が受けられる、という特典があり警察や事故相手とのやりとりをサポートしてくれる。直接電話しなくても『つながるボタン』でスムーズに要請できる

### 『つながるボタン』は緊急時以外でも重宝する機能満載!

自分がどんな運転をしているのかを把握するのは難しいが、『つながるアプリ』には、日々のドライブのサポート機能も付いている。最大の特徴は運転診断で、アクセル、ブレーキ、ハンドル操作などの運転特

性をドライブスコアとして確認できる。また、危険挙動チェック、走行マップも表示可能。

加えて関心の高いエコドライブの判定機能も付いているのでゲーム感覚で運転を楽しめる。



運転診断、エコドライブ、危険挙動のチェック、走行マップを随時スマートフォンで見ることができるので、自分の運転の特性、癖などが把握できる

#### 詳しくはQRコードにアクセス



その日に運転した経路を表示するだけでなく、危険挙動が発生した場所を地図で確認することができる

#### > ドライブレポートで確認できる主な情報

- 運転診断  
アクセル、ブレーキ、ハンドル操作などの運転特性をドライブスコアとして確認できる優れた機能
- エコドライブ  
アクセル、ブレーキ操作からエコドライブ判定。燃費の向上やエコドライブの意識を高めるには最適な機能
- 危険挙動  
急発進、急ブレーキ、急ハンドルの回数を表示。危険挙動のチェックにより、事故の危険性を把握できる
- 走行マップ  
その日に運転した経路を表示するだけでなく、危険挙動が発生した場所を地図で確認することができる

\*1 本サービスは、スマートフォンの機種や周囲の環境によって、一部サービスをご利用いただけない場合があります  
\*2 2017年7月1日以降のご契約が対象です  
\*3 すべての状況において衝撃を感知することを保証するものではありません

# シリーズ最新タイトル『グランツーリスモSPORT』発売開始!

初代『グランツーリスモ』は1997年、実在するクルマを3DCGでリアル再現し、家庭用ゲーム機で遊べるようにするとコンセプトで発売。その衝撃から20年、最新の『グランツーリスモSPORT』で具現化された新たなイノベーションの全容に迫る!

### シリーズ累計出荷数7699万本! FIA(国際自動車連盟)とのパートナーシップを実現

※シリーズ累計出荷数は2017年6月末時点。パッケージ販売本数(SIEから販売店などに引き渡された数量)及びダウンロード販売数の総数



### 現実のモータースポーツのチャンピオンと同様に表彰される FIA公認のオンラインチャンピオンシップ

『グランツーリスモSPORT』ではFIA(国際自動車連盟)とのパートナーシップが実現。これにより、『モータースポーツを生まれ変わらせる』というビジョンのもとにFIA公認のオンラインチャンピオンシップ開催という新たなイノベーションを実現している。

『グランツーリスモSPORT』のオンライン機能である「スポーツモード」では、FIAが公認する

ふたつのオンラインチャンピオンシップ、「ネーションズ・カップ」と「マニファクチャラー・ファン・カップ」が並行して開催。

母国を代表して戦う「ネーションズ・カップ」と自分の好きな自動車メーカーを代表して戦う「マニファクチャラー・ファン・カップ」の両方を楽しむことができ、自分で戦うだけでなく、レース中継を通じて母国や好きなメーカーを応援することもできる。

この両チャンピオンシップの優勝者は、毎年12月に開催されるFIAセレモニーにて、現実のモータースポーツチャンピオンと同じように表彰されるのは凄すぎる。



### 新しい写真の世界「スケープス」愛車と撮影旅行に出かけよう

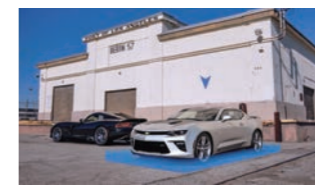


『グランツーリスモシリーズ』は映像のリアルさ、美しさに定評があり、ゲームを体験すれば誰もがその作り込みの凄さに驚かされる。

シリーズ最新作の『グランツーリスモSPORT』では、さらに進化した映像に加え、新たな写真の世界を実現している。これはスケープスと呼ばれる新しい写真フォーマットで、True HD

Rワークフロー、ワイドカラープロセスと物理ベースレンダリング技術から生み出されている。

スケープスには世界各国の街や自然の撮影スポットが収録されていて、そこで愛車の写真撮影を楽しむことができる。収録されている一つひとつの撮影スポットは、光のエネルギー情報に加えて空間情報も持っているため写真の中にクルマを配置することができる。



### 世界の自動車メーカーが「グランツーリスモ」オリジナルのクルマをデザインするプロジェクト『ビジョングランツーリスモ』

『ビジョングランツーリスモ』の取り組みは世界の自動車メーカーが「グランツーリスモ」オリジナルのクルマをデザインするというコンセプトのもと、グランツーリスモシリーズ発売15周年を記念して2013年に立ち上げられたコラボレーションプロジェクトで、実際



マクラレンは2030年以降のスポーツカーの提案モデル、「マクラレン アルティメットビジョン グランツーリスモ」を発表

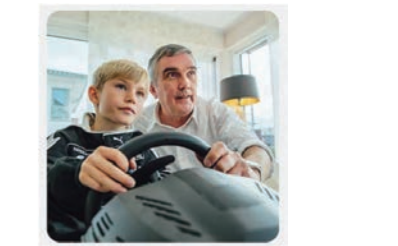
に「グランツーリスモ」の世界観に共感すると同時にクルマ好きへの訴求力の高さから、多くの自動車メーカーがオリジナル車を発表している。

前作『グランツーリスモ6』から『グランツーリスモSPORT』に舞台を移し新章に突入する。

### 初心者でもゼロから技術を学びながらスキルを身につけることができる

『グランツーリスモSPORT』はプロフェッショナルドライバーをも唸らせるリアルな世界。が魅力で、初心者には手が出しづらい、と感じる人がいるかもしれないが、7歳~77歳まで、をコンセプトに、数多くのドライビングアシストが盛り込まれるなど、これまでの『グランツーリスモ』シリーズで最も運転しやすく作られているのも大きな特徴だ。

初めて『グランツーリスモシリーズ』に触る人、徐々にプレイする人、免許を持っている人も持っている人も、ゲームのスキルを上達させることができるモードが用意されている。



『グランツーリスモSPORT』のキャンペーンモードでは、ドライビングゲーム初心者でもゼロからドライビング技術を学びながら、最終的に大きなレースイベントに出場できるまでのドライビングスキルを身につけることができるのは大きな魅力といえる。

ブースめぐりの合間にホテルの味を堪能!

# 東京モーターショー・ダイニング

さまざまなグルメが楽しめるのも東京モーターショーの魅力だが、498席もある広々とした空間で本格的な料理が味わえる「東京モーターショー・ダイニング」の存在をご存じだろうか? これは、東京ベイ有明ワシントンホテルが提供する日替わりメニューを「本日の肉料理」「本日の魚料理」「本日のカレー」の3ジャンルから一つ選べ

るといもの。どの料理も税込み1000円というお値打ち価格だ。会議棟1階へ行くには会場を一度出ることになるので、エントランスホールにある「会議棟連絡口」でスタッフに再入場用リストバンドを巻いてもらおう。エスカレーターで1階へ降りて左に勧めば、「東京モーターショー・ダイニング」はすぐそこだ。

**【場所】**  
会議棟1階  
「レセプションホール」  
**【営業日】**  
10月28日(土)~11月5日(日)  
**【営業時間】**  
平日11:00~15:00(L.O.14:30)  
土日祝11:00~17:00(L.O.16:30)  
**【価格】**1000円(税込み)  
**【総座席数】**498席



東京ベイ有明ワシントンホテル  
調理課 課長  
**鈴木博行氏**  
「東京ベイ有明ワシントンホテルの温かいお料理を日替わりでご用意しております。ぜひお気軽にお越しください」

## 本日の肉料理 ◆ Today's Meat Dish



◆ 豚肉とチーズの  
ミルクソース  
ミルフィーユカツ トマトソース  
(ライス付き)



◆ ローストビーフ丼 お吸い物付き



◆ ハンバーグステーキ  
デミグラスソース  
(ライス付き)



◆ 舌平目のバターソース  
バルサミコ酢風味  
(パン付き)

◆ サーモンフライと海老フライ  
タルタルソース  
(ライス付き)



◆ 海鮮丼 お吸い物付き

## 本日の魚料理 ◆ Today's Fish Dish



◆ ポークカレー  
(サラダ付き)



◆ チキンカツカレー  
(サラダ付き)



◆ シーフードカレー  
(サラダ付き)

## グルメも楽しめる 東京ビッグサイトのお店

気になる次世代モデルや驚きの新技術を見る楽しみと同時に、「食べる楽しみ」についても充実しているのが東京モーターショーの大きな魅力。ランチタイムに、そしてイベント後の懇親会にも使いたい東京ビッグサイト内の注目レストラン&カフェテリア10軒をご紹介します!

### 日比谷マツモトロー(レストラン街) 154席

#### 多彩な洋食が魅力の老舗レストラン

明治36年の創業以来100年以上の歴史を誇る、日比谷公園に本店を持つ老舗レストランの姉妹店。大人気の定番メニューであるオムレツライスをはじめとする多彩な洋食の伝統の味を、緑に囲まれた寛いだ雰囲気の中で堪能できます。



### 和食屋(レストラン街) 100席

#### 座敷付き個室も備える貴重な和食専門店

東京ビッグサイト内では貴重な和食の専門店。季節感あふれる海鮮や井に加え、ざる蕎麦も一緒に楽しめるセットメニューなど、海外のお客様にも大好評。店内にはグループ宴会もできる座敷のある個室も備え、ビジネス商談や懇親会にも最適です。



### カフェテリア マーメイド(レストラン街) 120席

#### カジュアルに楽しめる洋食ランチが魅力

東京・晴海の「ホテルマリナーズコート東京」が運営するカジュアルな雰囲気のカフェテリア・レストラン。肉料理やシーフードのグリルをはじめ、多彩な洋食のランチメニューをご提供。屋外庭園に面した明るい店内でランチタイムを満喫できます。



### ザ・ビッグラウンジ(レストラン街) 220席

#### レストラン街の大型カフェテリア

レストラン街では最大規模となる220席の大型カフェテリア。好評のハンバーグやトンカツ、各種グリルなど、幅広い洋食メニューが魅力。広々とゆったりした空間と、木目調の落ち着いた内装デザインの店内も特徴的。リラックスしてランチが楽しめます。



### 東京ベイキッチン(東展示棟2階ガレリア) 151席

#### 手軽で美味しい和食をスピーディに提供

うどん・そば、ラーメン、丼など、スピーディにランチのとれる和食カフェテリア。とりわけ、出来たての麺類は味わいある出汁も利いて大人気。メニューにはセット物も多く、ビジネスパーソンからご家族連れまで、幅広いお客様に好評です。



### ロイヤルカフェテリア(東展示棟2階ガレリア) 150席

#### しっかりランチからカフェメニューまで

有名チェーン店「ロイヤル」が運営するカフェテリア・レストラン。人気のハンバーグやチキン料理をはじめとする、幅広いメニューをご用意。しっかりランチからちょっとしたカフェメニューまで、お酒を店内で存分にお楽しみください。



### 築地食堂 源ちゃん(東展示棟2階ガレリア) 196席

#### 新鮮な魚介が魅力 夕方からは居酒屋に

魚河岸から厳選して仕入れた魚介を活かしたランチが好評の海鮮食堂。日替わりの焼魚定食やお刺身とのセットなど、新鮮でヘルシーな料理が勢揃い。夕方からは居酒屋メニューが用意されるので、イベント後の宴会やお仲間との懇親会にも最適です。



### カレーショップ C&C ダイニング(東展示棟2階ガレリア) 132席

#### 自慢のカレーを多種多様にご用意

駅や都心でビジネスマンに人気のカレーチェーンが運営するカジュアルなダイニング。自慢のカレーは多彩で、オリジナルメニューの牛タンを使った定食も大好評。海外のお客様向けに新メニュー「マレーシア・マトカレー」もご用意しております。



### 香港飲茶楼 ル・バルク(東展示棟3階) 170席

#### ボリューム満点のコンボセットに注目

東京ビッグサイト内で唯一のカジュアル・チャイニーズ。おすすめは料理(2~3品)と炒飯を組み合わせたボリューム満点のコンボセット。五目揚げや担担麺などの種類も取り揃え、ランチタイムは彩り豊か。200名の貸切パーティもできる大型レストランです。



### フードコート&ビア Eat iT!(会議棟1階) 422席

#### 幅広いメニューが自慢の大型フードコート

東京ビッグサイト内で最大となる422席のフードコート。ステーキや海鮮丼、カレー、つけ麺、釜揚げうどんなどの幅広いメニューからお好みの料理を選択可能。ソフトドリンクのほかビールや各種アルコールも揃え、懇親会や大型パーティにも便利です。





# グルメキングダム 2017

TOKYO MOTOR SHOW 2017 BEYOND THE MOTOR TIMES **食べあるキング**

第45回東京モーターショー2017のテーマに合わせ、「次世代」の野外グルメイベントを開催。  
SNS時代を代表するグルメユニット「食べあるキング」のメンバーたちが厳選した、  
ココでしか食べられない名店グルメが、西展示棟・屋上展示場に結集します。  
予約が取れないお店や、イベント初登場のお店など、どれも大注目です!



有名プロデューサー、  
**フォーリンデブはっしー**

グッドデブニ〜ング! フォーリンデブはっしーです。前回好評いただいた「グルメキングダム」が、今回さらにパワーアップしてカムバック! チーム「食べあるキング」が全力を注ぎ、今までにない名店だけを集めました。

どれも太鼓判、いや、太鼓腹を押せるグルメの数々です。ぜひ、デプリシヤなグルメキングダムで腹ごしらえをして、東京モーターショー2017を楽しみ尽くしてください!



デカ盛りグルメ担当 > **もえのあずき**

**西麻布 けんしろう**  
◎必殺!! けんしろうステーキ丼

高級焼肉割烹として西麻布の地に誕生した「けんしろう」。そのなかで唯一無二の料理として君臨するけんしろう焼きを井として特別販売。さらにメガ盛りメニューもあり! 自信のある方は大食いチャレンジも楽しんでください!



デートグルメ担当 > **スイーツ番長**

**巨牛荘**  
◎和牛ブルコギ焼うどん

焼肉通の多い業界人を引き付け、「究極の焼肉屋」と絶賛される「巨牛荘」が満を持して出店! 和牛カルビの薄スライスを、秘伝の醤油ダレに漬け込んだ自慢の「ブルコギ」。その肉汁で仕上げた「名物」締め焼うどんがイベント初登場!



ナポリピッツァ担当 > **Jaffa**

**真のナポリピッツァ協会**  
◎黄金のマルゲリータ

ナポリに本部を置く「真のナポリピッツァ協会」は、イタリア政府公認の伝統と格式のある団体です。商業イベント初出店。全国から集まる人気ピッツァ職人が毎日薪窯で焼く、黄色いトマトを使った黄金のマルゲリータが、ポ〜ノ!



激辛グルメ担当 > **金成姫**

**中国菜 老四川 飘香(ピャオシャン)**  
◎本場四川の汁なし担担麺

あさイチでお馴染み、井桁良樹がオーナーシェフを務める四川料理店。本場のスパイスが食欲そそる、名物「汁なし担担麺」と東京モーターショー限定「汁あり担担麺」。パクチーや温玉のトッピング、痺れや辛さもお好みで調整できます。



バル担当 > **すずきB**

**肉バル ゴリズキッチン**  
◎溢れる肉汁!ダブルパティのチーズバーガー

量り売りのステーキをカジュアルに提供する「肉バル ゴリズキッチン」。肉バルならではのボリューム感のある超粗挽き「ダブルパティ」&「ダブルチーズ」をこだわりのパンズでサンドしました。フライドポテトやドリンクもセットでお付けします。

> **グルメキングダム メイン会場案内**

時間:各日10時~20時(日曜日のみ18時まで) 場所:西展示棟・4F 屋上展示場(エスカレーター上がってスグ)



カレー担当 > **はびい**

**格之進Nikutell**  
◎格之進メンチカツ熟成肉カレー

門崎熟成肉を気軽に、岩手食材をふんだんに取り入れた、ハンバーグ、メンチカツが人気の肉ビストロ。黒毛和牛から創り出した調味料「牛醬」入りの無添加の門崎熟成肉カレーに、メンチカツをトッピングしております。



ラーメン担当 > **本谷亜紀**

**麺屋宗**  
◎金色香味塩らぁ麺

日本一に輝いた塩ラーメン! 全国のラーメンイベントで数々の記録を塗り替えた人気店。鶏と魚介の旨味をとじこめたスープに、こだわりの塩をブレンドした、スッパリとしながらも奥行きのある至福の一杯。炙りチャーシューも!



B級グルメ担当 > **はんつ遠藤**

**EFE KEBAB**  
◎ケバブサンド

日本一美味しいケバブを決める「ケバブグランプリ」で3連覇達成のすえ殿堂入り!! EFEの絶品ケバブです。ケバブ肉の仕込みからソースまでこだわりぬいた一品は、一度食べたらハマること間違いなし。肉も野菜もたっぷり入っています!



和食担当 > **里井真由美**

**とらふぐ亭**  
◎極上のふぐうどん

国産高級とらふぐにこだわってきたとらふぐ専門店が提供する、ふぐの出汁広がる「ふぐうどん」。ふぐの身、皮、そして出汁、素材の旨味を存分に引き出した一杯。スパイスと秘伝のソースを絡めた「ピリ辛ふぐ唐揚げ」もご用意しております。



女子会グルメ担当 > **田中里奈**

**café 1886 at Bosch**  
◎ウィーン(ハムカツサンド)・ポテトドリンク セット

自動車機器や電動工具のドイツ企業「ボッシュ」の直営カフェ。銀座の名店「マルディ・グラ」和知徹シェフ監修のコーヒーカレーパウダーがほんのりスパイシーなハムカツサンドをご用意。サクサク&ジュシーな味わいです!



トレンドグルメ担当 > **はあちゅう**

**Shangri-La's secret** / シャングリラス シークレット  
◎秋香キノコのブラックスープ& トリュフの和牛リゾット 黒毛和牛煮込み添え

イベント初登場のきのこしゃぶしゃぶ専門店。30種類の天然きのこをじっくり煮込んだブラックスープのリゾットに、六本木「金肉」のA5ランク黒毛和牛をのせたコラボメニュー! ここでしか味わえない、極上の旨み溢れる秋が詰まった逸品。



餃子担当 > **塚田亮一**

**神戸南京町 皇蘭**  
◎焼小籠包

「皇」は皇帝、「蘭」は花の中で最も優雅で気品の高さを表し、「味の王様になってみたい」、「最高を極めた商品をご提供したい」との願いを込め、こだわり点心を作る皇蘭。神戸南京町で育んだ技と伝統の味、溢れ出す旨味スープが詰まった「焼小籠包」をご賞味あれ!



旅グルメ担当 > **西村愛**

**職人のからあげ 華鳥**  
◎中津からあげ

からあげの聖地と言われる大分県中津の人気店。熟成ダレとオリジナルペストを配合し、子供が食べても辛いと言わない程度のにんにくを利かせた味付けは、冷めても美味しく食べ歩きにも最適! その味を大分ではなく東京で!



かき氷担当 > **あまいけいき**

**雪うさぎ**  
◎東京いちごみるく(かき氷)

かき氷ブームの火付け役が東京モーターショー限定メニューを考案! 果物の栄養素や風味を壊さずに加工したスイートビューレを使用し、究極の苺シロップに仕上げました。自慢の自家製みるくもたっぷりなふわふわのかき氷です。

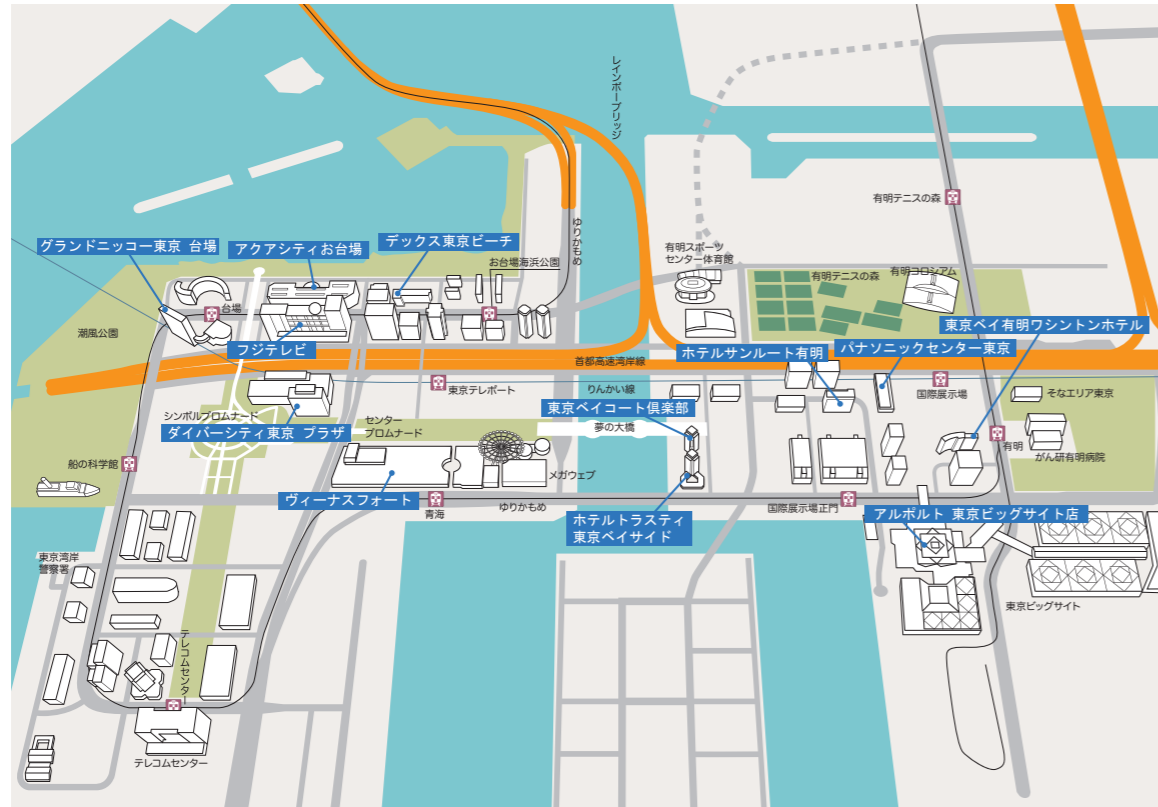
> そのほかにも東展示棟・屋上休憩エリアに8店舗が出店!

- spice(アメリカンビーフバーガー)
- ぜんこく麺コク(鶏白湯らぁ麺)
- ココロ焦ガレ(壺漬けハラミステーキ丼)
- メディトレーナ(アメリカンロングポテト)
- 仙台牛タン専門店 陣中(仙台厚切り牛タン串)
- 元祖博多からあげ専門店 田中屋(博多からあげ)
- 焼肉ダイニング べこ亭(べこ亭/牛すじ黒カレー)
- RETHINK CAFÉ(コーヒー)

東京モーターショーといっしょに楽しみたい!

お得なサービス盛りだくさん

# 臨海副都心エリアを楽しむ



**東** 京モーターショーが開催される東京ビッグサイトが位置するのが臨海副都心だ。臨海副都心エリアは近未来的な建築物が多く並ぶ東京のベイエリアでもあるが、実はその歴史は古い。

臨海副都心エリアの一部である「お台場」は日本各地のみならず、世界中からも多くの人が訪れる東京の名所に成長した。「お台場」は実は江戸時代の「台場」が由来である。鎖国をしていた江戸幕府が外国船の進入を食い止めるために、11基の砲台(=台場)を築く計画を立てていた。実際には8基が建造され、現在は第三台場と第八台

場が残っている。第三台場は「台場公園」として公開されている。

1999年の石原慎太郎氏の都知事就任でこのエリアの開発が加速し、アミューズメント施設や大規模商業施設が並ぶアジア屈指のベイエリアになったのだ。東京都港湾部の調査によれば、平成10年の臨海副都心エリアへの来訪者は2510万人だったが、平成28年には5660万人を記録しているなど、今後の成長も楽しみなエリアである。

またこのエリアの特徴として挙げられるのが緑の多さ。有明テニスの森や、潮風公園といった緑地帯のみならず、いたる所に緑が残っており、東京湾から吹く涼や

かな風とのコントラストも魅力的。そんな自然豊かな環境を活かし、開催まで3年を切った2020年東京オリンピック/パラリンピックでもこの臨海副都心エリアは大きな活躍をする予定だ。競技会場としては水泳、トライアスロンなどが予定されている。

今後も目の離せない臨海副都心エリアの12の施設では東京モーターショー期間中、訪れた来場者にお得なサービスを実施している。この冊子を見せるだけで、特典が受けられる。東京モーターショーを満喫した後は、ぜひここに掲載された施設でゆっくりしてみるのはいかがだろうか?



## 1 フジテレビ 「はちたま」 入場料20%OFF

フジテレビ本社屋25階の球体展望室「はちたま」は、毎日たくさんの人が訪れるフジテレビのシンボルです。270度見渡せる大パノラマは、東京の主要なランドマークのすべて、また天気の良い日には富士山も望めます! 週末の土日にはフジテレビキャラクター「ラブくん」も登場。運がよければ会えるかも! 本誌持参で入場料が20%OFFの大人(高校生以上)が440円、小中学生は240円に。絶景を楽しもう!!



**営業時間** 月曜日を除く毎日開館(祝日の場合は翌日)  
10:00~18:00 ※入館は営業時間終了の30分前まで

**アクセス** ゆりかもめ「台場」駅から徒歩3分  
りんかい線「東京テレポート」駅から徒歩5分

## 3 アクアシティお台場 館内ショップ&レストラン クーポンプレゼント

アクアシティお台場はロケーション抜群の大型複合ショッピングセンターです。地区最大級のグルメゾーンには、全国各地の人気ラーメン店が並ぶ「東京ラーメン国技館」もありません。フードコート「ODAIBA FOOD COURT」もぜひご家族でご利用ください。3Fインフォメーションカウンターにて本誌を提示すると館内ショップ&レストラン約60店舗で使えるお得な特典が満載の「ナイスクーポン」をプレゼント!



**営業時間** 物販店舗/11:00~21:00  
飲食店舗/11:00~23:00  
※クーポン引き替え受付時間 11:00~21:00

**アクセス** ゆりかもめ「台場」駅から徒歩1分  
りんかい線「東京テレポート」駅から徒歩6分

## 5 ヴィーナスフォート 「対象店舗でお得になる グルメクーポン」 プレゼント

中世ヨーロッパの街並みを模した館内に、約160のショップ・レストランが軒を連ねる屋内型ショッピングモール。3Fはアウトレットショップやホビーショップが充実、2Fは最新のファッション・ジュエリー・コスメが、1Fはキッズ・ペット・インテリアショップなどが並ぶファミリー向けフロアです。2Fインフォメーションで本誌を提示すると「グルメクーポン」をプレゼント。館内対象店舗にて利用可能。



**営業時間** ショッピング・サービス 11:00~21:00  
レストラン 11:00~23:00 (※一部店舗・期間により異なります)  
クーポン引換時間:11:00~21:00

**アクセス** ゆりかもめ「青海」駅直結  
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩約3分

## 2 東京ベイ有明ワシントンホテル 1階 プッフェレストラン 「ジョージタウン」(バル) ワンドリンクサービス

ランチプッフェではローストビーフを、お客様の目の前でカット。ディナープッフェでは、ローストビーフに加え江戸前握り寿司など旬のネタをご用意しております。併設されるバル風ダイニングは料理もお酒も本格的なのにリーズナブル。バルでは本誌の提示でワンドリンクサービスを実施します。コミュニケーションの場としてもお気軽にお立ち寄りいただけます。イタリアワインにぴったりなお料理でおもてないたします。



**営業時間** ラunch/平日11:30~14:00 (L.O.14:00)・土、日、祝日11:30~14:30 (L.O.14:30)  
ディナー・バル/終日17:30~21:30 (L.O.21:15最終入店21:00)

**アクセス** ゆりかもめ「国際展示場正門」駅または「有明」駅下車徒歩3分  
りんかい線「国際展示場」駅下車徒歩3分

## 4 デックス東京ビーチ 「デックスプレミアムカード」 をプレゼント

デックス東京ビーチは船をモチーフにしたショッピングセンター。まるで船のデッキにいるような雰囲気はデートにも最適。夜間には全長約200mのイルミネーションもあり、お台場を満喫するには最適なスポットです。本誌をシーサイドモール3Fインフォメーションカウンターで提示すると、対象ショップでお得な特典を受けられる「デックスプレミアムカード」をプレゼント。お得にショッピングを楽しもう。



**営業時間** 11:00~21:00  
(飲食店は~23:00。店舗により異なる)

**アクセス** ゆりかもめ「お台場海浜公園」駅から徒歩2分  
りんかい線「東京テレポート」駅から徒歩5分

## 6 ダイバーシティ東京 ブラザ ショッピングや食事が お得になるクーポン プレゼント

ダイバーシティ東京 ブラザは、国内外の人気カジュアルブランドが一堂に集結し、様々な体験ができる大型エンターテインメント施設をはじめ、お台場最大級のフードコートや五感で楽しめるレストランフロアなど、多様性と話題性に富んだ見所満載の複合型商業施設です。そんなダイバーシティ東京ブラザをお得に楽しめる特別クーポンを3F総合案内所にて本誌提示でプレゼント。お得にダイバーシティ東京ブラザを楽しもう!!



**営業時間** ショッピング・サービス 10:00~21:00 フードコート 10:00~22:00  
レストラン 11:00~23:00 (※一部店舗は異なります)  
クーポン引換時間 10:00~21:00

**アクセス** ゆりかもめ「台場」駅徒歩5分  
りんかい線「東京テレポート」駅B出口徒歩3分

## 7 パナソニックセンター東京 ソフトドリンク1杯 プレゼント

りんかい線「国際展示場」駅のすぐそばにあるのがパナソニックセンター東京。パナソニックの東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けた取り組み紹介のほか、モーターショー期間中は東京2020公認プログラム「いっしょにTOKYOをつくろう。」特別企画展「The Passions～みんなの熱が未来をつくる～」を開催中。またパナソニックセンター東京2Fにあるカフェ「E-FEEL」にて本誌提示で、お一人様に指定のソフトドリンク1杯をサービス。



**営業時間** 10:00～18:00  
月曜日休館

**アクセス** りんかい線「国際展示場」駅徒歩2分  
ゆりかもめ「有明」駅徒歩3分

## 9 ホテルサンルート有明 レストラン「創菜Patio」ランチ10%OFF、 「ブレンドマイスターカフェ」 ディナーワンドリンクサービス

ホテルサンルート有明にあるレストラン「創菜Patio」とカフェ&バー「ブレンドマイスターカフェ」。「創菜Patio」の料理長おすすめ「ローストビーフ」は、和風おろしソースでさっぱりと食べられます。本誌提示でランチタイム10%オフ。「ブレンドマイスターカフェ」では横浜ビールを中心に、多彩な銘酒とカフェフードが楽しめます。ディナーで本誌を提示すると対象ドリンクをワンドリンクサービス。



**営業時間** 「創菜Patio」朝食 6:00～10:30(最終入店10:00) ランチ 11:30～14:30(最終入店14:00) ディナー 17:00～22:30(L.O. 21:30) 「ブレンドマイスターカフェ」月～土 10:00～23:00(L.O. フード22:00 / ドリンク22:30) 日・祝日 10:00～22:00 (L.O. フード21:00 / ドリンク21:30)

**アクセス** りんかい線「国際展示場」駅徒歩7分  
ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩3分

## 11 東京ベイコート倶楽部 「RISTORANTE OZIO」 ランチ/ディナー優待

完全会員制ホテル「東京ベイコート倶楽部」内にあるイタリアンレストラン「RISTORANTE OZIO」で本誌を見せると「ランチコース(2800円/4800円/7000円)」が20%OFF、「ディナーコース(7000円/10000円/15000円)」が30%OFFに。さらにランチ・ディナーともに指定のワンドリンクをサービス。10月28日(土)～12月8日(金)まで。利用の際には事前予約が必要。



**営業時間** ランチタイム 平日11:30～14:00(L.O.) / 土・日・祝 11:30～14:30(L.O.)  
ディナータイム 17:30～21:30(L.O.)

**アクセス** ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩5分  
りんかい線「国際展示場」駅徒歩10分

## 8 アルボルト 東京ビッグサイト店 ワンドリンク サービス

イタリアンの名店「アルボルト」の片岡護シェフのプロデュースによる、東京ビッグサイト会議棟最上階(8F)のイタリアンレストラン。季節感豊かな厳選された食材を生かした料理の数々を、ベイエリアの夜景を眺めながら堪能できます。多彩なディナーコースと豊富なワインを用意しており、すてきな一時になるはず。本誌の提示でディナー時にワインまたはソフトドリンク1杯をサービス。



**営業時間** ランチ 11:00～15:00(L.O.14:00)  
ディナー 17:00～22:00(L.O.21:00)

**アクセス** りんかい線「国際展示場」駅徒歩7分  
ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩3分

## 10 グランドニッコー東京 台場 ガーデン ダイニング ランチbuffet10%OFF

グランドニッコー東京 台場はレインボーブリッジなどを見渡せるベイエリアに建ち、お台場観光や東京観光の拠点としてのみならず、ウェディングやレセプションなどにも最適なホテル。そのなかの「ガーデンダイニング」は緑が広がるテラス席に心地よい海風に日光が降り注ぎ、自然を満喫しながらランチが食べられる。今回はランチタイムに本誌を提示すれば10%オフの特典を受けられる。



**営業時間** ランチbuffet 11:30～15:00

**アクセス** ゆりかもめ「台場」駅直結  
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩10分

## 12 ホテルラステイ東京ベイサイド 「ラウンジオーレ」の ランチ&ディナー20%OFF

東京ベイコート倶楽部と同じリゾートトラスト(株)が運営するホテル「ホテルラステイ東京ベイサイド」。そのなかでも人気のラウンジである「ラウンジオーレ」は、広い空間でゆったりくつろげ、スタンディングスタイルのカウンターもある大人な雰囲気のお店。それでいてランチコースは1200円～とリーズナブルな魅力のひとつ。本誌提示でランチとディナーが20%OFFに。



**営業時間** ランチ 11:30～14:00(L.O.14:00)  
ディナー 17:00～23:00(L.O.フード22:00 / ドリンク22:30)

**アクセス** ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩6分  
りんかい線「国際展示場」駅徒歩10分

進化の出発点に  
愛情がある。



月に一度は空気圧の点検を! ☎0120-39-2788  
<http://tyre.dunlop.co.jp/>



## 西3ホールのトミカブースへお越しください!!



<出展内容>  
・モーターショー開催記念トミカ及び人気コンテンツのトミカを販売  
・大ジオラマや参加型アトラクションもご用意しています

## 自分の手でクルマを作ってみよう!

### ■カーモデル制作ワークショップ

実際にカーデザイン開発に使用されている「インダストリアルクレイ」を使って、カーモデルに興味がある学生(高校生、専門学校生、大学生)を対象に、プロのカーモデラーとともに1/5のスケールモデルの制作を体験できる講座です。

**●日程**  
10月25日(水) デモンストレーション(武蔵野美術大学)  
10月26日(木) デモンストレーション(武蔵野美術大学)  
※上記2日間はプレスデーの為デモンストレーション。  
10月27日(金)、10月30日(月)、10月31日(火)  
11月1日(水)、11月2日(木)

**●時間** 11:00～17:00  
**●体験方法** 開始時間より順次体験  
(空きスペースが無い場合はお待ちいただく場合がございます)  
**●場所** 西4ホール TOKYO CONNECTED LAB 会場内特設スペース  
**●主催** 株式会社ツールズインターナショナル

### ■親子でつくろう! カーモデル教室

インダストリアルクレイ(ねんど)を使って、世界にひとつだけのカーモデルを作る事が出来ます。実際にカーデザイン開発に使用されている「インダストリアルクレイ」を使って、プロのカーモデラーのサポートを受けながら、親子でオリジナルカーモデルに挑戦するワークショップを実施。小学生3年生以上・中学生対象。

**●日程**  
10月28日(土)、10月29日(日)、11月3日(金)  
11月4日(土)、11月5日(日)

**●時間**  
[1回目] 11:00～13:00(約2時間)  
[2回目] 14:30～16:30(約2時間)  
**●体験方法**  
当日10:00より先着順受付を実施(1回10名程度)  
**●場所** 西4ホール TOKYO CONNECTED LAB 会場内特設スペース  
**●主催** 株式会社ツールズインターナショナル

※保護者の同伴が必須



### ●プレスセンター協力



実際にカーデザイン開発に使われている「インダストリアルクレイ」を使って、自分のクルマが作れる

ディズニー／ピクサー【カーズ／クロスロード】MovieNEX 発売記念

# 東京モーターショー 2017

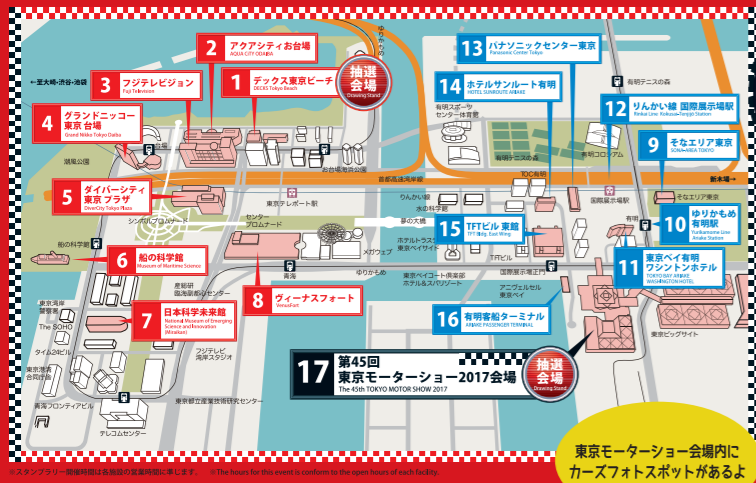
## 臨海副都心スタンプラリー

開催期間 ▶ 10/28(土) ▶▶ 11/5(日) Dates: 10/28 (Sat)-11/5 (Sun)

Celebrating the release of Disney/Pixar "Cars 3" MovieNEX,  
Tokyo Motor Show 2017 Rinkai Fukutoshin stamp rally



「カーズ／クロスロード」MovieNEXのスタンプを集めて、素敵な賞品をGETしよう!!  
Collect "Cars 3" stamps to win exciting prizes!



東京臨海副都心まちづくり協議会会員施設等を巡ってスタンプを集めよう!  
スタンプを3種類以上集めて見事ゴールすると抽選で、素敵な賞品をプレゼント!!  
抽選に外れても、参加賞としてオリジナルクリアファイルを差し上げます。

Visit various Tokyo Rinkai Fukutoshin City Planning Council Member Facilities and collect stamps to win exciting prizes!  
Participants who collect three stamps will win an original plastic folder!  
Prizes will be distributed only while supplies last. \*The stamp rally locations may be subject to change without notice.

(お問い合わせ先) 臨海副都心スタンプラリー事務局 TEL:03-5565-4337 受付時間 平日 10:00 ~ 17:00 (祝日) 一般社団法人 東京臨海副都心まちづくり協議会

東京モーターショー会場内に  
カーズフォトスポットがあるよ



## 自分を、もっともっと連れ出すんだ。

人は生まれながらにしてさまざまな可能性を秘めている。  
そして、外に広がる世界に飛び出して、初めて可能性は動きはじめる。  
今を、未来を変える力になっていく。

さあ、自分を、もっともっと連れ出すんだ。見晴らしのいい場所へ。  
あらゆる人々、あらゆる価値観、あらゆる生活と出会い、向き合い、ときに葛藤することで、  
自分の可能性を広げて、なにかを生み出すんだ。

人には、それができる。

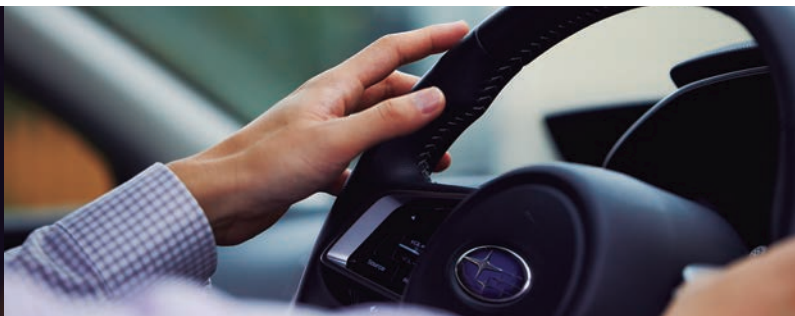
Hondaは、人とともに前に進みたい。  
夢があるから失敗を恐れず、夢の実現へとチャレンジする。新しい感動と、新しい喜びを求めて。  
世界中の人びとの可能性が広がることに、その挑戦はつながっていくから。





SUBARU

Confidence in Motion



# NEW SUBARU STORY

モノをつくる会社から、笑顔をつくる会社へ。



SUBARU **VIZIV** CONCEPT  
PERFORMANCE

安心と愉しさを。SUBARU

SUBARU 東京モーターショー 2017 <https://www.subaru.jp/tms/>

